

2013 年度秋学期 藁谷郁美研究会

卒業論文

日本における
ディズニーへの原点回帰に関する考察

—『リトル・マーメイド』から見る

アメリカ文化の受容と再構成について—

指導教員：藁谷郁美教授

慶應義塾大学総合政策学部 4年

学籍番号：71005415

富樫 愛

【目次】

第1章 本稿の枠組み

| | | |
|-------|----------|---|
| 1.1 | 問題意識と背景 | 5 |
| 1.2 | 本研究の位置付け | 5 |
| 1.3 | 仮説と研究意義 | 6 |
| 1.4 | 研究手法 | 7 |
| 1.4.1 | 作品の選定① | 7 |
| 1.4.2 | 作品の選定② | 8 |
| 1.4.3 | 作品分析 | 9 |
| 1.4.4 | 聞き取り調査 | 9 |

第2章 作品分析① 絵本を用いた比較

| | | |
|---------|--------------------------|----|
| 2.1 | ディズニー童話『リトル・マーメイド』概要 | 11 |
| 2.2 | 英語版絵本『リトル・マーメイド』にみられる特徴 | 12 |
| 2.2.1 | テキスト分析 | 12 |
| 2.2.1.1 | 登場人物の名前について | 12 |
| 2.2.1.2 | スクリプトについて | 15 |
| 2.2.2 | 挿絵（画像データ）分析 | 17 |
| 2.2.2.1 | 挿絵数とページ数の割合 | 17 |
| 2.2.2.2 | 展開における挿絵の枚数 | 17 |
| 2.2.2.3 | 各登場人物の登場回数 | 18 |
| 2.2.2.4 | 挿絵の色使い・描写とそれが与える印象 | 20 |
| 2.3 | 日本語版絵本『リトル・マーメイド』にみられる特徴 | 22 |
| 2.3.1 | テキスト分析 | 22 |
| 2.3.1.1 | 登場人物の名前について | 22 |
| 2.3.1.2 | スクリプトについて | 23 |
| 2.3.2 | 挿絵（画像データ）分析 | 25 |
| 2.3.2.1 | 挿絵数とページ数の割合 | 25 |
| 2.3.2.2 | 展開における挿絵の枚数 | 26 |
| 2.3.2.3 | 各登場人物の登場回数 | 27 |

| | | |
|------------------------------|--|----|
| 2.3.2.4 | 挿絵の色使い・描写とそれが与える印象 | 29 |
| 2.4 | 英語版絵本と日本語版絵本の比較 | 31 |
| 2.4.1 | テキストから見る日米の共通点と相違点 | 31 |
| 2.4.1.1 | 共通点 | 31 |
| 2.4.1.2 | 相違点 | 31 |
| 2.4.2 | 挿絵（画像データ）から見る日米の共通点と相違点 | 32 |
| 2.4.2.1 | 共通点 | 32 |
| 2.4.2.2 | 相違点 | 35 |
| 第3章 作品分析② 絵本と映画を用いた比較 | | |
| 3.1 | 英語版映画『THE LITTLE MERMAID』にみられる特徴 | 37 |
| 3.1.1 | 英語版映画『THE LITTLE MERMAID』の社会背景 | 37 |
| 3.1.2 | テキスト分析 | 37 |
| 3.1.1.1 | 登場人物について | 38 |
| 3.1.1.2 | スクリプトについて | 39 |
| 3.2 | 英語版映画と日本語版絵本との比較 | 42 |
| 3.2.1 | 原作（英語版映画）から削除された要素 | 42 |
| 3.2.2 | テキストから見る日米の共通点と相違点 | 47 |
| 3.2.2.1 | 共通点 | 47 |
| 3.2.2.2 | 相違点 | 47 |
| 第4章 考察 | | |
| 4.1 | 総合的に判断される アメリカで受容される『リトル・マーメイド』の要素と特徴 | 52 |
| 4.2 | 総合的に判断される 日本で受容される『リトル・マーメイド』の要素と特徴 | 53 |
| 4.3 | 考察 | 56 |
| 4.4 | 今後の展望 | 57 |
| 謝辞 | | 59 |
| 参考資料 | | 60 |
| 添付資料 | | 61 |

【添付資料・図表リスト】

添付資料

- ① 英語版絵本「THE LITTLE MERMAID」と
日本語版絵本「リトル・マーメイド」のスク립ト比較・コード化.....62

- ② 日本語版絵本「リトル・マーメイド」と
英語版絵本「THE LITTLE MERMAID」挿絵比較・コード化89

- ③ 日本語版絵本「リトル・マーメイド」と
英語版映画「THE LITTLE MERMAID」とのスク립ト比較・コード化.....112

- ④ 聞き取り調査詳細（講談社ディズニー出版部）191

- ⑤ 聞き取り調査詳細（ウォルト・ディズニー・ジャパン）193

図表

- 表1：英語版絵本における挿絵数17
- 表2：英語版絵本における各登場人物の登場回数18
- 表3：日本語版絵本における挿絵数25
- 表4：日本語版絵本における各登場人物の登場回数26
- 表5：英語版絵本と日本語版絵本における共通の挿絵33

第1章 本稿の枠組み

1.1 問題意識と背景

1950年、日本で初めて、ウォルト・ディズニー・カンパニー¹による映画が公開されて以来現在に至るまで、ディズニー作品は日本で愛され続けている。ディズニー映画²の世界を再現したテーマパークである東京ディズニーリゾート³は、2012年レジャー産業分野のシェアを単独で45%占め、2012年、2013年と過去最高の入園者数を記録し続けている⁴。また、ディズニー作品に登場するキャラクターは身の回りのあらゆる商品で使用され人気も高く、今や「ディズニー」の名を知らない人はほとんどいない。

しかし、そもそもアメリカの企業によって生み出された作品にすぎないディズニー作品が、日本でどうしてここまで受容されているのだろうか。

この問いに対し、本稿では、ディズニー絵本⁵及びディズニー映画を用いて、戦後日本におけるアメリカ文化の再構成について言及していく。これにより、日本におけるディズニーが、もはやアメリカ本国で受容されるそれとは異なる形で日本独自の文化として定着していることを示し、なぜそのような現象が起きるかを明らかにしていく。

1.2 本研究の位置付け

これまでも、ディズニー絵本やディズニー映画を対象とする研究はされてきた。『ディズニーとライバルたち—アメリカのカートゥン・メディア史』（2004有馬）⁶では、アメリカにおけるディズニー作品と他のアニメーション作品との比較研究が、『アンデルセン「人魚姫」とディズニー「リトル・マーメイド」：「原作を知ること」の理解と実際』（2001北川）⁷では、親が子に与える絵本の選び方という観点から、原作であるアンデルセン童話とそこから生まれたディズニー童話「リトル・マーメイド」との比較研究がおこなわれている。さらに、『平成18年度

¹ウォルト・ディズニー（1901–1966）によって創設されたウォルト・ディズニー・カンパニーの作品は、現在、絵本、映画のみならずテーマパーク等、多岐にわたる分野で親しまれている。このため現在「ディズニー」という言葉は多義化している。本稿では定義の混乱を避ける為、ウォルト・ディズニー・カンパニーが製作した文学作品を総称して「ディズニー作品」と呼ぶ。

²ディズニー作品の中で絵本を総称して「ディズニー絵本」と呼ぶ。

³ウォルト・ディズニー・カンパニーから業務委託を受け、株式会社オリエンタルランドによってフランチャイズ経営されているテーマパークを総称し、「東京ディズニーリゾート」と呼ぶ。さらに、その構成要素として「東京ディズニーランド」、及び「東京ディズニーシー」を使用する。

⁴株式会社オリエンタルランド第53期（2013年3月期）有価証券報告書より

⁵ディズニー作品の中で絵本を総称して「ディズニー絵本」と呼ぶ。

⁶有馬哲夫（2004）『ディズニーとライバルたち—アメリカのカートゥン・メディア史』

⁷北川公美子（2001）『アンデルセン「人魚姫」とディズニー「リトル・マーメイド」：「原作を知ること」の理解と実際』

改訂版の中学校英語教科書の特徴分析―ディズニー映画との語彙面の比較分析を中心に』(2006 中村)⁸では、英語教育の中で触れるディズニー作品という観点から、複数のディズニー映画の スクリプトを分析する研究も存在する。

また、日本人が幼少期教育を通して受容するディズニー作品が、その後に人格形成にどのような影響を与えるか、という観点での研究も存在する。具体的にはディズニー・プリンセス⁹と呼ばれるキャラクター達の性格及び作中での描かれ方が、当時の社会的背景をどのように反映し、当時の女性の社会的立場とどのような関連性を持っていたかについて、映画作品を用いた比較研究がされている¹⁰。この論文では、「ウォルト・ディズニー・カンパニーが製作したプリンセス映画について、原作との違いや作品が生まれた社会的背景、時代の変遷とともにどのように表現され、なぜこのような女性像が生まれたのか、どのように社会に影響を与えてきたのか」¹¹について考察されている。

しかしこのような研究がある中で、これまで日本においては、ディズニー作品について同タイトルの絵本と映画を比較することで差違を見出そうとするものはなく、この2つはむしろ同一視されてきた。その結果、日本とアメリカで受容されるディズニー作品の差違を、それぞれの国で受容される絵本と映画の比較によって見出そうとすることは、研究の対象としてみられなかった。

本研究は、ディズニー作品がいったいどのような輸入作業を経て、どのような形で日本の絵本、映画として新たな価値を持つのか、その新たな価値とはどのような要素を含むのかを考察する点において、新規性がある。そしてこの考察によって、そもそも日本で受容されるディズニー絵本のみが持つ特徴を明らかにし、それを消費した人々がどのような影響を受けうるか、について提言することができる。

1.3 仮説と研究意義

ここで、1.1を踏まえ、本稿では、以下の仮説を設定する。

日本におけるディズニー作品は現在、アメリカで生まれたときとは異なる様式で受容されており、その姿はもはや日本独自の文化と言えうるのではないだろうか。アメリカを発祥とするディズニー作品が日本でどう受容されているかを明らかにすることで、日本におけるアメリカ文化の受容の仕方の一例を明らかにすることができるのではないかと。

⁸中村洋 (2006) 『平成 18 年度改訂版の中学校英語教科書の特徴分析―ディズニー映画との語彙面の比較分析を中心に』

⁹ ディズニー作品の中には、「お姫様」の立場のキャラクターを主人公とするものが多く存在する。そのなかでも特に有名な作品の主人公をまとめて、「ディズニー・プリンセス」と呼ぶ。

¹⁰ 『ディズニー映画のプリンセス物語に関する考察』東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. I, 62: 87-122 (2011 李、高橋) P.87

¹¹ 『ディズニー映画のプリンセス物語に関する考察』東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. I, 62: 87-122 (2011 李、高橋) P.87

そして、この仮説を明らかにするため、戦後、西欧化教育を受けてきた世代が幼少期に触れたディズニー作品を対象とし、日米での需要のされ方がどう違うのか分析を行う。具体的作品は、『リトル・マーメイド』を用いる。これについて、日本人がディズニー作品に触れる最初の日機である絵本を、日本版、アメリカ版で比較し、スクリプト・挿絵それぞれについて、相違点および類似点を分析する。その後、絵本作製の基となった映画『リトル・マーメイド』について、英語版・日本語版でスクリプトを比較し、これにおいても相違点および類似点を分析する。

これにより、そもそも日本にディズニー作品が輸入される際に、誰のどのような意図が働いたのかも加味しながら日本におけるディズニーがもはや本国とは異なるものとして日本に存在していることが明らかにし、日本で独自の文化として再構成されていることを明らかにすることができる。

1.4 研究手法

本研究を進めるにあたり、手法として、研究対象とする作品の選定、作品分析、聞き取り調査を行った。

1.4.1 作品の選定①

まず、研究対象とする作品の選定についてである。仮説を明らかにするためには、日本におけるディズニー絵本、およびディズニー童話の消費者が、人生の中でもとりわけ幼少期に触れた媒体を対象とせねばならない。「絵本は、誰もが一度は幼少期に接触し得るものであり、(中略)文字の認識が困難な発達段階における子どもは、当然ながら親などの他者が絵本を読み聞かされることになる」(2010山本)¹²と示されていることから、幼少期に親から読み聞かせられる絵本が最適であるといえる。

加えて、数あるディズニー作品の中でも認知度が高く、多くの人に消費されていることも条件としてあげられる。更には、もととなった作品¹³とディズニー童話の間で著しく結末が異なるものであれば、そこにディズニー側の消費者への意図が組み込まれているといえる。日本に輸入される際にはそこからさらに、製作者によって多くの取捨選択がされている可能性も生まれる。

以上の点より、対象としてまず、以下を比較研究することとする。

¹² 参考文献に入れて消す「絵本を手がかりとした幼少期における自伝的記憶の内容分析」(2010山本晃輔)

¹³ 映画及び絵本の「リトル・マーメイド」「THE LITTLE MERMAID」は、アンデルセン童話「人魚姫」を原作としている。ディズニー作品の多くが、アンデルセン童話やペロー童話などの古典文学作品を原作として、作られている。

日本語版絵本 『ディズニースーパーゴールド絵本 リトル・マーメイド』

著者 森 はるな

構成 斎藤 妙子

出版社 講談社 (2010年7月28日第1刷発行、2012年1月12日第4刷発行)

出版国 日本

対象 2～4歳 全18ページ

英語版絵本 『The Little Mermaid』 (Disney Princess) (Little Golden Book)

著者 Michael Teitelbaum

挿絵 Sue DiDicco

出版社 Golden/Disney; Special版 (2003年9月23日第1刷発行)

出版国 アメリカ

対象 3歳～7歳 全24ページ

なお、ディズニー童話の絵本は、同一作品でも複数種類の絵本が存在するため、ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパンがディズニー作品の王道に使うレーベルである『ディズニースーパーゴールド絵本』を用い、英語版もそれに相当する『Little Golden Book』シリーズを用いた。これらはどちらも、ディズニーが出版している絵本の中で、最も対象年齢が低い本である。また、これら二つは出版されて以来、内容は同じまま度々再版が行われているため、同じ年に出版された日本語版絵本と英語版絵本を比べることは不可能である。そのため、現在日本とアメリカで出版されている最新版¹⁴の絵本を用いることによって、研究を進めていく。それぞれの絵本が対象とする年齢についても、まったく同じものは存在しないため、読者年齢に重なりのある上記2作品を用いた。

1.4.2 作品の選定②

また、日本語版・英語版絵本の比較研究を行う中で講談社ディズニー出版部に行った聞き取り調査から、日本語絵本は、英語版絵本を原作として生まれたのではなく、同作品の英語版映画『THE LITTLE MERMAID』を原点として製作されていることが分かった(後述1.4.4を参照)。そこで、英語版映画と日本語版絵本のスクリプト比較をするために、調査対象として以下も追加することとした。

英語版映画 『THE LITTLE MERMAID』

監督/脚本 ジョン・マスカー/ロン・クレメンツ

公開初年 アメリカ 1989年11月7日

¹⁴ 2012年4月 本研究開始時点での最新版

| | | |
|----------|---------------------|-------------|
| | 日本 | 1991年7月20日 |
| 劇場再公開 | アメリカ | 1997年11月14日 |
| | 日本 | 1997年11月14日 |
| 製作 | ハワード・アシュマン/ジョン・マスカー | |
| 音声 | 英語・日本語 | |
| 販売元 | ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 | |
| VHS 販売開始 | アメリカ | 1989年、 |
| | 日本 | 1992年 |

本作品は、その需要の高さから1997年に劇場で再公開されており、その際日本語版吹き替え音声のみが新しいものへと変わっている。しかし、今回本稿で研究対象とするのは、英語版音声の SCRIPT のみであり、英語版音声は初公開年度1989年のもとから変更がない¹⁵ため、1989年11月7日に公開された音声の SCRIPT を書き起こし、それを日本語版絵本の SCRIPT と比較することで、日本人が幼少期に触れるディズニー作品にみられる特徴を抽出する。

1.4.3 作品分析

1.4.1で挙げた英語版絵本と日本語版絵本のテキストと挿絵、及び、1.4.2で挙げた、英語版映画 SCRIPT と日本語版絵本 SCRIPT について分析する。(詳細は添付資料①②)

絵本の挿絵については、画像データとして扱い、そこに含まれる要素をコード化することで検証する。また、映画については、作中で登場人物から発せられるすべてのセリフを書き起こし、それを日本語版絵本のテキストと比較する。(詳細は添付資料③)

これらの比較を通して、語彙的差異に加え、絵本の登場人物その人の属性や名前、起きる出来事、配色等において、日本語版のみが持つ要素を抽出する。

1.4.4 聞き取り調査

日本語版絵本と英語版絵本の作品分析を進めていく中で、SCRIPT、挿絵それぞれについて大きく差があることが分かった。この差はどうして生まれるのか、誰の意図によるものであるかを探るために、日本語版絵本の出版社である講談社ディズニー出版部に、聞き取り調査を行った。(詳細は添付資料④を参照)

その調査の中で、講談社が出版している日本語版絵本は、英語版絵本との関連性がほとんどないこと、及び、絵本の SCRIPT と挿絵は、著者が原点である映画をもとに独自に取捨選択しているのではなく、著作権を握るウォルト・ディズニー・ジャパン(株)ディズニー・パブリッシング

¹⁵ ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパンへの電話確認による

ング・ワールドワイドジャパンから提供された素材のみ使用が許されていることが分かった。

これに伴い、聞き取り調査の対象として、ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）ディズニー・パブリッシング・ワールドワイドジャパンを加え、そもそも講談社に提供する素材は、どのような観点から選定されているのかの聞き取り調査を試みた。（詳細は添付資料⑤を参照）

第2章 作品分析① 絵本を用いた比較

2.1 ディズニー童話『リトル・マーメイド』『THE LITTLE MERMAID』概要

ディズニー作品『リトル・マーメイド』『THE LITTLE MERMAID』¹⁶を研究対象として扱うにあたり、ここで本作のあらすじを参照されたい。ハンス・クリスチャン・アンデルセンによる『人魚姫』をもとに作られた本作は、原作と大きく異なっているのである。

最大の違いは、アンデルセン童話の人魚姫では、王子が思い違いから主人公に似ている女と結婚することを決めたことで、結果として王子と人魚姫は結ばれずに終わるが、ディズニー版では、結婚の誓いをする直前に真実が分かり、最終的に主人公と王子が幸せな結婚をする、というものである。

なお、本作のあらすじに関しては、日本語版絵本、英語版絵本、英語版映画とも、以下の部分が共通しており、話の流れが大きく異なる点はない。以下、話の展開ごとに区切り、それぞれに番号を付けている。この番号は、添付資料と対応している。

(展開Ⅰ) 海の下の世界に、美しい声を持つ人魚姫、アリエルがいた。彼女は、海の上の人間の世界にあこがれ、ダンスや散歩をしたいと願っていた。

(展開Ⅱ) ある日、海の上を通りかかった大きな船を見に行ったらアリエルは、そこに乗っていた王子、エリックに恋をする。船ではエリックの誕生日パーティーが開かれおり、アリエルはその姿を海の中から見つめている。

(展開Ⅲ) 突然、その船は嵐に巻き込まれる。アリエルは、船から投げ出された意識のないエリックを抱え、浜辺まで泳いで運ぶ。

(展開Ⅳ) そのことを知ったアリエルの父、海の王トリトンは、人間の世界との接触が禁じられていること、人間が野蛮であることを伝え、アリエルを激しく叱責する。それでもあきらめきれないアリエルは、海の魔女アースラの元へ行き、自分の声と引き換えに人間になれる薬を手にする契約を結ぶ。契約の内容は、人間になって3日のうちに王子とキスをすれば一生人間でいられるが、できなければ声の出ない人魚として一生、生きるというもの。

(展開Ⅴ) 人間になったアリエルは、嵐の夜に王子を助けた浜辺に座っていたところ、王子に発見される。エリックは、初め彼女を、嵐の日自分を助けた少女だと思うが、声が出

¹⁶ 以降、英語版絵本『THE LITTLE MERMAID』、日本語版絵本『リトル・マーメイド』、英語版映画『THE LITTLE MERMAID』を総称して、ディズニー版『リトル・マーメイド』とする。

ず意思疎通を図れないアリエルに、別人であると思ひこむ。声の出ないアリエルをあわれに思ったエリックは、彼女を自分の城に連れて帰る。

(展開VI) 城でアリエルは、初めてドレスを着、ダンスや散歩をし、とても楽しく過ごす。翌日、エリックとアリエルはボートに乗る。王子がキスをしようとした瞬間、ボートはひっくり返ってしまう。

(展開VII) その様子をうかがっていた海の魔女アースラは、アリエルの計画を成功させまいと、自身が若い娘の姿に変身し、アリエルから奪った声を使ってエリックに近づく。エリックは騙され、この娘を花嫁にと決めたが、正体を知った海の仲間たちが、エリックとこの娘との結婚を阻止しようとする。3日目の夕方のこと、この騒ぎの中で、貝殻が割れ、アリエルのもとに声が戻ってくるが、それと同時に夕日が沈み、アリエルはもとの人魚に戻ってしまう。

(展開VIII) ここで、アリエルが自分を助けた少女だったと知ったエリックは、魔女の姿に戻ったアースラと戦い、激しい戦いの末、滅ぼす。

(展開IX) トリトン王はアリエルを許し、自ら彼女を魔法で人間に変える。そして、二人の幸せな結婚式が行われる。

2.2 英語版絵本『リトル・マーメイド』にみられる特徴

2.2.1 テキスト分析

2.2.1.1 登場人物の名前について

日本語版絵本と英語版絵本とでは、スクリプトや使われる挿絵ばかりでなく、登場するキャラクターの数も異なる。そこでまず、登場人物の名前から読み取れる要素を分析する。英語版絵本の登場人物は、アリエル(Ariel)、トリトン(King Triton)、フランダール(Flounder)、セバスチャン(Sebastian)、エリック(Prince Eric)、グリムズビー(Grimmsby)、アースラ(Ursula)、フロットサム&ジェットサム(Flotsam and Jetsam)、マックス(Max)、スカットル(Scuttle)の11名である。日本人であれば、これらの名前に対し、登場人物を特定する以上の意味を見出すことは難しいであろう。しかし、「THE LITTLE MERMAID」がアメリカで生まれた作品であり、原作の人魚姫で主人公は名前を持たないことを考えると、ディズニーによって、キャラクターへの名づけの作業が行われたことは明白だ。ゆえに本章では、その名づけの作業の意図と、作品に与えた影響を明らかにする。

a. 主人公及び味方役について

まず、主人公のアリエル (Ariel) である。この名前は、1965 年に現れた男性名詞であり、その後 1970 年代後半から女性にもつけられるようになったものだ。女性の主人公に元来男性名である名前がつけられたことから、主人公の性格が、男性的要素を持つことを暗示していると考えられる。

「1990 年代の女性は男に養われ、庇護される存在でなく、自立し自ら人生を切り開くべきだと考えられ、結婚し安直に豊かで安定した生活を手に入れようとするのがセクシストを増長させるとも言われた。」(2010 李、高橋) とあることから、1989 年に公開された「THE LITTLE MERMAID」という作品における主人公アリエルは、女性像の変革期を象徴する名づけであったとも考えられる。また、Ariel という名前は、空気の妖精という意味を持つ。なぜ海にすむ人魚が空気の名前を持つのか。これは、本作の原点となったアンデルセン童話「人魚姫」からきていると考えられる。アンデルセン童話『人魚姫』では、主人公の人魚姫は王子と結ばれず泡になってしまう。しかしその後空気の妖精となって、300 年の善行によって不死の魂を得る。ディズニー版『リトル・マーメイド』ではこの結末は幸せなハッピーエンドへと書き換えられているが、原作のオマージュであるといえる。

次に、トリトン(Triton)ある。ギリシャ神話に登場するトリトンは海の神であり、同時に人間の上半身と魚の尾をもつ人魚の姿をしていることから、本作のトリトンはここからとられたものであると考えられる。ここから、本作がアンデルセン童話だけでなく、ギリシャ神話からも影響を受けていることが分かる。また、常に三叉の鉞を持っており、名前にも 3 を意味する Tri がつくことから、3 という数字が本作の中で力の象徴となっていることが読み取れる。

フランダール(Flounder)は、本作の中で数少ない、人間の世界にあこがれを持つ主人公の理解者である。Flounder という単語自体が、動詞としてじたばたする、もがくという意味を持ち、同時に平たい魚、という意味も持つ。ここから、英語圏の読者は、名前を聞いただけで Flounder という登場人物が魚であり、もがく様子を想像できるのである。実際に作品の中で Flounder は魚であり、臆病な性格でありながら自分ではそれを認めず葛藤している。人間の世界と海の底の世界両方を理解しようともがくところも、名前によって暗示されているといえる。

セバスチャン(Sebastian)は、本作でカニの姿をしており、初めは王室付きの音楽家である。しかし途中から海の王トリトンの命で、主人公アリエルのお目付役として付いて回るようになる。この名前は、英語・オランダ語・スペイン語・ポルトガル語・フランス語に多く見られる男性の名前であり、3 世紀のローマ帝国軍人で殉教聖人セバスティアヌス (Sebastianus) に由来する。神という絶対的存在に身をささげ殉教した姿と、海の王トリトンに忠実に仕えようとする姿重なる。また、多くの文学作品で執事や補佐役の登場人物にこの名前が用いられる例が、本作にも当てはまる。地位のあるものに使える存在であることが、名前から判断することができるのである。

エリック(Prince Eric)は本作では海辺の国(人間の世界、地上の世界)の王子である。ゲルマン人の男性名であり、特に、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー君主に多くみられる名前であることから、白人であり、人を治める立場であることが示される。本作中でも、白人の王子として描かれている。

グリムズビー(Grimsbey)は、本作で、エリックに仕える王室月の執事である。Grimsbey は、もともとイングランド東部に存在する、北海に面している港町の名前であり、イギリスの由緒正しい執事をイメージして名づけられたキャラクターであることが推測できる。舞台が海辺の国であることから、海に面した町の名前がつけられたと考えられる。

スカットル(Scuttle)は、本作で、人間の世界について知ったかぶりをする、お調子者のカモメである。scuttle という単語は、英語の動詞で急いでいく、あわてて走るというという意味を持つと同時に、航海用語として小窓という意味を持つ。更に、他動詞で計画・企てなどをやめるという意味を持つ。作中でスカットルは、アリエルにとって人間の世界のことを覗き教えてくれる「小窓」そのものであり、同時に若い娘に変身したアースラの正体を見破り、「急ぎあわてて」仲間に知らせたこと、そしてその結果アースラの「企てをやめ」させるきっかけとなった存在である。

マックス(Max)は本作では、エリック王子に飼われている愛犬の名前である。犬種は、オールド・イングリッシュ・シープドッグであり、ヨーロッパ系の大型犬であることが分かる。多くの場合マックスという名前はマクシミリアン、マクシミリアーノなどの愛称であり、これはヨーロッパ系由来の人名である。または英語で「最大(限度)」(最大値)を意味するマキシマム(Maximum)の短縮形であることから、ヨーロッパ系の研修の大型犬であることと重なる。

b. 敵役について

次に、敵役の名前を参照する。本作でアースラ(Ursula)はタコの姿をした魔女である。この名前はイギリスの伝説に残る聖女で女子教育の守護聖人、聖ウルスラからとられたと考えられる。まず、これが女性名であることから、女性キャラクターであることと繋がる。しかしどうして邪悪な存在に対して聖人の名前がつけられたのか。本質は善良な存在であることを暗示しているとも考えられる。伝説上の成人の名前が付いていることから、超人間的力を持っていることが示唆される。

次にアースラの使いであるフロットサム&ジェットサム(Flotsam and Jetsam)であるが、この名前は、1984年にアメリカ合衆国アリゾナ州フェニックスで結成されたヘヴィメタルバンドに由来すると考えられる。映画『リトル・マーメイド』は1989年公開であるため、当時認知されていたこのヘヴィメタルバンドのイメージを、そのまま利用した名づけと考えられる。ヘヴィ・メタルという音楽形態が激しく攻撃的なものであることと、作中の2匹の悪役キャラクターが重なる。

以上の名付けの分析より明らかになるのは、本作が、原作であるアンデルセン童話ばかりでなく、ギリシャ神話や、当時流行していたミュージシャンの名前など、幅広い要素を取り入れ生み出された作品であることだ。と同時に、名付けによってキャラクターの性格が裏付けることで、英語を使用する読者に対して、あえて文字で説明することなく、読者の中でキャラクターの性格に深みを持たせ、ストーリー全体を豊かにする効果があるということである。

更には、名前で登場人物の大まかな出身地まで知ることが可能であった。作中で、王子たちの住む陸の世界に関して深く言及されることはないが、これらの名付けに加え、映画の中で多くの登場人物がイタリア系やフランス系など訛りのある英語を使っていることから、これを作成したディズニーが、制限のある中で陸の世界に広がりを持たせる工夫をしていたことが明らかになる。更にはこの作業によって、アリエルが憧れる人間の世界を、海の世界と対比させ、より広いものであることを、見る者に訴えかける効果があるのである。

2.2.1.2 スクリプトについて

英語版絵本のスクリプトにみられる特徴を分析した時、その特徴はa. ストーリーの主題について、b. 登場人物の感情描写と関係性の変化、c. 主体の明確化、の3つに分類される。

a. ストーリーの主題について（恋愛、家族愛、友情）

英語版絵本『THE LITTLE MERMAID』は、日本語版と同様、アリエルとエリックの恋愛物語、勸善懲悪を主軸とし、娘を海の世界に縛りつけようとする父と、好奇心から新たな世界へ飛び出そうと反抗する娘をめぐる家族愛も描かれている。しかし、英語版絵本にしかない要素が、仲間とのチームワーク・友情という要素である。

英語版では、アリエルは数々の危機を仲間とともに乗り越え、アースラとエリックの結婚式のシーンに象徴されるように、仲間がいたからこそ真実にたどり着き、幸せな結末を迎えることができたのである。故に、英語版のほうが、人間同士に生じうる愛についてより多くの教訓的要素を含んでいるといえる。

b. 登場人物の感情描写と関係性の変化

作中では、登場人物の関係性が変わっていくが、それが日本語版よりも協調されている。ここでは、トリトンアリエル、アリエルとエリック、アリエルとセバスチャン、トリトンとアースラを取りあげる。

まずトリトンとアリエルの関係性だが、海の王国の人魚姫と海の王国を支配する国王、と同時

に、娘を監督下に置きたい父と、見知らぬ世界へ飛び出したいと願う好奇心旺盛な娘、という構造である。しかし終盤では、トリトンはそっと娘を見守り、娘の決断を遠くから支える理解ある父親へと変わり、アリエルも父親の愛に素直に向き合うようになる。日本語版では、最後のシーンでも娘に「許可を与える」形で結婚が成立する点が異なる。このように、海を統べる王という絶対的な存在もまた一人の父親として葛藤し、成長していく、人間の多面性が描かれているのは英語版のみにみられる特徴である。

次にアリエルとエリックであるが、初め人魚と人間という対極に位置する存在であった2人は、アリエルが人間になったことでどちらも同じ世界の住人となる。しかし再びアリエルが人魚に戻ってしまい、その後再び人間になることで、人間と人間、という関係性に落ち着く。

アリエルとセバスチャンも、話の中で大きく関係性を変えていく存在である。

セバスチャンは初め、トリトンに忠実な王室付きの音楽家であり、アリエルの目付役をまかされたときは、王の命がゆえにしぶしぶ引き受けただけにすぎなかった。しかしアリエルを監督するうちに彼女を応援し、彼女の幸せを願うようになる。トリトン側の存在から、アリエルの味方となったのである。そして最終的には、アリエルの幸せを願いトリトンの願いとは反することも意見するようになるなど、主体的な意思決定能力を獲得していく。

次に、トリトンとアースラである。英語版では、アースラがかつてトリトンを倒そうとしたことがある、と触れられるが、その具体的内容については語られないままである。ここから、海を支配する王と、それに屈して追放された海の魔女という構図が見て取れる。

その後、娘を守るために自らを犠牲にすることで、トリトンはアースラのしもべとなり、アースラは海で最強の魔女となる。しかしその後アースラがエリックに倒されるという外部干渉を挟み、トリトンは再び海の王へ、アースラは消滅する。ここでは、権力をめぐる戦いが隠喩されている。

ここで見えてくる共通項は、登場人物が、それぞれ自分の大切なものを得たり守ったりするために自分の立場を一度失い、その後周囲の助けによってそれを取り戻す、ということである。重ねて、お互いにかかわり合う中で、登場人物それぞれが今までの価値観を改め、自らの意思を持って道を作っていくという図式である。

c. 出来事の主体の明確化

英語版絵本では、日本語版絵本と比べ、出来事の主体が明らかになっているものが多い。添付資料①のVI-Eのように、アリエルとエリックがキスしようとした時にボートをひっくり返したのが誰かや、VII-Eのように船上でアースラ的首飾りの貝殻が割ったのは誰かなど、日本語版では自然発生的に描かれていた出来事にも、その出来事を起こした犯人は誰で、どんなの意図があつたのか、直接的に文字で描かれている。そのような表記のされ方は、シーンの場面転換の部分に多くみられ、かつそれが契機となって状況が急変することが多い。以上のことより何となく起きた、ではなく、出来事の因果関係がよりはっきりと強調されているといえる。

2.2.2 挿絵（画像データ）分析

英語版絵本の挿絵（画像データ）を分析したとき、挿絵数とページ数の割合、展開における挿絵の枚数、各登場人物の登場回数、挿絵の色使い・描写とそれが与える印象、の4つの項目について特徴を見出すことができる。

2.2.2.1 挿絵数とページ数の割合

日本語版絵本と英語版絵本では、ページ数が異なることに伴い用いられる挿絵の数も異なる。英語版は、全24ページ中20の挿絵が用いられており、ページ数における挿絵の数の割合は83パーセントである。ページ数よりも挿絵の数が少ないのは、見開きで1つの挿絵を使うページがあるためである。ひとつのページに複数の挿絵が使われる日本語版と比べると、英語版の挿絵はスペースをゆったりと使い、読者を挿絵のシーンに入り込ませる効果がある。挿絵とスクリプトの境目が不明瞭で、挿絵の淵の色が薄くなったところに文字を重ねることでページが構成されていることも、その効果を助長させている。

また、英語版絵本で用いられる最大の挿絵は、添付資料②のIV-E⑥であり、見開きページの約82パーセントを締めている。これは、日本語版と比較した中でも最も多くの割合を占める画像である。IV-E⑥は、主人公アリエルの父、海の王トリトンが、アリエルの宝物である人間の世界の道具コレクションを、粉々に壊してしまうシーンであり、読者に親の威厳を強調するとともにネガティブな印象を与える。日本では幸せな物語という印象の強いディズニー絵本であるが、英語版においては、ネガティブな面もしっかりと強調されているのである。

2.2.2.2 展開における挿絵の枚数

2.1で分類した展開の区切りにしたがって、どの展開でどれだけの挿絵が使われているのかを見ると、以下の結果になる。

| 展開 | 使われている挿絵数 |
|------|-----------|
| I | 2 |
| II | 1 |
| III | 2 |
| IV | 4 |
| V | 2 |
| VI | 1 |
| VII | 3 |
| VIII | 3 |
| IX | 2 |

表 1：英語版絵本における挿絵数（作成：富樫）

ここから、最も多くの挿絵が使われたのは展開IVである。挿絵の枚数が多い展開は、ディズニーが読者に印象付けたい部分であると考えられる。

また展開Ⅳは、海の世界への憧れを止められないアリエルに対し、トリトンがアリエルの宝物を全て壊してしまうが、それでもあきらめられないアリエルが海の魔女アースラの下で、人間になるための契約を結ぶシーンである。

展開Ⅳの挿絵を通して強調されているのは、トリトンがアリエルの人間の世界との接触について激しく怒り、なんとかしてでもやめさせようとしていることと、アースラが、アリエルが自分に助けを求めてくるように仕向け、不安がるアリエルに戸惑うまもなく契約を結ばせる邪悪さである。

日本語版においては、トリトンの激しさやアースラの邪悪さを強調する挿絵は多く見られない。よって、英語版絵本に見られる特徴は、人間のネガティブな心情を表す描写もしっかりと伝えることで、ストーリー全体を通して登場人物の感情の対立や変化の過程を際立たせている、ということである。

2.2.2.3 各登場人物の登場回数

2.2.1.1で参照したように、英語版絵本には11人の登場人物がいる。ここでは、英語版絵本と日本語版絵本で共通している4人の登場人物、アリエル、エリック、トリトン、アースラの登場回数から挿絵の与える印象について分析を行う。英語版絵本における登場回数は、以下のとおりである。

| 展開 | アリエル | エリック | トリトン | アースラ | 4人の 総登場回数 |
|--------------------------------|---------|--------|--------|--------|--------------|
| I | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| II | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| III | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| IV | 4 | 0 | 1 | 2 | 7 |
| V | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| VI | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| VII | 1 | 1 | 0 | 3 | 5 |
| VIII | 1 | 2 | 1 | 3 | 7 |
| IX | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 |
| 展開全体 (総挿絵数 における登 場割合) | 14(70%) | 9(45%) | 3(15%) | 8(40%) | 34 |

表 2：英語版絵本における各登場人物の登場回数（作成：富樫）

この表の、各登場人物の登場回数の多い展開、および主要な登場人物がもっとも多く描写されている展開について、特徴を探る。

まず、アリエルの登場回数が最も多いのは展開Ⅳの4回である。アリエルは展開Ⅳで用いられる挿絵の全てに登場しており、その現れ方は、4-E⑥（父トリトンと一緒に）、4-E⑦（友人の魚フランダールと一緒に、それをアースラが水晶玉で見ている）、4-E⑧（アースラの手下と一緒に）、4-E⑨（海の魔女アースラと一緒に）に表されるように、ほかの登場人物とともに描かれる。ここから、アリエルが多くの登場人物と関わり、彼らの思惑と自分の信念の間で揺れながらも自分で道を切り開いていく様子が描かれていることがわかり、展開Ⅳは、アリエルの内面を象徴したシーンであるといえる。

次に、エリックの登場回数が最も多いのは、展開Ⅲと展開Ⅶの2回である。Ⅲ-E④では、溺れたところをアリエルに「助けられる」様子が描かれ、展開Ⅶ-E⑩では真実を全て知った後アリエルを「助ける」ためにアースラと「戦う」様子が描かれ、この二つの展開は対照的である。この二つの展開にエリックの挿絵を多く用いることで、ストーリーの中で助けられる側の存在から助ける側の存在へと変わっていく様子が強調されている。

トリトンの書く展開における登場回数は、主要なキャラクターの中では少なく、展開Ⅳ、Ⅶ、Ⅸの1回が最大である。展開Ⅳ-E⑥では人間の世界にあこがれる娘に怒りを露にし、娘を海の世界へ引きとめようとする存在として、Ⅶ-E⑪では娘の身代わりとしてアースラの犠牲になる存在として、Ⅸ-E⑫では娘の自立を認めそつと陰から支える存在として描かれている。また、初めて登場するⅣと最後のⅨでは、娘への接し方が間逆になる。これらに特徴的なのは、海の王、というよりもむしろ、一人の父として描かれていることである。英語版におけるトリトンから強調されるのは、娘の成長を経て変わっていく父親自身の成長である。

そして最後にアースラであるが、彼女がもっとも多く登場するのは展開Ⅶ、展開Ⅷの3回である。Ⅶを通してはアリエルの結婚を阻止するため自らが若い娘へと変身し魔法を使ってエリックと結婚しようとする様子と、アリエルの仲間によってそれが阻止される様子が描かれる。また、Ⅶ-E⑬では、アリエルの計画を失敗させたアースラが本性を現し、トリトンを失墜させた後エリックと戦い滅ぼされる様子が描かれる。ここで強調されるのは、アースラの邪悪さと残酷さである。これによって、悪は滅びるという勧善懲悪のメッセージが示される。

一見ただの悪役として見られがちなアースラだが、彼女の本作における役割はそれ以上の意味を持つのである。なぜなら、アースラがいたからこそアリエルとエリックは結ばれ、アリエルとトリトンも互いを尊重した関係性へと変わっていくことができたからである。

そしてこれら4人の全てが登場するのが展開Ⅷであるが、この展開Ⅷは、全ての登場人物が描かれていて、かつシーンにおける登場人物の総登場回数でも最多のシーンである。このシーンは、「人魚に戻ったアリエルが再び人間になるまで」を描いた点においてその他の登場人物との関係性が大きく変化するきっかけとなることを象徴する場面である。

2.2.2.4 挿絵の色使い・描写とそれが与える印象

英語版絵本の挿絵は総じて、日本語版のそれと比べて、背景が簡素化される傾向にある。また全体として明るい色使いが多く、陰影の差が少ないのも特徴である。

それぞれの挿絵から読み取れることも多くある。

まず展開 I についてであるが、I-E①では、絵本における最初のページにごくありふれた道具であるフォークを示し、目を輝かせてそれを見つめるアリエルを描くことで、アリエルの人間の世界への憧れの強さが示唆される。I-E②では、セバスチャンとフランダーは悲しみや不安に近い表情で海やアリエルを見ているのに対し、アリエルの視線は水面に移る船を笑顔をたたえながら見つめている。ここで、登場人物の心情の差が示されている。

II-E③では、船の上で盛り上がるエリックや船員、マックスのことを、影からこっそり眺めるアリエルが描かれるが、これにより人魚が人間に見られてはいけない存在であることが示される。III-E④では、意識のないエリック⇔意識のあるアリエルという関係性と、助けたアリエル⇔助けられたアリエル（のちに逆転する構図）が示される。

III-E⑤では、エリックが見つかったことを喜ぶグリムズビーと、自分を助けた少女のことを取りつかれたように考える表情が対照的である。

IV-E⑥では、父に宝物を壊され悲しむアリエル達の様子を、遠くから眺めにやりと笑みを浮かべるアースラの様子から、アリエルに魔の手が迫ることを暗示している。IV-E⑧や⑨では、プロットサム・ジェットサムのオッドアイが怪しさを際立たせるし、彼らのひれやアースラの足が細長くうねる様子は、旧約聖書における蛇（悪へとそそのかす存在）を連想させる。

V-Eでは、登場人物の関係性の変化を視覚的に象徴するものが多い。たとえばV-E⑩では、アリエルの様子を心配そうに眺める他の登場人物たちの様子から、これまで、海の仲間、陸の仲間と別れていた仲間が、アリエルが人間になったことで集まり、チームとなっていることがわかる。海の世界（アリエル）と人間の世界（エリック）が将来的に結ばれることの布石とも考えられる。V-E⑪では、人間として初めて出会う2人の「再開」のシーン。白が多く、明るいシーンとして描かれている。また、どちらも同じ色の洋服を着ており、対等かつ同質な存在という事を示唆しているともとれる。

VII-E⑬では、エリックと、彼に寄り添うアースラを、階段の遠く上の方から見つめるアリエルが、アリエルとアースラの賭けの結果を暗喩している。

VII-E⑭では、若い娘と鏡に移るアースラの臣の姿が対照的であり、王子が一人だまされていることを強調している。と同時に、アースラは自分の計画全てがうまくいっていると考え、鏡に向かって笑うが、それをスカットルが見ていることは知らない。悪事が暴かれる、という勧善懲悪の暗示であるともいえる。これに続きVII-E⑮では、自分の結婚相手であるはずのアースラが動物たちに攻撃されているのを、エリックが助けようとしなない。（本来結婚相手が危険な目にあっていたら助けるはず。）この描写が、エリックとアースラとの結婚が、偽りのものであることを強調している。また、普段お調子者の性格を持つス

カットルが、アースラと王子との結婚を阻む重要な役割を担う。

VIII-E⑰では、それまで虐げられてきたアースラが、トリトンの力の源である三叉の鉤に手をかけていることと、笑顔のアースラ、険しい顔のトリトンの対比によって、力の逆転が現される。VIII-E⑱のアリエルを守るため、エリックが戦う構図は、エリックを守るためアリエルが嵐の夜泳ぎ続けたIII-E④と逆の構図である。

そして、IX-E⑲では、今までアリエルの思いを認めようとせずただ叱るだけだったトリトンが、何も言わず、エリックを見つめるアリエルを後ろから見守っている。アリエルとエリックを認めようとし、また、セバスチャンはアリエルを擁護する側に回っていることで、父親像の変化が見られる。またこのシーンはセバスチャンが自分の主に対して初めて自分の意見を伝える場面でもあり、セバスチャンとトリトンの関係性の変化も現れている。

さて、これらコード化よりわかる特徴をまとめると、まず、英語版の挿絵は、日本語版絵本と比べ背景を簡素化させた挿絵が使われていることがわかる。これは、数多くの登場人物が見られる英語版絵本ならではの特征であり、余計な情報を排除することで、読者が話を読み進めるうえで少しでも混乱をなくし、登場人物と話の展開そのものへ集中できるための配慮であえると考えられる。また、挿絵の多くが、人物の表情や行動からその登場人物同士の関係性の変化を表すものが多く使われていることから、英語版絵本においては、仮に文章がなかったとしてもその挿絵だけである程度ストーリーが推測可能になるように、話の根幹を抑えるもの、という観点で挿絵が選定されていることがわかる。

2.3 日本語版絵本『リトル・マーメイド』にみられる特徴

2.3.1 テキスト分析

2.3.1.1 登場人物の名前について

日本語版絵本の登場人物は、アリエル、エリック、トリトン、アースラの4人のみである。これは英語版絵本の半分以下の登場人物数であり、この段階で、大幅な情報量の差があることが分かる。また、この4人の登場人物は皆、名前が4文字以内であるが、この原因として考えられるのは、未就学児の理解への配慮である。未就学児にとって聞いたことのない単語は、話を理解することの弊害となりうるため、読者への理解度への配慮の観点から、意図的に、多くの外来語を使わず、スカットル、セバスチャン、フロットサム・ジェットサムなど作中で比較的長い名前を持つ登場人物はスクリプト内では削除され、この4人の登場人物が用いられるにいったと考えられる。

『絵本の読み聞かせの構成や保育社の動作及び発話が幼児の発話にどのように影響しているのかを検討する事であった…中略… (1) 幼児が安定して絵本に集中できる環境 (2) 幼児のイメージを深めるための登場人物の感情や絵の描写についての保育社の発話の撮り方 (3) 読後における幼

児の気付きや遊びの情報化が重要であることが示唆された』(2012並木)¹⁷ともあるように、より低年齢の読者を対象とした日本語版「リトル・マーメイド」は、輸入される過程で、より分かりやすく読みやすくするために登場人物及び描写が大幅に取捨選択されたといえるであろう。

2.3.1.2 スクリプトについて

日本語版絵本のスクリプトを分析した時、その特徴は、a. 教育絵本としての修辞法、b. 残酷な表現の排除、c. ストーリーの簡素化、の3つに大別することができる。

a. 教育絵本としての修辞法

まず、絵本を開いて特徴的なのは、文字の表記の仕方である。漢字を全く使わず、カタカナにも振り仮名が降ってあることに加え、文節ごとに1つずつ空白が入っている。これは、語のまとまりを無意識に体得させる修辞法である。また、ほとんど平仮名のみで構成されるスクリプトの中で、登場人物名のみがカタカナで表記されることで、登場人物の名前を印象付ける効果がある。さらに、その登場人物がたった4人のみであり、かつ、その全ての名前が表記上4文字以内に収まることは、2.3.1.1でも参照したとおりである。この結果、挿絵には登場するにもかかわらず文中でまったく言及されない登場人物が多く生まれる。登場人物の説明をスクリプトでは必要最低限にとどめ、状況説明を挿絵にゆだねる事でスクリプト内の情報量を減らし、読者が話の本筋を理解しやすくなるための配慮と考えられる。

また、日本語版絵本は、挿絵とスクリプト部分にはっきりとした境界線があり、英語版のように挿絵に文字が重なることはない。絵は見るもの、スクリプトは文字として明確に分けることで、純粋な挿絵の印象を読者に残す効果がある。

よって、日本語版スクリプトにおける最大の特徴とは、情報量を極限まで減らすことで、幼い読者であっても最初から最後まで、混乱することなく話の本筋に集中できるように構成されていることである。

b. 残酷な表現の排除

日本語版絵本は、英語版絵本と対照的に、出来事の主体を不明確にすることで残酷な表現を排除する傾向にある。2.2.1.2のc.で述べたように、英語版であれば「フロットサム・ジェットサムがボートをひっくり返した」「スカットルが貝殻を割った」と明示されているところが、日本語版では「運悪くボートがひっくり返ってしまった」「騒ぎの中で貝殻が割れた」と、あたかも犯人のいない偶然であるかのように書かれている。

また、IV-Jに示されるように、英語版では父トリトンが娘アリエルの宝物を全て壊してしまうシーンがあるが、日本語版では、トリトンが娘を叱る、という程度にとどめ、アリエルの宝物

¹⁷ 『幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響』(2010) 並木真理子

が壊されるという事実はない。さらにIV-Jにおけるアースラの言動についても差異がある。英語版ではアースラとアリエルの契約のシーンで、キスと引き換えに人間になれば、その後アースラに「仕える」という契約が示されている。しかし日本語版では『キスをされなかったら、いっしょう 声のでない にんぎょさ。いいのかい?』という問いかけにとどまる。契約の最中にも、英語版のアースラからは、アリエルに取引をさせたいという強い意図が読み取れるが、IV-Jにおいては、やわらかく問いかけ選択の余地を与えている。

このように、登場人物の激しい感情や、悪事の主体をあいまいにする傾向は、日本語版絵本特有である。この最大の理由は、残酷な表現の排除によりディズニー童話をより美しいものとして日本人読者に提供する、という意図であると考えられる。日本の読者に対して、ディズニー童話＝嫌なもの、醜いものを取り除き完成された幸せな世界、という印象を与えるため、極力悪者を増やさずストーリーを展開させていると考えられる。また、作中での悪役をアースラ一人に絞ることで、彼女の邪悪さを強調させ、それが最終的に正義と愛に倒される末路を強調しているとも取れる。

c. ストーリーの簡素化

日本語版絵本と英語版絵本のページ数を比較しても分るように、日本語版絵本は、話の流れが簡素化されている。日本語版絵本におけるストーリーの主題は、アリエルとエリックの恋愛物語および勧善懲悪である。しかし、b. で述べた残酷な表現の排除の効果も相まって、父トリトンがなんとでも娘アリエルを海の世界につなぎとめておこうとする様子や父としてのその後の変化、アリエルが仲間とのチームワークによって困難を解決していく様子はまったく描かれぬ。

これによって、英語版で描かれていた、人間同士の感情、恋愛、家族愛、友情のうち、恋愛のみが話の主軸として扱われるようになっていく。

この理由として考えられるのは、対象年齢のずれである。どちらも、ディズニーが出版している絵本の中で、最も対象年齢が低い本であるが、日本語版の対象年齢は2歳から4歳、英語版は3歳から7歳である。どちらも読者対象の中心は未就学児であるものの、最低年齢を日本語版のほうがより年齢層を低く設定しているため、読みやすさが重視されていると考えられる。

アメリカ発祥の文化がアメリカで受容されるのとその他の国で受容されるのとでは、アメリカ人としての文化的背景を持たない後者のほうが読者になじみにくい。ゆえにこれは、内容やメッセージ性を削除しても、より低い年齢からディズニーの童話に親しんでもらおうという意図の表れである。裏を返せば、幼いころからディズニーの存在を印象付ける効果も含まれると考えられる。

以上のことより、ディズニー童話という文化が日本で深く受容されるために、作成者が日本人のために再構成した「より理想的なディズニー」を、私たち日本人読者は消費してきたということがいえるのである。

2.3.2. 挿絵（画像データ）分析

日本語版絵本の挿絵についても、挿絵数とページ数の割合、展開における挿絵の枚数、各登場人物の登場回数、色使い・描写とそれが与える印象、の4つの項目について特徴を見出すことができる。

2.3.2.1 挿絵数とページ数の割合

日本語版絵本と英語版絵本で挿絵の数も異なることは2.2.1.3. で言及したとおりであるが、日本語版には、全18ページ中19の挿絵が用いられており、総ページ数における挿絵の数の割合は105%である。ページ数よりも挿絵の数が多いのは、1ページに複数の挿絵が使われているためであり、これは日本語版にのみ見られる特徴である。（英語版は見開きで1つの挿絵を使うことができ、結果として総ページ数よりも挿絵数のほうが少なくなっている。）

スペースをゆったりと使い、ページ見開きで1つの挿絵を使用することもある英語版と比べ、日本語版の挿絵はひとつのページに複数の挿絵が使われる。これは、英語版と比べ大幅に情報量の少ないスクリプトのストーリー性を、挿絵によって補強する効果がある。挿絵とスクリプトの境目がはっきりとしていることから、挿絵は挿絵、スクリプトはスクリプトとして、両方を目立たせる効果がある。

また、英語版絵本で用いられる最大の挿絵は、添付資料②のI-J②であり、見開きページの約64%を締めている。これは、英語版の最大84%と比べて小さい。I-J②は、主人公アリエルが初めてストーリーに登場するシーンであり、海のそこから上のほうを見上げるアリエルが印象的である。また、英語版にも同じ挿絵が使われているが、日本語版の背景にのみ、空からアリエルに向かって差し込む光が描かれている。これによって、海の底のシーンでありながら読者に海の上の世界を想像させる働きがあり、よりいっそう読者に期待を与えるのである。

2.3.2.2 展開における挿絵の枚数

2.1で分類した展開の区切りにしたがって、どの展開でどれだけの挿絵が使われているのを見たと、以下の結果になる。

| 展開 | 使われている挿絵数 |
|------|-----------|
| I | 2 |
| II | 3 |
| III | 2 |
| IV | 3 |
| V | 2 |
| VI | 2 |
| VII | 3 |
| VIII | 1 |
| IX | 1 |

表 3：日本語版絵本における挿絵数（作成：富樫）

ここから、最も多くの挿絵が使われたのは展開Ⅱ、Ⅳ、Ⅶである。

展開Ⅱは、船を見に水面へあがったアリエルが、船上のエリックに恋をするシーンである。

展開Ⅳは、海の世界への憧れを止められないアリエルに対し、トリトンがアリエルの宝物を全て壊してしまうが、それでもあきらめられないアリエルが海の魔女アースラの下で、人間になるための契約を結ぶシーンである。

また展開Ⅶは、魔女アースラがアリエルの計画を失敗させるため若い娘に変身し、アリエルから奪った声を使ってエリックと結婚し、幸い声はアリエルに戻るもののアリエルは人魚へと逆戻りしてしまうシーンである。

これら3つのシーンの挿絵を通して強調されているのは、アリエルの、人間の世界およびその象徴であるエリックに対する強い憧れと、トリトンがアリエルの人間の世界との接触についてよく思っていないこと、そしてアリエルの計画を失敗させようとするアースラの邪悪さである。

展開Ⅳについては英語版日本語版のどちらにおいても多くの挿絵が使われているが、日本語版のほうが穏やかである。というのは、Ⅳ-J⑧とⅣ-E⑥を比べると、前者は、トリトンがアリエルの宝物に対して矛を向けアリエルがその後ろに隠れる描写にとどまるが、億社は、トリトンが自分のたてでアリエルの宝物を直接壊している様子が描かれているのである。（ここにも、日本語版における残酷な描写の削除が見られる。）

展開Ⅶで使われる挿絵には、一度もアリエルが出てこず、アースラが変身した若い娘が中心に描かれている。また、Ⅶ-J⑮とⅦ-E⑭、Ⅶ-J⑯とⅦ-E⑬はそれぞれ対応した挿絵になっているが、登場の順番が逆になっており、さらにⅦ-J⑮とⅦ-E⑭を比べると、Ⅶ-J⑮でアースラがのぞく鏡の淵には天使の彫刻がされており、その額にピンがまっすぐ刺さっている。その鏡に向かって笑みを浮かべるアースラの様子から、アースラの変身した女性が正しいもの（天使）の対極にある邪悪な存在であることを読み取ることができる。対するⅦ-E⑭は、鏡の淵の

飾りが天使の羽だけになっており、天使の顔およびその額に刺さるピンの描写は削除されている。

本研究において、日本語版にある描写が英語版で削除されていることは珍しい事例である。この原因として考えられるのは、日本語版は多くの残酷な要素をスクリプトにおいて省いているが、残酷製を完全に削除するわけではなく、挿絵の形で残すことで、より間接的にアースラの邪悪さを示そうとしている、ということである。

2.2.1.2のc. で英語版絵本に、出来事の主体を明確化し、直接的な表現をする傾向がみられると述べたが、これと対照的に、日本語版では、間接的な表現が用いられることがわかる。

2.3.2.3 各登場人物の登場回数

2.2.1.1で参照したように、英語版絵本には11人の登場人物がいる。ここでは、英語版絵本と日本語版絵本で共通している4人の登場人物、アリエル、エリック、トリトン、アースラの登場回数から挿絵の与える印象について分析を行う。英語版絵本における登場回数は、以下のとおりである。

| 展開 | アリエル | エリック | トリトン | アースラ | 4人の 総登場回数 |
|--------------------------------|----------|---------|---------|---------|--------------|
| I | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| II | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| III | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 |
| IV | 3 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| V | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| VI | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 |
| VII | 0 | 1 | 0 | 3 | 4 |
| VIII | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| IX | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 展開全体 (総挿絵数 における 登場割合) | 13 (68%) | 8 (42%) | 2 (10%) | 5 (26%) | 28 |

表 4：日本語版絵本における各登場人物の登場回数（作成：富樫）

この表の、各登場人物の登場回数の多い展開、および主要な登場人物がもっとも多く描写されている展開について、特徴を探る。

まず、アリエルの登場回数が最も多いのは展開IVの3回である。アリエルは展開IVで用いられる挿絵の全てに登場しており、その現れ方は、4-J⑧（父トリトンと一緒に）、4-J⑨（海の魔女アースラと一緒に）、4-J⑩（一人で契約書にサインする様子）である。アリエルが最も登場するシーンであることと、これらをあわせて考えることで、アリエルが、人間の世界への接触を

禁じる父親と、人間にしてあげるといふ怪しい魔女アースラの間で葛藤し、最後には自分の意思を持って人間になりたいという欲求を選択する様子が象徴されたシーンであるといえる。

次に、エリックの登場回数が最も多いのは、展開Ⅲと展開Ⅵの2回である。

Ⅲ－Jの挿絵では、真っ暗な海を背景に溺れたエリックを助けるアリエルが描かれている。とくにⅢ－J⑥のように海の中を必死に泳ぐ様子は日本語版にのみ存在するもので、また真っ暗な背景から、読者に文字に表せない必死さを訴えかける効果がある。

また展開Ⅵは、人間になったアリエルとエリックと一緒に楽しく過ごすシーンである。見開きの約59%を締める挿絵を用いながら、アリエルが長い間待ち望んでいた人間としてエリックと過ごす幸せな時間が強調されており、読む人に幸せなシーンを焼き付ける効果がある。

また、Ⅵ－J⑭は、英語版のⅥ－E⑫と対応した挿絵で、アリエルとエリックがキスをしようとするシーンである。Ⅵ－J⑭の背景は霧であり、Ⅵ－E⑫の背景には水草などが描かれている。前者のエリックの表情は、眉を下げ目を見開いた様子で戸惑いを表しているが、Ⅵ－E⑫は落ち着いた表情をしている。ここから、日本語版におけるエリックのみ、恥ずかしがっていることが読み取れ、背景の霧は彼の心の曖昧さを表しているとも取れる。キスのときに戸惑いを表すエリックと落ち着いているエリックを対比は日米の恋愛像が現れているとも考えられる。

トリトンの各展開における登場回数は、主要なキャラクターの中では少なく、展開Ⅰ、Ⅳの各1回が最大である。展開Ⅰ－J①では海の民を統べる、威厳を持った海の王として、Ⅳ－J⑧では、いうことを聞かない娘を叱る父として描かれている。この2つのシーンによって、トリトンが王であり父である、両方の側面を示しているが、どちらにも三叉の矛をもち、威厳ある様子で描かれている。これは、日本古来の、男が国を治め、また父の言うことは絶対であるという価値観を象徴しており、それにあわせた挿絵の選択が行われたとも考えられる。

そして最後にアースラであるが、彼女がもっとも多く登場するのは展開Ⅶの3回であり、この展開における全ての挿絵に登場している。Ⅶを通してはアリエルの結婚を阻止するため自らが若い娘へと変身し魔法を使ってエリックと結婚しようとする様子と、アリエルの仲間によってそれが阻止される様子が描かれる。しかしこの3枚の中でも、アースラの立場の変化が読み取れる。Ⅶ－J⑮では、自分の計画がうまくいったと笑みを浮かべ、Ⅶ－J⑯ではエリックに寄り添っているが、Ⅶ－J⑰では海の仲間たちによって攻撃を受け必死な表情を浮かべている。Ⅶ－J⑰のように、攻撃を受けて必死な様子のアースラを表した挿絵は日本版にしかなく、勧善懲悪が強調されている。

そしてこれら4人の全てが同時に一つの挿絵に登場するシーンは日本語版には存在しない。登場人物を少なくしそれぞれのキャラクターを引き立てる特色が、ここにも現れている。登場人物の総登場回数が最多のシーンは展開Ⅳである。これは、主人公アリエルが、その他の登場人物の思惑の間で揺れ「人魚から人間になる」点において、周囲との関係性が大きく変化するきっかけとなることを象徴する場面である。

2.3.2.4 挿絵の色使い・描写とそれが与える印象

日本語版絵本の挿絵は、英語版のそれと比べて、背景の色合いや陰影に表現を持たせる傾向にある。明るい背景と暗い背景の差が大きく、また、光や影の描写も多い。

それぞれの挿絵から読み取れることも多くある。

まずⅠ-J①であるが、認識できない数の人魚と対照的に、イルカが引く貝殻の馬車に乗って現れるトリトンから、統治者の威厳が感じられる。Ⅰ-J②やⅡ-J③では、挿絵の中で使われる光が特徴である。Ⅰ-J②では、深い海の底でアリエルのもとに差し込む一筋の光が、今後の展開を期待させる。Ⅱ-J③では、夜の空に満月と花火が上がる中、人間の乗る船に自ら近づいていく、自ら行動する女性像が示され、ポジティブな印象を与える。と同時に、人魚の姿で、海面から飛び上がっている様子は、海の世界を脱しようとする暗示とも取れる。

Ⅱ-J④では、海の世界における人魚も魚も話し友達であるという関係性と対照的な、陸の世界で人間と動物は飼う者飼われる者、という構図が示される。Ⅱ-J⑤では、これまで登場人物の表情は皆同じが多かったが、ここで初めて、一つの事象に対して喜びと悲しみという真逆の表情が生まれる。また、人間の世界を見上げる様子から、海の世界を下位のもの、と人間の世界を上位のものとする隠喩がこめられている。

Ⅲ-J⑥は人魚と人間が接触する最初のシーンであるが、ここにおける海の色が真っ黒であるのは、その後2人を取り巻く困難を象徴していると解釈できる。また、アリエル＝話せる、エリック＝話せない（意識がない）という構図は、後のⅤ-J⑫において逆になる。

Ⅲ-J⑦では、アリエルとエリックの2人の全身が写っていることで、エリックに脚があり、アリエルにはヒレがあることが対比されている。また、エリックがアリエルに助けられ、アリエルがエリックを助ける、という構図は、Ⅲ-J⑥と同様に、後のⅤ-J⑫において逆になる。

Ⅳ-J⑧では、父トリトンと娘アリエルの間に、人間の作った銅像が存在する。これはそのまま、二人の心の間に壁があること、その壁は、人間への捉え方から生じたものであることを表している。またⅣ-J⑩では、生きた魚の暮らす豊かな海の世界で、魚の骨のペンによって契約書にサインすることが、その契約の不吉さを象徴していると考えられる。

展開Ⅵは、人間になったアリエルとエリックが一緒に楽しく過ごすシーンであり、見開きページの約59%を使ってその幸せが強調されている。

Ⅳ-J⑭は、契約成立の鍵となる重要なシーンである。アリエルが落ち着いているのに対し、エリックは恥ずかしがってなかなか行動を起こそうとしない。霧の中、それまで積極的に行動を起こしていたエリックが、珍しく踏みとどまっており、背景とエリックの心境を重ねて描かれている。

Ⅶ-J⑮では、天使の鏡の額に、ピンが刺されていることから2.3.1.3.のb)にも触れた、残酷さの隠喩が読み取れる。Ⅶ-J⑯では、エリックの顔から表情が消え、そのエリック

に一方向的に寄り添うアースラが印象的である。また、アリエルとエリックの挿絵では、ページの印象が明るく登場人物も明度の高い服を着ているが、アースラ（人間）とエリックが二人でいる挿絵については、服装も暗く、挿絵全体に暗い色使いが見られる。これは、アースラとエリックが邪悪な魔法によって結ばれようとしていることを暗示していると考えられる。

VII-J⑰は、VII-J⑱とは対照的に色使いの多い挿絵である。アースラが驚きと怒りで表情を崩しているのとは対照的に、水の仲間達には楽しんでる表情も見られることから、勸善懲悪が示される。

VIII-J⑲は、日本語版絵本においてもっともネガティブな印象を与える挿絵である。変身していたアースラが本性を表し、トリトンから奪った三叉の槍を使って海で巨大化し暴れる様子を表した挿絵であるが、その邪悪さを普段は真っ青な空が赤黒く染めることで表している。

IX-J⑳では、VIII-J⑲と対照的に空は青く晴れ渡り、描かれているアリエルとエリックの両方が満面の笑みをたえていることから、ハッピーエンドを象徴している。また、人間の世界の王子と海の世界の姫が結婚したことで、平和に海と陸が1つになったことが象徴されている。

さて、これらコード化よりわかる特徴をまとめると、まず、日本語版の挿絵は、英語版と比べ背景の描写（登場人物以外の描写）が繊細であることが分かる。I-J①のように数え切れないほどの人魚が背景にいるかと思えば、I-J②のように、深海の色の陰影が描かれたり、II-J③のように夜空に輝く月と花火でポジティブな印象を与えたりする。かといって、全ての挿絵の背景が精密に書き込まれるわけではなく、時にはVI-J⑭のように、英語版の挿絵VI-E⑫以上に背景を簡素化し、霧のような曖昧な背景にすることで、登場人物の心の葛藤を描くのである。

これは、登場人物やスクリプトを極限まで減らした日本語版絵本だからこそ生まれた挿絵の表現方法であると考えられる。言葉や登場人物の関係性によって一人ひとりのキャラクターを説明するのではなく、視覚的情報にメッセージをこめることで、読者に情報を伝えている。これは文字で理解するよりも、より読むものに印象を焼きつける効果がある

また、英語版絵本と同様、挿絵の多くが、人物の表情や行動からその登場人物同士の関係性の変化を表すものが多く使われていることから、英語版絵本においては、仮に文章がなかったとしてもその挿絵だけである程度ストーリーが推測可能になるように、話の根幹を抑えるもの、という観点で挿絵が選定されていることが分かる。

2.4 英語版絵本と日本語版絵本の比較

ここでは、特徴を持つ英語版絵本と日本語版絵本を比較し、共通点と相違点を明らかにする。これにより、アメリカで受容されているディズニーと日本で受容されているディズニーの差異を生む要素を抽出する。

2.4.1. テキストから見る日米の共通点と相違点

2.4.1.1 共通点

まず、登場人物については、アリエル、アースラ、エリック、トリトン、が共通している。話は、アリエルとエリックの恋愛物語、勧善懲悪を主軸としている。人間の世界にあこがれるアリエルがエリックに出会い、魔女アースラの策略によって危機を迎えながらも最終的には人間になりエリックと結ばれる、という大筋も共通している。また、登場人物の位置づけ、名称そのものに差異は見られない。

2.4.1.2 相違点

2.3で述べたように、英語版絵本の特徴として挙げられるのは、①ストーリーの主題、②登場人物の感情描写と関係性の変化、③出来事の主体の明確化、であるのに対し、日本語版絵本のみみられる要素は、④教育絵本としての修辞法、⑤残酷な表現の排除、⑥ストーリーの簡素化である。一見これらは独立してそれぞれに存在する特徴に見えるが、それぞれの特徴が生まれた背景を考えると、①から⑥が互いに密接に結びついており、かつ①と⑥、③と⑤は裏表となっていることがわかる。

英語版絵本と日本語版絵本とでは、対象年齢にずれがある。このずれが日本語版絵本における④教育絵本としての修辞法に特徴をもたらし、同時に⑥ストーリーの簡素化を生む。登場人物において日本語版絵本が4人しかいないのに対し、英語版では11人が登場することはこれを端的に表している。

さらにこの簡素化が日米の①ストーリーの主題に差異をもたらす。英語版絵本が、主題として恋愛、家族愛、友愛（仲間とのチームワーク。友情）の3つの愛を描くのに対し、日本語版絵本では、恋愛のみが主軸に置かれていることで、相対的に英語版では②登場人物の感情描写と関係性の変化が詳細に描かれる。そして関係性を詳細まで描くために、③出来事の主体は明確化され、対して日本語版では出来事の主体を不明確にし、登場人物の激しい感情や、悪事の主体をあいまいにして⑤残酷な表現を排除することで美しい物語を読者に提供している。

これらから明らかになるのは、英語版絵本と日本語版絵本のそれぞれが、読者に何を伝えることを目的として作られたかである。英語版絵本は、日本語版よりも登場人物の感情に詳しく入り込み登場人物同士の関係性の変化にもスポットを当てることで、登場人物の内面的成長について多くの教訓的要素を含んでいる。たとえばトリトンについては、海を統べる王という絶対的な存在でありながらも一人の父親として葛藤し、成長していく多面性が描かれているが、これは英語

版の特徴である。

対して日本語版は人物の説明をスクリプトでは必要最低限にとどめ、状況説明を挿絵にゆだねる事で、情報量と残酷な描写を極限まで減らし幸せな物語を提供することで、幼い読者であっても最初から最後まで、混乱することなく話の本筋に集中でき、かつこの作品を幸せなものとして記憶できるように作られている。

この結果、日本語版絵本の読者のほうがリトル・マーメイドに対して、毒を排除した幸せで美しい物語、という印象を持ちやすいと考えられる。

2.4.2 挿絵（画像データ）から見る日米の共通点と相違点

2.4.2.1 共通点

挿絵の中には、日本語版絵本と英語版絵本で、同じ挿絵が使われているシーンがある。（ただし前述したように、英語版と日本語版とでは、英語版のほうの背景が簡素化されている。そのため、ここでは主要登場人物4人が全く同じ描かれ方をしているものを、「同じ挿絵」とする。背景の差については）

これらを抽出し共通点としてまとめることで、アメリカの需要においても日本の需要においても、ディズニーが共通して伝えたかった要素とメッセージを抽出することができる。

共通している挿絵および概要は以下のとおりである。

| | 英語版 挿絵番号 | 日本語版 挿絵番号 | 登場人物 | 挿絵概要 | 象徴されること |
|-----|-------------|--------------|-----------|--------------------------|--|
| 展開Ⅰ | ② | ② | アリエル | アリエルが海中で海の仲間に囲まれ上を見上げている | <ul style="list-style-type: none"> ・アリエルの生きる世界の提示 ・人間の世界への憧れ |
| 展開Ⅲ | ④ | ⑦ | アリエル、エリック | 浜辺でアリエルが気を失ったエリックを見つめている | <ul style="list-style-type: none"> ・アリエルがエリックを助けた ・アリエルがエリックに恋心を抱いている 深い海の底でアリエルのもとに差し込む |

| | | | | | |
|-------------|---|---|-----------|--|--|
| | | | | | 一筋の光が、今後の展開を期待させる |
| 展開VI | ⑫ | ⑭ | アリエル、エリック | アリエルとエリックがキスをしようとしている | アリエルが人間になるための条件を達成しようとしている |
| 展開VII —1 | ⑬ | ⑯ | エリック、アースラ | エリックとアースラが寄り添っている | エリックがアリエルとではなくアースラとの結婚を決めた |
| 展開VII —2 | ⑭ | ⑮ | アースラ | アースラが鏡に向かって邪悪な笑みを浮かべている | エリックが結婚しようとしている相手が本当は変身したアースラであること |
| 展開IX | ⑳ | ⑰ | アリエル、エリック | アリエルとエリックの結婚式 ・2人が寄り添い船上から海に向かって手を振っている | <ul style="list-style-type: none"> ・アリエルが人間になりエリックと結ばれる ・ハッピーエンド ・海の世界への別れ ・陸の世界の王子と海の世界の姫が結婚し、海と陸とが一つに繋がる |

表 5：英語版絵本と日本語版絵本における共通の挿絵（作成：富樫）

展開Ⅰでは、アリエルの生きる世界が提示され、同時にアリエルが人間の世界に憧れを抱いていることも明らかになる。

展開ⅠのEでは、背景のアリエルの視線の先に海を走る船の底が描かれている。対して、Jでは海の上から深い海の底まで差し込む一筋の光が描かれている。これらはどちらも、海の上の世界＝人間の世界を暗喩していると考えられる。

展開Ⅲでは、アリエルとエリックが対局の存在であることが強調される。その要素として挙げられるのは、意識のないエリックと意識のあるアリエルという構図、助けたアリエルと助けられたアリエルという構図である。更に、2人の全身が写っていることで、エリックは人間で脚がある、アリエルは人魚でヒレがあるということも強調されている。

展開Ⅵでは、アリエルがアースらとの契約において人間になるための条件を達成しようとしている瞬間が表されている。Eの背景は水草や草木が描かれ、アリエルは目を閉じエリックも目を閉じかけているのに対して、Jの背景は霧靄が描かれ、エリックのみ戸惑いに目を見開いている。背景に差はあるが、どちらも契約差成立しようとする寸前の挿絵であることが特徴である。

展開Ⅶ-1はエリックがアリエルとではなくアースらとの結婚を決めたシーンである。エリックの顔から表情がなくなっていること、一方的にアースらがエリックに寄り添うことが特徴である。アリエルとエリックのツーショット時は明るい色遣いが多いが、アースらとエリックのツーショット時は暗い色遣いが多いといえる。エリックの服の色は暗い色。エリックと、彼に寄り添うアースらを、階段の遠く上の方から見つめるアリエルが、アリエルとアースらの賭けの結果を暗喩している。

展開Ⅶ-2では、エリックが結婚しようとしている若い少女が実は変身したアースらであることが示されている。ここではアースらが覗き込む鏡の装飾に差がみられる。鏡の上部についている飾りが、Eは花であるのに対して、Jでは天使の顔の彫刻がついている。更に、この天使の額にピンが刺さっており、このシーンでは珍しく日本語版絵本のほうが英語版絵本より残酷性を持っている。日本語版絵本が文章では残酷性を削除していながらも、挿絵では英語版絵本よりも残酷な要素を示していることが特徴である。

展開Ⅸでは、陸の世界の王子と海の世界の姫が結婚し、これまで完全に分かれていた海と陸とが一つになる様子が示されている。どちらの挿絵でも空は晴れ、登場人物が笑顔をたたえている。このハッピーエンドと同時に、アリエルが人間になり人間の服（ウェディングドレス）を身にまとっていることが、海の世界への別れを示しているともいえる。

2.4.2.2 相違点

英語版絵本と日本語版絵本を比較したとき、その差異は、a.登場人物の描写、b.話の構成、c.画像の構成、d.背景の描写、の4つの点について多くみられる。

a.登場人物の描写

まず、登場人物について相違点を見たとき、主要登場人物4人の中で、英語版絵本と日本語版絵本とでは特にトリトンの描かれ方が異なる。英語版では、海の王、というよりもむしろ、一人の父として描かれていることである。その結果英語版におけるトリトンからは、娘の成長を経て変わっていく父親自身の成長が強調されることになる。

日本では、トリトンが王であり父である、両方の側面を示しているが、どちらにも三叉の矛をもち、威厳ある様子で描かれている。これは、日本古来の、男が国を治め、また父の言うことは絶対であるという価値観を象徴しており、それに合わせた挿絵の選択が行われたとも考えられる。

また、主要登場人物の4人の全てが同時に一つの挿絵に登場するシーンは日本語版には存在しない。スクリプト分析で見いだされた、登場人物を少なくしそれぞれのキャラクターを引き立てるといふ特色が、ここでも現れていると考えられる。

b.話の構成

英語版絵本より日本語版絵本のほうが、勧善懲悪が強調されている傾向が読み取れる。というのも、たとえば攻撃を受けて必死な様子のアースラを表した挿絵は日本版にしかない。展開Ⅷのエリックとアースラが戦う場面においては英語版はアースラがほかの登場人物を陥れようとする描写が挿絵として用いられているのに対し、日本版の挿絵では、エリックにアースラが倒されたシーンが用いられているのである。

c.画像の構成

画像の構成については、最も多くの相違点が読み取れる。日本語版には、全18ページ中19の挿絵が用いられており、ページ数よりも挿絵の数が多い。これは、1ページに複数の挿絵が使われているためであり、これは日本語版にのみ見られる特徴である。（英語版は見開きで1つの挿絵を使うことがあり、結果として総ページ数よりも挿絵数のほうが少なくなっている。）

スペースをゆったりと使い、ページ見開きで1つの挿絵を使用することもある英語版と比べ、日本語版の挿絵はひとつのページに複数の挿絵が使われる。これは、英語版と比べ大幅に情報量の少ないスクリプトのストーリー性を、挿絵によって補強する効果がある。挿絵とスクリプトの境目がはっきりとしていることから、挿絵は挿絵、スクリプトはスクリプトとして、両方を目立たせる効果がある。ひとつのページに複数の挿絵が使われる日本語版と比べると、英語版の挿絵はスペースをゆったりと使い、読者を挿絵のシーンに入り込ませる効果がある。

英語版の挿絵は、日本語版絵本と比べ背景を簡素化させた挿絵が使われている。これは、数多くの登場人物が見られる英語版絵本ならではの特徴であり、余計な情報を排除するこ

とで、読者が話を読み進めるうえで少しでも混乱をなくし、登場人物と話の展開そのものへ集中できるための配慮であえると考えられる。

挿絵の色使いについてみると、日本語版絵本の挿絵は、英語版のそれと比べて、背景の色合いや陰影に表現を持たせる傾向にある。明るい背景と暗い背景の差が大きく、また、光や影の描写も多い。

d. 背景の描写

また、日本語版の挿絵は、英語版と比べ背景の描写（登場人物以外の描写）が繊細であることが分かる。数え切れないほどの人魚が背景にいるかと思えば、深海の色の陰影が描かれ、また、夜空に輝く月と花火で壮大な印象を与えたりする。かといって、全ての挿絵の背景が精密に書き込まれるわけではなく、時には背景を霧のような曖昧な背景にすることで、登場人物の心の葛藤を描いている。

これは、登場人物やスクリプトを極限まで減らした日本語版絵本だからこそ生まれた挿絵の背景における表現方法であると考えられる。言葉や登場人物の関係性によって一人ひとりのキャラクターを説明するのではなく、視覚的情報にメッセージをこめることで、読者に情報を伝えている。これは文字で理解するよりも、より読むものに印象を焼きつける効果がある

これらを通して日本語版絵本に言えるのは、日本語版絵本が作成される際には、日本人の文化的価値観に馴染みやすい要素を含んだ挿絵が抽出されていること、挿絵に繊細さや残酷さなど機微を表すことで、文字情報よりも視覚的に読者にストーリーを訴えかける傾向があること、勧善懲悪を強調されていることである。

対して、英語版絵本に言えるのは、挿絵を見開きで使い、文字情報が多い中でも読者を挿絵のシーンに引き込ませる工夫がされていること、背景を簡素化させることで、日本語版より多くの登場人物を登場させても

読者を混乱させないための配慮がされていること、である。

第3章 作品分析② 絵本と映画を用いた比較

第2章における日本語版絵本と英語版絵本の作品分析の結果、これら二つは、スクリプト、挿絵それぞれについて大きく差があることが分かった。

この差はどうして生まれるのか、誰の意図によるものであるかを探るために、日本語版絵本の出版社である講談社ディズニー出版部に、聞き取り調査を行った。

質問用紙および電話での聞き取り調査に対する回答（詳細は添付資料⑤を参照）により、『この本¹⁸を製作するに当たって、まずは、ディズニー社から映画シーンの素材を提供されてから、製作します。つまり、例え映画で見て使いたいシーンがあったとしても、素材としてない場合は、使えないことになります。そういう制約の中で、作られています。つまり、手元の制約のある素材で構成していますので、ほとんど日本独自の文化的要素を加味して、構成しているとは言えない』（講談社 ディズニー出版部）という回答より、講談社が出版している日本語版絵本は、英語版絵本との関連性がほとんどないこと、加えて、絵本のスクリプトと挿絵は、著者が原点である映画をもとに独自に取捨選択しているのではなく、著作権を握るウォルト・ディズニー・ジャパン（株）ディズニー・パブリッシング・ワールドワイドジャパンから提供された素材のみ使用が許されていることが分かった。

これに伴い、聞き取り調査の対象として、ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）ディズニー・パブリッシング・ワールドワイドジャパンを加え、そもそも講談社に提供する素材は、どのような観点から選定されているのかの聞き取り調査（詳細は添付資料⑥を参照）を試みたが、叶わなかった。

そのため、本章では日本語版絵本とその原点となった英語版映画¹⁹を直接比較することで、英語版映画から日本語版絵本が生まれる差異に削除・追加された要素は何であり、それがどのような意図によるものであるのかを分析する

3.1 英語版映画『THE LITTLE MERMAID』にみられる特徴

3.1.1 英語版映画『THE LITTLE MERMAID』の社会背景

映画『THE LITTLE MERMAID』が公開されたのは1989年のことである。本作が生まれるまえにウォルト・ディズニーが手がけたヒロイン3部作『白雪姫』『シンデレラ』『眠れる森の美女』は、『製作部門の女性スタッフはベタ塗りなどの単純労働しかなく創造的な仕事をするのは男性という製作現場の現状があった』（2010李・高橋）中で生まれたことから、1930～1960年代の男

¹⁸『ディズニースーパーゴールド絵本 リトル・マーメイド』著者 森 はるな、構成 斎藤 妙子、講談社（2010年7月28日第1刷発行、2012年1月12日第4刷発行）

¹⁹英語版映画：『THE LITTLE MERMAID』監督/脚本：ジョン・マスカー/ロン・クレメンツ 公開年 1989年11月7日

性による女性観の影響を強く受けていたといわれる。

対して、「THE LITTLE MERMAID」は、1980年以降のフェミニズムの影響を受けた作品である。製作現場には、作品において重要な仕事をする女性のスタッフが増えていき、女性は、男性に守られ養ってもらうのではなく、自らで道を切り開いていくものという価値観の中で、本作は生まれた。よって、『女性とはこうであるという価値観や秩序から逃れようとし、束縛を嫌う、1990年代の女性』（2010李・高橋）というメッセージが、主人公のアリエルに投影されているがゆえに、主人公アリエルは自ら道を切り開いていく力強い女性像になったと考えられる。

3.1.2 テキスト分析

3.1.2.1 登場人物について

日本語版絵本と英語版映画とでは、登場人物の数に大きな差がある。前述したように、日本語版絵本には登場人物は4人に絞られている。しかし、その原点となった映画には、英語版絵本の登場人物は、名前を与えられているのは、アリエル (Ariel)、トリトン(King Triton)、フランダール(Flounder)、セバスチャン(Sebastian)、エリック(Prince Eric)、アースラ(Ursula)、フロットサム&ジェットサム(Flotsam and Jetsam)、マックス(Max)、スカットル(Scuttle)、グリムズビー(Grimsby)、ルイ (Chef Louis)、カーロッタ(Carlotta)、アクアータ (Aquata)、アンドリーナ (Andrina)、アリスタ (Arista)、アティーナ (Atina)、アデーラ (Adella)、アラーナ (Allana) の19名であり、それに加え、Sailor1、2や、Woman1、2などという形で具体的な名前を与えられない登場人物も複数存在する。

「THE LITTLE MERMAID」がアメリカで生まれた作品であり、ディズニーによって、キャラクターへの名づけの作業が行われたことは明白であるため、本章でも、その名づけの作業の意図と、作品に与えた影響を明らかにする。なお本章では、2章で登場しなかったルイ (Louis)、カーロッタ(Carlotta)、アリエルの姉妹であるアクアータ (Aquata)、アンドリーナ (Andrina)、アリスタ (Arista)、アティーナ (Atina)、アデーラ (Adella)、アラーナ (Allana) について分析を行う。

まず、ルイ (Louis) についてであるが、本作では英語の中に時折フランス語の混ざるシェフである。Louisはフランス語圏の男性名であり、原義には「名高き戦士」の意を持つ。映画の中では、刃物を持って獲物を追いかけてまわし、逃げ回るセバスチャンに「男らしく戦え！」と怒鳴りつける戦士のような気質を持つため、この性格を暗示するためにこの名前がつけられたと考えられる。

次に、カーロッタ(Carlotta)であるが、本作ではアリエルの世話を焼く召使として登場する。この名前はヨーロッパ、特にイタリアで使用される女性名である。実際に、映画の中でカーロッタは、rを巻くイタリア系の英語を話す。ここから、カーロッタの出身地がイタリアであることが読み取れる。

これらの二人の名前に関する名づけの分析により、2章で考察した本作において「名前で登場

人物の大まかな出身地を暗示している」ことがより明らかとなった。また、特にエリック王子を取り巻く人間には、グリムズビー、ルイ、カーロッタなど地方性のある名前がつけられる傾向にあることも分かる。これによって、エリックの生きる陸の世界が多様性に飛んでいることを、見るものに訴えかける。そしてこの多様性の暗示は、主人公のアリエルにとって、彼女が憧れる人間の世界が多様性に満ち溢れていることの根拠ともなりうる。

3.1.1.2 スクリプトについて

添付資料③のコード化からもわかるように、日本語版絵本の原作となる英語版映画には、日本語版絵本では削除された多くの要素が存在する。本項では、添付資料③における展開Ⅰ～Ⅸのそれぞれにおいて、英語版映画のスクリプト欄（Eの行）で、どのように場面が変化していくかを明らかにすることで、英語版映画の特徴を明らかにする。

展開Ⅰは、①～⑧の 8 つのシーンに分けることが出来る。その全体を通してアリエルの住む海の世界と人間の世界それぞれの位置づけ、主要な登場人物の概要と関係性を示す導入の役割を担っていることが特徴である。また、海の世界と人間の世界のそれぞれを、時間軸を同じくしながら全く別々に提示していることも、展開Ⅰの特徴である

展開Ⅱは、①～②の 2 つにわけることが出来る。ほかの展開と比べて、場面の転換と登場人物のセリフが少ないのが特徴である。これは、アリエルがエリックに出会い、ひとめぼれをするという、アリエルの意思決定の契機に当たる重要な描写を、主人公アリエルと同じ目線から、映像で印象付ける効果があると考えられる。

展開Ⅲは、①～④の 4 つに分けることが出来る。登場人物の具体的な行動の前に、それを暗示する天気の変化があるのが特徴である。また、これまで海の世界、人間の世界という 2 つの世界が別々に描かれていたのに対して、ここでは海の登場人物と人間の世界の登場人物が一つのシーンの中に一緒に登場することも、特徴として挙げられる。

展開Ⅳは①～⑬に分けることが出来る。アリエルの住む海の世界についての描写がほとんどを占め、同時に、主人公アリエルをとりまく海の世界の登場人物の思惑が明らかになる。ここで、アリエルに対する登場人物の態度が、アリエルに賛成するもの、アリエルに反対するもの、アリエルを利用しようとするものの 3 種類存在することが提示される。

展開Ⅴは、①～⑤に分けることが出来る。人間の世界を中心に描かれ、脚を手に入れて喜ぶアリエルと、それを憂いるセバスチャンの対比が象徴的である。同時に、これまで人

間の世界に憧れを抱くアリエルに反対していたセバスチャンが、トリトンの命令よりもアリエルの幸せに重きを置き始めるという、関係性の変化が描かれている。

また、エリックの愛犬マックスのみが、アリエルの正体に気付いていることが示され、人間の世界＝騙されている存在、海の世界および動物＝真実を見抜く存在という対比が描かれている。

展開Ⅵは①～⑰に分けられる。Ⅴに引き続き、エリックのすむ陸の世界が舞台になるが、セバスチャン、フランダールなど海の仲間たちが陸の世界と交わっている点が特徴的である。アリエルのE-④のように、人間の世界の道具を、海の世界での知識を基に使う描写も、人間と海の世界の文化的交わりを示している。

また、ここでも関係性の変化が色濃く描かれている。それまでアリエルの医師に戸惑いを抱いていた海の仲間たちが、アリエルと同じ目標を共有し、一つのゴールに向かうチームになっている点が特徴的である。また、アースラの悪意がはっきりと示される点も特徴的である。

展開Ⅶは①～⑩に分けることが出来る。人間の世界と、海の世界の両方が描かれ、それぞれの世界の登場人物が同じシーンに登場することが特徴的である。また、展開Ⅴで示された、動物のみが真実に気づくことが出来る、という構造は、展開Ⅶにおいても⑦や⑨に見られる。アリエルは仲間の動物たちによって助けられるが、ここで、海の動物と陸の動物が協力してアリエルを助けている点が象徴的である。

展開Ⅷは、①～⑪に分けることが出来る。人間の世界（船）と海の世界の両方が描かれるが、アリエルを追うエリックが、海の中へ飛び込むこと、すなわち、これまでのシーンで見られた海の世界から人間の世界というアプローチから、人間の世界から海の世界へのアプローチと変わっていることが特徴的である。と同時に、父親が娘のために犠牲になる、という親子愛も描かれている。また、海の世界の邪悪な存在アースラを人間であるエリックが倒し、人間の世界を一番嫌っていたトリトンが、人間エリックによって助けられる点も、特徴的である。

展開Ⅸは①～⑱に分けることが出来る。海の世界、人間の世界（船）の両方が描かれるが、最後にアリエルが選ぶのは人間の世界であり、人間世界の優位が描かれている。また、話の初期ではトリトンと同意見だったセバスチャンが、アリエル側につき、トリトンへ意見するようになる。トリトンが自らアリエルを人間に変えてやることで、父親像の変化、および娘の自立を認めた父親の子離れも象徴されている。

また、セバスチャンが自分を料理しようとしていたコックのルイに仕返しをする点に勸善懲悪が、馬鹿にしてきたカモメのスカットに頭をなでられる点で海の仲間たちの関係性

の変化が描かれている。最後のシーンでアリエル達の乗る船の上に7色の虹がかけられるが、このという数字は、海が7つに分けられることと重なり、海の世界すべてが陸の世界を祝福していることを暗示している。

しかし、アリエルの幸せが「エリックとの結婚」である点、脚を「父親」から与えられる点において、幸せが男性から与えられるという当時の社会背景を反映しているともいえる。

3.2 英語版映画と日本語版絵本との比較

日本語版絵本と、その作成のもととなった英語版映画を比較することで明らかになるのは、輸入の際に日本語版絵本に採用された要素と、削除された要素である。またこれは、作成者ウォルト・ディズニー・カンパニーにとって日本人の読者に受容させたい要素と、削除すべき要素、と言い換えることができる。本項では、このそれぞれが具体的にどんな要素であるのかを明らかにする。

3.2.1. 原作（英語版映画）から削除された要素

次に、絵本を作成する段階で削られた要素について、各展開で比較する。以降、添付資料③のコード化を踏まえ、読み取れる傾向を分析する。

【展開Ⅰ…ⅡとE①～⑧】

まずⅠ-E①②が削除されたことによってストーリーの構造に変化が見られる。まずⅠ-E①が削除されたことで、船乗り達の間で伝説として語られている海の世界の話が、Ⅰ-Jでは、存在が断定された世界として提示される。

また、Ⅰ-E②が削除されたことで、セバスチャンが本来音楽家（指揮者・作曲家）であること、アリエルに姉妹がいること、7人姉妹であること、そのそれぞれに名前がつけられていること、アリエルが末娘であることが情報として削除される。また、Ⅰ-Jではアリエルの声について「だれよりも美しい声」と、世界の中での最上級を表しているのに対し、Ⅰ-Eではトリトンとセバスチャンの中の会話でトリトン王が「娘たちの中でもアリエルが一番」と、姉妹の中で比べており、比較対象が明らかにされている。

Ⅰ-Eでは、「アリエルは人間の世界に憧れている」と直接表現することはなく、登場人物の行動を通して、長い時間をかけて伝えられるが、Ⅰ-Jでは冒頭に直接的な言葉で伝えられる。

【展開Ⅱ…ⅢとE①～②】

ここでは、Ⅱ-Eで多く描写される船上パーティーでの出来事かすべて削除されている。これにより、Ⅱ-Jにおいてストーリー後半への伏線の削除、時間の経過の不明確、恋愛表現の回避、エリックとアリエルの共通点の削除が生じる。

Ⅱ-E①では、エリックの愛犬マックスがアリエルと初めて接触するシーンがあり、この接触が後にⅢ-E④で人間になったアリエルをマックスが発見する根拠となるため、伏線が削除されているといえる。また、E②ではグリムズビーがエリックに石像をプレゼントするが、この石像はⅣ-E⑩のアリエルとトリトンのシーンで登場する。絵本ではこの一切の描写が削除されている。これらから、絵本に輸入される際には多くの伏線が削除されることが分かる。

次に時間の経過の不明確であるが、アリエルとフランダーの秘密の場所がセバスチャンに知られ、ちょうどそのあと船が頭上を通り過ぎたことでアリエルが水面にでる、という描写が省かれることで、昼の出来事か夜の出来事か、など、海と人間の世界における時間の経過が曖昧になっている。

つぎに恋愛表現の回避である。これは、Ⅱ-Jでアリエルがエリックを「すてき」と評価し、「もし、わたしがにんげんだったら「おともだち」になれるのに……。」と、恋愛表現を避けているのに対し、Ⅱ-Eではエリックを影から見つめ、「ハンサム」という表現で異性として見ていることがはっきり分かる。

そしてアリエルとエリックの共通点の削除であるが、Ⅱ-E②ではグリムズビーとエリックの会話から、エリックの結婚を国中が望んでいること、お見合いをした相手と結婚してほしいと願われていること、エリックはそれを拒んでいること、直感にしたがって相手を決めたい、と願っていることが表される。ここで、自分の世話をする人に反抗して自分の道を貫こうとする、エリックとアリエルの共通点が明らかになるのに対し、Ⅱ-Jではそれが見られない。

【展開Ⅲ… JとE①～④】

Ⅲ-JとⅢ-Eを比較し削除されているのは、Ⅲ-E①の逃げ遅れた愛犬マックスを助けるため、一人で泳いで戻り、そのときに船に雷が落ちて海に投げ出される描写と、そこから示されるエリックの人間性である。また、E④のアリエルが浜辺にたどり着いてからエリックがグリムズビーに発見されるまでの間、王子に見とれ、歌を歌うシーンも削除されている。その中には、「あなたのいる世界で暮らすには何を払えばよいのだろう」という、アリエルの、漠然とした人間の世界への憧れが、エリックのいる世界への憧れへという具体的なものへと変わっていく様子が描写されている。この歌の中では、「Just you and me I could be」や「I don't know when I don't know how but I know something's starting right now」など、アリエルの強い意志を感じられる歌詞も使われている。

また、アリエルが人間に恋をしたことについて、お目付け役を命じられたセバスチャンが苦悩する描写、それをよそにアリエルが自分を愛しているか否かについてアリエルが花占いをする描写、我慢できずアリエルが今晚アリエルに会いに行こうとする描写、それを止めるためにセバスチャンが海の魅力を歌に乗せた歌「Under the sea」を歌う描写、アリエルの恋について問うためトリトンがセバスチャンを呼ぶ描写、意図せずセバスチャンがアリエルの恋の相手が人間であると話してしまう描写、フランダーがアリエルにエリック像を見せる描写が省かれている。

【展開Ⅳ… JとⅣ-E①～⑮】

ここで削除されているのは、E⑨アリエルの恋について怒ったトリトンがアリエルの宝

物が隠された洞窟に行き、自分のいうことを聴かないアリエルに対して、アリエルの宝物（人間の世界のもの）をすべて壊してしまふから娘への酷な描写である。

更に、E⑩のジェットサムの尾ひれによって飛ばされてきた、砕けたエリックの像の顔を見て、アリエルはアースラの下へ行くことを決心するが、この伏線の回収が、原作では削除されている。

また、アースラ像についてもIV-JとIV-Eでは異なる。IV-E⑩では、アリエルがフロットサム・ジェットサムを怖がり、さらにアースラについて語った際、その名を聞くと同時に「The sea witch?」と返しさらに拒絶し、セバスチャンもアースラについて「She's a demon, she's a monster!」と語ることから、海の魔女の知名度とその悪名高さが表されているが、IV-Jではそれがない。アリエルの望みをかなえる方法を一通り語り、アリエルをその気にさせた後、報酬の話をする。アリエルに同情し、人間に恋をしたことに対して「Not that blame you. He is quite a catch, isn't he?」と語りかける。加えてアースラが、自分の悪いイメージを挽回する歌を歌い、自分を信じ込ませようとする。契約の際にも、「Now, here's the deal. I'll make you a potion that will turn you into a human for three days.」とまくし立てるようにアリエルを追い詰める。声が出なくなることについては、むしろアリエルが「But without my voice, how can I...」と心配するのに対して「You'll have your looks, your pretty face. And don't underestimate the importance of body language! Ha!」と語りかけ、契約をなんとしてでも成立させようとする様子が現れている。

対してIV-Jでは、はじめから「そのきれいなこえとひきかえに」という交換条件を明らかにした描写である。「人間になれる薬をあげよう。みっかのうちにおうじがキスをすれば、ずっとにんげんでいられるんだよ。キスをされなかったらいっしょうこえのでないにんぎょさ。いいのかい?」と、対等な立場で契約を持ちかける様子である。

またIV-E⑬で、アースラは英語だけでなくイタリア語やフランス語など、あらゆる国の言葉を用いた呪文を使う。これにより、海の世界が広くひとつであること、あらゆる世界を支配できる強大な力を持っていることを暗示させる。

【展開V…JとV-E①～⑤】

ここで削除されているのはE-③④の、マックスがアリエルを見分けることのできる数少ない「陸」の生き物であることが示される描写である。ここでは、エリックが、自分を助けたアリエルを忘れられないこと、音だけを覚えていること、彼女をいたるところで探し回っていることが明らかにされる。

また、関係性の変化も削除されている。E-③ではセバスチャンが「Maybe there's still time,」と、契約を戻してもらおうとするが、その後考え直し、今後はアリエルが王子を見つけられるよう助けると考えを変える。このときから、セバスチャンとアリエルの関係性が、お目付け役とおてんばなお姫様、という対立関係から、「同志」という仲間へと変化

していく描写がV-Jには見られない。

またV-E⑤では、エリックは一度アリエルのことを、「You're the one I've been looking for.」と、まさしく自分が探していた人だと認識する。しかし、その後「You can't speak?」と、声が出ないことを根拠に人違いであると判断する。絵本では判断基準が明示されておらず、ストーリーにおいて「声」の重要性が軽減されている。その後、声の出ないアリエルにエリックが「つらい思いをしてきたのだろう」と同情したことで、城へつれて帰る。

【展開VI…JとVI-E①～⑱】

このうち①～⑱と、⑮～⑱の、ボートを転覆させた犯人についての表記が削除されている。これに伴い、アースラが初めから契約を成功させるつもりがないことがEでは展開VIで示されるが、Jでは展開VIIまで明らかにされない

また、エリックが自分を助けた少女を運命の相手と感じていること、ずっと自分を助けた女性を捜し求めていることが削除され、結果絵本ではアリエルがエリックを追う姿が強調されている。さらには、VI-E⑥～⑪でみられるアリエルとセバスチャンの関係性の変化、具体的にはセバスチャンが自分を危険にさらしてなおアリエルを見守ろうとしている姿が削除される。さらに、Jでは終始娘に対して強固な態度を取る父親像が描かれているが、VI-E⑫では父親としてのあり方に思い悩み始めるトリトンの姿が描かれ、父親と娘の関係性についても異なった描写である。日本の家庭において父親が家の柱であり絶対的な存在であることを意識し、削除されているのではないかと考えられる。

【展開VII…JとVII-E①～⑱】

ここで削除されている要素は、E②④⑤⑥⑨である。V-E④にみられた、マックスだけがアリエルを見抜くことが出来る、という描写のカットに伴い、VII-E⑨の、マックスだけがアースラの正体を見抜くことが出来たという描写も削除されている。これによって、絵本では、動物たちがいち早く真実を見抜くことが出来るという要素が示されない。VII-E⑦では、これまで仲間仲間間抜け扱いされてきたスカットルが、彼のつれてきた仲間とともにヴァネッサを攻撃することで貝殻が割れた描写があり、ここで、スカットルのキャラクターの位置づけが変わってくることも省略されている。

【展開VIII…JとE①～⑭】

ここで削除されているのは、E②、④～⑨である。④～⑧が削除されることで、エリックがアリエルを追い海の世界に飛び込む、という立場の逆転が失われ、ストーリー全体を通して、絵本ではアリエルがエリックを追いかける様子が強調される。結果、絵本の方が

映画よりも、読者に積極的な主人公像という印象を与える。

またE⑤で、娘を守るためにトリトンが自らを犠牲にする描写が削除されることで、ストーリーから親子愛の要素が省かれている。

【展開IX…JとIX-E①～⑩】

ここで削除されているのは、②と④～⑩である。アリエルとエリックの結婚式における細かな描写が削除されている。代わりに、Jでは「いつまでも幸せに暮らしました」という、その後の時間の経過についても言及される。Eはその瞬間の幸せを強調するのに対し、Jは時間の幅を意識した表記がされている。また、アリエルへの教育に関してI-E⑦で「言うことを聞くようしっかりと見張っておくべき」といていたセバスチャンが、IX-E⑩でトリトンに意見を求められたとき、アリエルとの行動を経て『いつも言っているように』子供は自分で自分の道を選ぶべき、と答えることで、セバスチャンがアリエルの気持ちを理解し、心からアリエルの幸せを願うように変化している様子が削除されている。そして、展開I-E⑧で使われていた全体を通してのテーマ曲が、主語を「Now we can walk, Now we can talk, Now we can stay all day in the sun」と複数形（アリエルとエリック）に変え、特に最後の歌詞も part of 「that」 word から part of your world と変化していること、E⑩で海に七色の虹がかかることで、2人が同じ世界で生きていく、さらに海と陸の世界の一致が象徴されて終わる、という要素が削除されている。

3.2.2 テキストから見る共通点と相違点

3.2.2.1 共通点

第2章で行った英語版絵本と日本語版絵本の比較分析の結果と同様に、登場人物においてはアリエル、アースラ、エリック、トリトン、が共通している。登場人物の属性、位置づけ、名称そのものに差異は見られない。話の構造については、アリエルとエリックの恋愛物語、勧善懲悪を主軸としている点で共通している。主人公が、人間の世界にあこがれる人魚姫である点、アリエルがエリックに出会い、魔女アースラの策略によって危機を迎えながらも最終的には人間になりエリックと結ばれる点など、大筋も共通している。

3.2.2.2 相違点

英語版映画と日本語版絵本で相違がある点を、まずは登場人物と話の構成で抽出する。日本語版絵本と英語版映画とを比べて見出される差異として、a.登場人物描写の差異、b.ストーリー進行における視点、c.あいまいさの回避、d.動物たちの活躍と作中における位置づけの変化、e.残酷さの排除、f.世界観の広がり、g.恋愛に関する表現の排除、h.伏線の削除、i.主人公の積極性の強調、j.関係性の変化、k.日本への適応が挙げられる。

a.登場人物の差異

まず、登場人物についての差異についてである。日本語版絵本における登場人物が4人であるのに対し、英語版映画における登場人物は、具体的な名前を持つ19人に加え、複数の船乗りや召使い、Sailor1、2や、Woman1、2などという形で具体的な名前を与えられない登場人物も複数存在する。ゆえに、日本語版では登場人物が大幅に減らされている点が異なる。英語版では、英単語の意味とキャラクターの名前に関連性があるため、そのイメージを持って視聴者は消費している。しかし日本語版では、その意味を知ることが難しいため、純粹な名前として受け止め、結果、キャラクターの個性は英語版よりも薄くなることで主人公アリエルの人格と、アリエルの行動そのものにより注目が行くように作られている。

b.ストーリー進行における視点

次に、ストーリー進行における視点についてである。絵本は客観的に状況を伝えるのに対し、映画では、ある時はアリエルと同じ目線からエリックを見上げ、ある時はエリックの目線からアリエルに覗き込まれるなど登場人物の視点からシーンを描かれることが多い。とくに、アリエルの意思決定の契機に当たる重要な描写においてその傾向が顕著である。これは、主人公アリエルを初めとしていろいろな登場人物の目線から物語を追うことで、見る人が感情移入しやすいという効果を狙ったものであると考えられる。

c.曖昧さの回避

映画で、観る者に話の中で推測させるようなことが、絵本では直接的な表現で書かれてい

る。原作で視聴者に推測させる部分を、絵本ではわかりやすくはっきりと定義・明示させることが多い。たとえば、海でおぼれたエリックをアリエルが助けるシーンでは、映画ではエリックが船の外に投げ出されたのがよる、次のカットが浜辺での朝のカットであるから1番が過ぎたことが推測されるが、絵本では、「アリエルは、きをうしなったおうじをかかえて、ひとばんじゅう、あらしのうみをおよぎつづけました」と具体的に表記される傾向にある

d.動物たちの活躍と作中における位置づけの変化

本作には人間や人魚ばかりでなく、多くの動物が登場するが、とくに動物たちの作中の活躍と、それぞれの関係性の変化は、日本語版絵本で削除される傾向にある。まず、日本語版絵本ではフランダー、セバスチャン、スカットルが削除されていることに伴い、彼らがストーリーの中でアリエルに貢献したこともすべて削除されている。

映画ではエリックの愛犬マックスのみが、アリエルの正体に気付いていることが示され、人間の世界＝騙されている存在、海の世界および動物＝真実を見抜く存在という対比が描かれている。しかし絵本では、動物たちがいち早く真実を見抜くことが出来るという要素が示されない。

また、絵本には全く出てこないセバスチャン、フランダーなど海の仲間たちが陸の世界と交わっている点が特徴的である。

動物のみが真実に気づくことが出来る、という構造は、映画においてはたびたび見られる。アリエルは仲間の動物たちによって助けられるが、ここで、海の動物と陸の動物が協力してアリエルを助けている点が象徴的である。人間の世界への揶揄？

セバスチャンとアリエルの関係性が、お目付け役とおてんばなお姫様、という対立関係から、「同志」という仲間へと変化していく描写が日本語版絵本には見られない。

e.残酷さの排除

日本語版絵本は、英語版映画と比べてとげをなくし、残酷さをなくし、柔らかな表現に表されている。たとえば、自分のいうことを聴かないアリエルに対して、アリエルの宝物（人間の世界のもの）をすべて壊してしまい、アリエルが悲痛な叫び声をあげる父から娘への酷な描写は、絵本では一切見られない。また、アリエルとアースラの契約の場面において、アースラが一方的に語りかけ、契約をなんとしてでも成立させようとする様子が現れているのは映画のみであり、絵本では対等な立場で契約を持ちかけている。

f.世界観の広がり

原作では、アースラ、シェフの類などの登場人物が英語以外にもあらゆる国の言語を用いていることで、彼らの住む世界が日乙の言語では完結しない、広い世界であることが間接的に表されている。

名づけの分析により、2章で考察した本作において「名前が登場人物の大まかな出身地を暗示している」ことがより明らかとなったが、これも開設をせずに作品の舞台が広い世界であることを示している。たとえば、特にエリック王子を取り巻く人間には、グリムズビー、ルイ、カーロッタなど地方性のある名前がつけられる傾向にあることも分かる。これによって、エリックの生きる陸の世界が多様性に飛んでいることを、見るものに訴えかける。そしてこの多様性の暗示は、主人公のアリエルにとって、彼女が憧れる人間の世界が多様性に満ち溢れていることの根拠ともなりうる。またアースラは英語だけでなくイタリア語やフランス語など、あらゆる国の言葉を用いた呪文を使う。これにより、海の世界が広くひとつであること、あらゆる世界を支配できる強大な力を持っていることを暗示させる。

g.恋愛に関する表現の排除

恋愛に関する描写が極力排除され、交友関係の延長、のようなオブラートに包む傾向が見られる。たとえば絵本では、アリエルがエリックを「すてき」と評価し、「もし、わたしがにんげんだったら「おともだち」になれるのに……。」と、恋愛表現を避けているのに対し、映画ではエリックを影から見つめ、「ハンサム」という表現をしたり、エリックの銅像に向かって「駆け落ちしない？」と語りかけていることからで異性として見ていることがはっきり分かる。また、トリトンに問い詰められたとき映画でアリエルは「彼を愛しているの！」とはっきり自分の行為の形が異性への愛であると述べる。日本語版絵本では、好意を寄せているところまでは明らかになっているが、それが友愛なのか、あるいは恋愛なのかを遠回しに伝えようとする傾向がみられる。

h.伏線の削除

マックスが人魚のアリエルと一度会っていることによって、浜辺で彼女を見つけることができた、という描写を初め、絵本に輸入される際には多くの伏線が削除されることが分かる。この最大の原因は、登場人物を4人に絞っているために、複雑なストーリー展開ができなくなっているためであると考えられる。

i.主人公の積極性の強調

映画と日本語版絵本とでは、アリエルの性格の描かれ方にも差がある。具体的には、アリエルの積極性が強調されているのである。エリックがアリエルを助けるために海の中へ飛び込むこと、それまでの海の世界から人間の世界へのアプローチから、人間の世界から海の世界へのアプローチと変わっていることの描写は、映画にしか見られない。ここではエリックがアリエルを追い離れまいとする、立場の逆転があらわされ、それによって相思相愛が示される。しかし絵本ではそれは失われ、ストーリー全体を通して、アリエルがエリックを追いかける様子ばかりが強調される。その結果、絵本の方が映画よりも、読者に積極的な主人公像という印象を与える。途中の段階でも、エリックが自分を助けた少女を運命

の相手と感じていること、ずっと自分を助けた女性を捜し求めていることが削除され、結果絵本ではアリエルがエリックを追う姿が強調されている

娘を守るためにトリトンが自らを犠牲にする描写が削除されることで、ストーリーから親子愛の要素が省かれている。

j. 関係性の変化

登場人物の数に大きな差があることで、それぞれの登場人物同士の関係性の変化についてもあらわされ方に差異が生まれる。

話の初期ではトリトンと同意見だったセバスチャンが、行動を共にするうちにアリエル側につき、トリトンへ意見するようになる様子や、アリエルの結婚式の後トリトンとエリックが顔を合わせる場面な、更に、人間の世界を一番嫌っていたトリトンが、人間エリックによって助けられる関わりが一切削除されている。また、話の中盤で生きる世界を異にするアリエルとエリックの共通点として、自分の保護者に反抗して自分の道を貫こうとするが明らかになるのに対し、日本語版にはその表記がない。

また、英語版映画により顕著に見られる傾向として挙げられるものもある。それは、アリエルをとりまく登場人物の態度が、アリエルに賛成するもの、アリエルに反対するもの、アリエルを利用しようとするものの3種類存在することが提示されることである。とくに、アリエルに賛成する者に関して、日本語版絵本では削除されている場面が多い。結果として日本語版絵本では、アリエルが自力で困難に立ち向かっていく様子が強調される。これは、前述した、アリエルの積極性の協調にもつながっている。

k. 日本への適応

ほかにみられる特徴として、日本文化への適応を意識している点があげられる。たとえば、日本語版のトリトンが、英語版と比べて父としての在り方に一人悩む描写がないのは、日本の家庭において父親が家の柱であり絶対的な存在であることを意識し、父を偉大なものとして描きたかったからではないかと考えられる。

また、アリエルとエリックの結婚式における細かな描写が日本語版では削除されている。そして話の終わり方について、日本語版絵本では「いつまでも幸せに暮らしました」という、その後の時間の経過についても言及される。映画は結婚した瞬間の幸せを強調するのに対し、Jは時間の幅を意識した表記がされている。これは、昔むかし、で始まり、幸せに暮らしましたで終わる日本昔話の表現方法を取り入れたものではないだろうか。日本で昔から受容されている物語と似せることで、そのうちの一つとして同じように受容される狙いがあるのではないかと考えられる。

さて、上記をまとめて見えてくるものは何か。最も顕著なのは、夢の実現に向かうアリエルの仲間との関係性における差である。繰り返しになるが、英語版映画には多くの登場人物が存在し、日本語版で削除された「アリエルに賛成するもの」に当たるキャラクターとの関係性も多く描か

れている。よって映画のアリエルは、仲間とともに困難に挑む主人公像の象徴といえる。対する日本語版絵本は、登場人物がアリエル、アースラ、エリック、トリトンであることから、「アリエルに賛成するもの」が存在しない。結果、アリエルがたった一人で困難に挑み時に耐えながら乗り越えていく様子が描かれ、より力強くたくましい主人公像となっている。王国の末姫という、一般的に守られ温室で育てられる弱い存在が、誰よりも自分の意志を強く持ち、行動力にあふれ、苦難に耐えながらも環境を変えていく様子は、日本の文化的背景を鑑みるとより一層、読者の印象に残る。日本に受容されている「リトル・マーメイド」のアリエルは、積極性にあふれ、また厳しい父親の教育の中でもがきながら自分の道を切り開こうとする、たくましさと力強さを併せ持つ女性の象徴となっているのである。

第4章 考察

さて、第2章、第3章で行った分析を通して、本章では、アメリカで受容される『THE LITTLE MERMAID』と、日本で受容される『リトル・マーメイド』の総合的な要素と特徴について纏めていく。第2章の英語版絵本・日本語版絵本の比較、第3章の英語版映画（原作）と日本語版絵本の比較結果の擦り合わせにより、アメリカと日本とでは、特に5つの点について、顕著な差異がみられることが分かる。以下、①登場人物の数、②話の主題、③残酷な表現の扱い方、④恋愛表現の扱い方、⑤登場人物の性格・人間性、⑥読者が作品から受容するイメージ、について総合的考察を行う。

4.1 総合的に判断される

アメリカで受容される『リトル・マーメイド』の要素と特徴

まず、①登場人物の数についてである。英語版絵本、英語版映画のどちらを取っても、日本語版絵本よりも多くの登場人物が具体的な名前とともに描かれている。これにより主人公アリエルと関わりを持つ登場人物の数は多くなり、結果、ストーリーに広がりをもたらされる。それに加え映画では、登場人物が地方性の訛りのある英語を使ったり、英語以外の言語を用いたりすることによって、海の世界、人間の世界それぞれが、文字や映像で表記される以上に見る者の中に広がりを作っている。

次に、②話の主題についてであるが、絵本と映画ともに、勸善懲悪に加え、恋愛、親子愛、友愛を主題としている。アリエルとエリックの間には恋愛が、アリエルとトリトン、アリエルとセバスチャンの間には親子愛が、アリエルとフランダー、アリエルとスカットル、アリエルとセバスチャンの間には友愛・チームワークが象徴され、展開ごとに少しずつ性質を変えながら、終始人間関係における感情の機微や多様性を示している。

③残酷な表現の扱い方に関しては、アメリカは子供向けであってもしっかりと伝える傾向にある。ここにおける残酷さとは、暴力や傷害などの物理的残酷さではなく、裏切りや人間関係の軋轢など、精神的な残酷さを指す。英語版絵本でも映画でも、話の早い段階からアースラはからアリエルを餌食にトリトンを陥れようとしていることが示されている。アリエルに対する契約を持ちかける時には、対等さはなく一方的にまくし立て契約書にサインをさせるし、アリエルの成功を手下を使って徹底的に邪魔しようとする。また、トリトンも、自分の価値観を娘に押し付け有無を言わず、いうことを聞かない時にはアリエルの宝物を全て破壊してしまいアリエルが悲痛に嘆く様子が描かれている。この、残酷性がしっかりと描かれることで、ストーリーにおける喜怒哀楽がはっきりし、流れにメリハリが与えられる。作品から提供される情報が多くても、みるものを飽きさせない工夫の一つとも考えられる。

④恋愛表現の扱い方について言えるのは、アメリカの「リトル・マーメイド」は、直接的ではっきりとした愛情表現が用いられることである。英語版絵本には、アリエルがおぼ

れたエリックを助けた際目が覚めるまでの間に、優しく頬に触れたり、愛の歌を歌ったり、キスをして海に戻ったりする表記が見られるし、映画ではトリトンに対して、エリックを愛している、と感情を言葉に表している。これは日本と比較した際に、感情表現をはっきりと示すアメリカの文化背景が、影響を与えていると考えられる。

そして⑤登場人物の性格・人間性についてである。アメリカで受容される「リトル・マーメイド」は、一人のキャラクターにいくつもの属性を持たせ、脇役についてもこの精神的変化をしっかりと描く傾向にある。例えばトリトンを海の王国の国王という絶対的存在として示す一方で、アリエルをめぐる父親としての在り方に悩む弱さも示される。セバスチャンは初めトリトンに忠実な音楽家であり、アリエルをトリトンの命に従わせることに必死だったが、アリエルと時間を過ごすうちに彼女を応援するようになり、果てはアリエルの幸せのために真実をトリトンに意見をすまでになる。これによって、物語をただの勧善懲悪・恋愛物語に終わらせずあらゆる立場の登場人物の成長物語としても成り立たせる効果がある。さらに各登場人物の内面が深く描かれるので、受信者が感情移入できる対象が増え、結果としてより多くの受信者に愛されるための布石を提示することにつながっている。

最後に⑥だが、特に幼少期に接点を持つ絵本に特化して言えることとして、幼いころに触れた本作は、アメリカでは「言語化された情報」として記憶されていることが考えられる。というのは、英語版は日本語より挿絵の数が少なく、文章によって多くの情報を読者に伝える傾向があるからである。挿絵の背景も簡素化され、挿絵の上にスクリプトが重ねられている部分も多くみられる。よってアメリカの読者は、文字で受容した多様な情報を、各々が印象に残った観点から記憶していくため、解釈にも多様性が生まれると考えられる。

4.2 総合的に判断される

日本で受容される『リトル・マーメイド』の要素と特徴

まず、①登場人物の数であるが、日本語版絵本は、英語版絵本・映画と比べ、大幅に数が少なく4人である。これは、対象年齢をアメリカより低くし、幼い頃からディズニー作品を馴染みのあるものにさせようという意図と、それに伴う話の簡略化で、読みやすさを重視したことの結果であると考えられる。この登場人物の少なさが、②話の主題や、⑤登場人物の性格・人間性についても影響を与える（詳細は後述）。

次に②話の主題についてであるが、日本語版絵本においては、勧善懲悪と恋愛物語が扱われている。①で言及したように登場人物が極限まで減らされていることから、アリエルの友人に当たるキャラクターがおらず、結果、友愛（友情・チームワーク）が描かれない。これにより、主人公アリエルは、たった一人で道を切り開く、力強い女性として強調される。これは、1890年代後半から1990年代前半の、フェミニズムの隆盛の影響を受けていると考えられる。

また、トリトンとアリエルの関係性についても、それぞれの一方的な意思表示が多く、双方向のやりとりは描かれていないため、家族愛の要素も薄い。これらの結果、読者は必然的に主人公アリエルの視点・感情から恋愛物語を追うことになり、日本における読者の解釈はほぼ単一化される。裏を返せば、ウォルト・ディズニーによる日本への輸入の際に、日本の読者に単一の解釈を持たせるような編集がされたとも考えられる。その結果、日本の読者は共通の作品イメージを共有することになり、結果として、日本のリトル・マーメイドへの印象も画一化されることになる。

次に、③残酷な表現の扱い方についてである。日本で受容される「リトル・マーメイド」は、英語版絵本、映画のどちらと比べても、極めて残酷性とそれに伴う悪意が排除されている。トリトンの言いつけを守らないアリエルに対して、トリトンがアリエルの宝物を破壊する描写は完全に削除されているし、アリエルとエリックがキスをしようとした瞬間にアースラの手下がボートをひっくり返したのも、「運悪く」ひっくり返った、という表記にとどめられ、それがアースラの悪意によるものだという描写は削除されている。悪役の邪悪さは排除され、主人公に与える負の影響もアメリカで受容されるものより少ない。これにより、日本で受容される「リトル・マーメイド」は、いやなもの、汚いものを徹底的に排除し理想化されたおとぎ話へと変容を遂げていることが分かる。

④恋愛表現の扱い方については、日本は直接的な愛情表現を避ける傾向がみられる。例えばアリエルが初めてエリックを見たシーンにおいても、英語版絵本では一目ぼれという表記がされ、映画ではアリエルがエリックに対してハンサムという評価をし、ずっと見つめている描写がある。しかし日本語版では素敵な人、おともだちになりたい、といった意思表示にとどまる。エリックを助けたアリエルが、浜辺でエリックの頬に触れ見つめているシーンも、言葉では言及されない。更に言えば、日本語版絵本では、主題が恋愛物語におかれているうえアリエルが一人で道を切り開いていく姿が描かれるにも関わらず、アリエルがエリックに対して直接的に「愛している」や「好き」といった意思表示をすることはしない。日本語版絵本では、対象となる年齢を考慮した結果、恋愛表現が排除されたと考えられる。

次に⑤登場人物の性格・人間性についてである。登場人物が少ないことで、各キャラクターとの関わりの中で明らかになるそれぞれの人間性が、日本語版絵本に見られないことは前述のとおりである。

そればかりでなく、英語版映画から日本語版絵本への輸入の際に、作品公開当時の日本の文化的背景に合わせた取捨選択が行われていることも分かる。例えばトリトンの描かれ方についてそれが顕著である。日本語版絵本では、王であり、家族の主であり、威厳をもった絶対的な存在として描かれており、父親としての弱さは全く表出されない。これは、原作の持つ要素から日本における、男性優位性と亭主関白な父親像と親和性の高い部分だけが抽出された結果であると考えられる。また、アリエルについても、フェミニズムの影響を受けた「力強い女性像」以上に、日本における伝統的女性像である「耐える女性像」

も象徴されている。これらから示唆されるのは、本作が、読者である子供に対して親の存在感や理想の女性像を強調する、教育的意味合いを含むことである。

最後に⑥だが、特に幼少期に接点を持つ絵本に特化して言えることとして、幼いころに触れた本作は、「挿絵のイメージ」で記憶されていることが考えられる。というのは、日本語版絵本が英語版のそれと比べ、文字情報を極力少なくしその分多くの挿絵を用いていること、挿絵で繊細さや残酷さなどの機微を表すことで視覚的に読者にストーリーを訴えかける傾向があること、日本人の文化的価値観になじみやすい要素を含んだ挿絵で構成されていること、勸善懲悪が強調されていることに因る。これらによって、読み終わった後の読者に視覚的イメージの構成がうながされ、日本における「リトル・マーメイド」は、アメリカからもたらされた幸せな記憶として広く深く根付いていると考えられる。

4.3 考察

アメリカで生まれた一つの文化に過ぎないディズニーが、なぜ日本において類を見ないほど広く受容されているのか。この疑問から始まった本稿は、「日本におけるディズニーへの原点回帰に関する考察—『リトル・マーメイド』から見るアメリカ文化の受容と再構成について—」というタイトルの下、日本におけるディズニー作品は現在、アメリカで生まれたときとは異なる様式で受容されており、その姿はもはや日本独自の文化と言えうるのではないだろうか。」という仮説を立て、分析を進めてきた。結論として、この仮説はおおよそ正しかったといえる。アメリカで生まれたディズニー作品の一つである「THE LITTLE MERMAID」が、本国とは形を変えて日本で受容されていたことが明らかになったからである。

4.2 および 4.3 を通し、それぞれの需要の過程で最も異なるのは、日本の『リトル・マーメイド』の受容者は、幼いころに触れたこの作品を挿絵の「イメージ」で記憶し、アメリカの受容者は「言語化された情報」で記憶していると考えられることである。そして日本版特有の、残酷さを排除した「理想化されたディズニー」のストーリーが、イメージ記憶を強調している。さらにそれを日本人が画一化された解釈で共有することで、日本における「リトル・マーメイド」は、アメリカからもたらされた幸せな記憶として広く深く根付いていると考えられる。

しかし、日本で受容されている現在のディズニーの姿が100パーセント日本独自の文化と言えうるかについては、さらに深遠な調査が必要となる。なぜなら、本研究における聞き取り調査（添付資料④）より、現在のディズニーの姿が自然発生的な変容の過程で生まれた訳ではなく、ウォルト・ディズニー・カンパニーの意図が働いた結果であるということが明らかになったからである。（詳細については第2章、第3章で分析した通りである。）

よって、日本版絵本『リトル・マーメイド』の現在の受容のされ方が、ウォルト・ディズニーが本作を輸出する際に想定した受容のされ方と完全に同一であるのか、あるいは何らかの差があるのか明らかにする必要がある。もし差があればそこで初めて、現在のディズニーの姿が完全に日本独自の文化と言い切れるのである。これを明らかにするため、本研究では、ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）内、講談社への素材提供を行った部署であるディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパンへの詳細取材を申し込んだ。しかし、個人からの取材には答えられないとの回答を得、詳細を明らかにすることは叶わなかったため本研究の分析はここまでが限界となった。

いずれにしても、本研究によって、幼少期に触れた幸せな記憶を求める回帰の気持ちが、幼少期を過ぎてなお多くの世代に愛されるディズニーという文化の根幹にある、という示唆を得ることが出来る。そして、この幼少期の接点こそが、ディズニーのみならず日本で海外の文化が定着する上で大きな意味を持つと考えられるのである。

4.4 今後の展望

本研究では、ディズニー作品『リトル・マーメイド』の分析を通して、日本におけるアメリカ文化の受容と再構成の過程を、明らかにすることが出来た。現時点でこの分析結果は1事例のものに留まるが、一般化する事象である。というのも、本研究で明らかになったのと同様の受容プロセスが、日本において戦後、ひいては明治維新後の、西欧文化の受容過程で行われてきたと考えられるからである。

それを証明するには、より深遠にわたる研究が必要となる。まず分析作品を増やす必要があるだろう。また、その読者である親と子供を対象として、具体的にどのような要素に愛着を持っているのか、どのような意識で受容しているのかなどの、意識調査も必要である。これらを通して、日本で受容されるディズニー作品の主たる要素が何か、ひいては、アメリカ文化の受容において、日本ではどのような要素が定着し、再構成されているのかを明らかにすることができる。

また、作中で男性と結婚することが幸せと定義されている点、父親の許しと魔法によって人間になることができる点においては、男性優位社会のロジックが垣間見える。女性学の観点から、この作品がどのような意味を持つのか深めることも、本作が日本で幅広く受容された理由を明らかにする上で重要だと考えられる。

反省点として挙げられるのは、自身で作成したコード化の資料を、十分に活用しきれなかったことである。登場人物の属性やストーリー展開における事象など、言語化したに留まってしまい、それがどのような意味を持つのか、宗教学的にはどうであるのか明らかにしきれなかった。また、色については、各挿絵を構成する色番号は何でどれくらいの面積を占めるのか、色彩学や認知学的にそれがどういう意味を持つのかも、まだまだ十分言及の余地を残している。

それにしても、日本の学校教育と関係のない海外の作品が、日本で民間の娯楽としてここまで根付いていることは、改めて、大変稀有な例であるといえる。

そもそもウォルト・ディズニー・カンパニーによる映画が日本に初めて入ってきたのは、1950年9月のことである。第2次世界大戦後、全てを失って何も無い時代、国家規模でアメリカ文化を受容するなかで、娯楽として入ってきたアメリカ文化のひとつがディズニーであった。

当時娯楽として日本に存在した漫画は、風刺的要素を多く含み、現実を面白おかしく伝える存在であった。対するディズニー作品は、非現実の商品化による娯楽を提供する、正反対の存在となった。そしてディズニー作品は、辛い現実を生きる人々に逃げ場を与え、現在に至るまで、日本で地位を確立している。

そして戦後、商品化された非現実を消費した人々が親になり、幼児教育の一環として、ディズニー絵本を与える。絵本というものは、性質上親が子に読み聞かせる形で伝わるため、親子間でも商品化された非現実が共有される。そこで幸せなディズニーに触れた幼児

は、大人になって再び子供にディズニー絵本を与える。このようなディズニー文化の継承が、世代を越えて現在まで行われているのである。

さらに解釈を広げると、幼少期に触れた商品化された非現実、すなわち幸せなディズニーへの原点回帰は、現在具現化され、さらに人々を虜にし続けている。東京ディズニーランド、および東京ディズニーシーの存在である。昨年度開園 30 周年を迎え、過去最高の来場者数を記録した東京ディズニーランドは、現代を生きる私達にとって、辛いものを排除し理想化を具現化した非現実の世界そのものである。ゆえに、幼少期にディズニーの絵本で育った世代は大人になってなお、リアリティと解離したユートピアを求め、東京ディズニーランドに足を運ぶ。その後辛い現実にもどり、辛い現実に耐えかねた時に再びユートピアに帰る、という二分化の間を行き来するサイクルが、私達を虜にし続けるディズニー文化の根幹であるかもしれない。

謝辞

本研究を進めるに当たり、テーマ設定から考察の作成に至るまで、多岐にわたりご指導を下さいました卒業論文指導教員の藁谷郁美教授に、心より感謝申し上げます。ご多忙中にも関わらず、期限ぎりぎりまで何度も、私の稚拙な文章に赤入れ、ご指摘を賜りまして、誠にありがとうございました。

また、聞き取り調査にご協力下さった、株式会社講談社ディズニー出版部ご担当者様、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパンご担当者様、ゼミナールでの議論を通じて多くの教唆を下さった、藁谷郁美研究会の皆様にも、重ねて御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

参考資料

a. 参考文献（日本語）

- ・栗田房穂・高成田享(1984)『ディズニーランドの経済学』朝日新聞社
- ・能登路雅子(1990)『ディズニーランドという聖地』岩波新書
- ・J・C・クーパー著、岩崎宗治・鈴木繁夫訳（1992）『世界シンボル辞典』三省堂
- ・金光仁三郎、熊沢一衛、小井戸光彦、白井泰隆、山下誠、山辺雅彦（1996）『世界シンボル大辞典』
- ・北川公美子（2001）『アンデルセン「人魚姫」とディズニー「リトル・マーメイド」：「原作を知ること」の理解と実際』
- ・奥野一生（2003）『日本のテーマパーク研究』ソフィア叢書 竹林館
治：劇場社会のジャーナリズムと政治』
- ・有馬哲夫（2004）『ディズニーとライバルたち—アメリカのカートゥン・メディア史』
- ・水島久光(2005)「社会システムにおける公共性とメディアの位置--放送とインターネットの本当の関係」(特集 放送の公共性・新論) 月刊民放 35(5), 4-11
- ・谷藤悦史(2005)『現代メディアと政治：劇場社会のジャーナリズムと政治』
- ・中村洋（2006）『平成 18 年度改訂版の中学校英語教科書の特徴分析--ディズニー映画との語彙面の比較分析を中心に』
- ・古市久子・西崎有多子（2009）「絵本の翻訳に何が影響しているか～日英の絵本を通して～」『東邦学誌』38(1)
- ・森 はるな,斎藤 妙子(2010)『ディズニースーパーゴールド絵本 リトル・マーメイド』講談社
- ・山本晃輔（2010）「絵本を手がかりとした幼少期における自伝的記憶の内容分析」
- ・佐々木 俊尚(2011)『キュレーションの時代 「つながり」の情報革命が始まる』（ちくま新書）
- ・岡田尊司(2011)『愛着障害 子ども時代を引きずる人々』光文社新書
- ・李修京、高橋理美（2011）『ディズニー映画のプリンセス物語に関する考察』東京学芸大学紀要. 人文社会科学系. I, 62: 87-122
- ・有明教育芸術短期大学幼児教育学こども学科講師、並木真理子(2012)「幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響(第 1 部 自由論文) *Effects on Infants' Words of Sound by the Constructing of Reading and Childcare Persons' Actions and Words of Sound in the Kindergarten(Part I Free Topic Articles)*」
- ・株式会社オリエンタルランド第 53 期（2013 年 3 月期） 第 3 四半期 四半期報告書
- ・株式会社オリエンタルランド第 53 期（2013 年 3 月期） 有価証券報告書
- ・株式会社オリエンタルランド第 54 期（2014 年 3 月期） 第 1 四半期 四半期報告書

b. 参考文献 (英語)

- ・ Michael Teitelbaum (2003) “*The Little Mermaid (Disney Princess)*” (*Little Golden Book Golden/Disney Special*.版)
- ・ A WOLFRAM WEB RESOURCE
(http://www.wolframalpha.com/input/?a=*C.ariel-*GivenName.dflt-&a=*DPClash.GivenNameE.ariel-**Ariel.UnitedStates.male--&i=ariel)

c. 参考 URL

- ・ ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン公式ホームページ
(<http://disney-studio.jp/>)
- ・ Disney.jp 企業情報—The Walt Disney Company (Japan)Ltd.
(<http://www.disney.co.jp/corporate/index.html>)
- ・ テレメール進学サイト 夢ナビ 講義 No.01937 「ディズニープリンセスとその時代」
神戸松蔭女子大学文学部英語学科教授 川中紀子
(http://www.wolframalpha.com/input/?a=*C.ariel-*GivenName.dflt-&a=*DPClash.GivenNameE.ariel-**Ariel.UnitedStates.male--&i=ariel)
- ・ ネットリサーチの DIMSDRIVE 『東京ディズニーリゾート』に関するアンケート
(<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2005/050927/>)
- ・ 日本経済新聞 Web 版 2012.10.1 「TDLとTDS、上期入園者数が過去最高に1325万人」(http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD010I7_R01C12A0000000/)

(最終閲覧 平成 26 年 1 月 20 日)

d. 参考 DVD

- ・ ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 (1989) 『THE LITTLE MERMAID』監督/脚本ジョン・マスカー/ロン・クレメンツ

添付資料①

英語版絵本「THE LITTLE MERMAID」と

日本語版絵本「リトル・マーメイド」のスク립ト比較・コード化

| 展開 | コード化・抽出要素 | J (日本語版絵本 原文) | E (英語版絵本 原文) | コード化・抽出要素 |
|----|---|--|---|---|
| I | 登場人物：トリトン（人魚の王）、 アリエル（人魚姫、娘） 場面：海の底 数字：16 象徴・特徴：ダンス、散歩、あし、 人間の世界 | ふかい ふかい うみの そ こに、 にんぎよの おしろ が ありました。 にんぎよの おうさま、 トリトンの むすめの アリ エルは、十六さい。 かわいくて、 だれよりも うつくしい こえの おひめ さまでした。 アリエルは、 にんげんの せかいに、 いつも あこが れて います。 「うみの うえで、ダンス や さんぽを したいわ…。 でも、あしが なくては。」 | King Triton, the great sea king, had many daughters who loved the undersea world. But Triton's youngest daughter, Ariel, dreamed of the world above the water's surface—the world of humans. 偉大なる海の王、トリトンに は、海の中の世界を愛する娘 たちがたくさんいた。しかし、 トリトンの末娘のアリエル は、水の上の世界——人間の 世界——を夢見っていた。 | 登場人物：トリトン（海の王）、 アリエル（人魚姫、末娘） 場面：文字描写なし (挿絵により海中と分かる) 数字：末 象徴・特徴： 水の上の世界—人間の世界— →海中という言葉を使わずに、 海の底：人魚の世界 水の上：人間の世界 という対立構造を作る。 |

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| I | | | <p>Ariel and her friend Flounder liked to go to the surface to visit Scuttle the seagull. Scuttle told them all about the humans' objects that Ariel found at the bottom of the sea.</p> <p>One day Triton learned about Ariel's trips to the surface. The sea king grew very angry. He asked his friend Sebastian the crab to keep an eye on Ariel.</p> <p>アリエルと彼女の友達、フランダーは、カモメのスカットルに会うため水面に行くのが好きだった。スカットルは彼らに、アリエルが海の底で見つけた人間のものについて教えてくれた。</p> <p>ある日トリトンは、アリエルが海面まで遊びに言っているのを知ってしまった。海の</p> | <p>登場人物：アリエル（人魚）、フランダー（魚）、スカットル（カモメ）、トリトン（海の王）、セバスチャン（カニ、目付役）</p> <p>場面：水面、海底</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴：人間のもの</p> |
|---|--|--|--|---|

| | | | | |
|----|--|---|---|---|
| | | | 王はとても怒った。彼は、彼の友人のカニ、セバスチャンに、アリエルを見張るように頼んだ。 | |
| II | <p>登場人物: エリック (人間、王子)、アリエル (人魚)</p> <p>場面: 海の上、船上パーティー、海辺の国</p> <p>数字: 描写なし</p> <p>象徴・特徴: 大きな黒い影、船、パーティー、誕生日会、夢中</p> | <p>ある ひ、うみの うえを、おおきな くろい かげが とおりかかりました。</p> <p>「まあ、にんげんの ふねだわ。」</p> <p>アリエルが およいで いてみると、 ふねの うえでは にぎやかな パーティーが ひらかれて いました。</p> <p>ちょうど その ひは、うみべの くにの エリック おうじの たんじょうびだったのです。</p> <p>「なんて すてきな かたでしよう！もし、わたしが に</p> | <p>A few days later, Ariel noticed a ship sailing way up on the surface of the water. She quickly swam toward it.</p> <p>“Ariel!” Ariel! Please come back!” cried Sebastian as he and Flounder swam after her.</p> <p>数日後、アリエルは、水面を航海している船に気づいた。彼女は急いでそこに向かって泳いで行った。</p> <p>「アリエル！アリエル！たのむから戻ってきてくれ！」セバスチャンは、フランダーと共に彼女を追いかけながら叫んだ。</p> | <p>登場人物: アリエル (人魚)、セバスチャン (カニ)、フランダー (魚)、船乗り (人間)</p> <p>場面: 水面</p> <p>属性: 人魚</p> <p>数字: 描写なし</p> <p>象徴・特徴: 船、一目ぼれ</p> <p>→この時点で、英語版は人間の世界の乗り物を「船」と端的に言及するのに対し、日本語版は「黒い影」と表記するにとどまる。</p> <p>→船に乗っている人々の詳細属性にも言及。Ex.船乗り、</p> <p>→英語: love at first sight(一目ぼれ)という表現は日本語にはない。</p> |

| | | | | |
|-----|---|--|--|---|
| | | <p>んげんだったら、 おともだちに なれるのに……。」</p> <p>アリエルは、すっかり むちゆうになって、エリックおうじの すがたに みとれていました。</p> | <p>When Ariel surfaced, she saw a huge ship filled with sailors.</p> <p>Ariel's eyes lit up when she spotted the sailor the others called Prince Eric. It was love at first sight!</p> <p>アリエルが水面に上がってきたとき、彼女は船乗りたちでいっぱいの大きな船を見た。</p> <p>アリエルの目は、他の船乗りたちが「エリック王子」と呼ぶある船員を見て、輝いた。一目ぼれだった。</p> | |
| III | <p>登場人物：エリック(人間、王子)</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 稲妻、雨、木の葉など自然に関する表現が多くみられる。 また、天候の変化がアリエルとエ</p> | <p>とつぜん、そらもようがかわりました。</p> <p>いなずまが ひかり、おおつぶの あめが どうっとふって きました。</p> <p>はげしい かぜと、 おお</p> | <p>突然空が暗くなった。突然雨が降り始め雷が空を割った。船は波で激しく揺れ、王子は船の外へ投げ出されてしまった！</p> <p>Suddenly the sky</p> | <p>登場人物：エリック (王子)</p> <p>場面：海の上、海辺の国</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴：空、暗い、雷、船の外、波</p> |

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| | リックが直接接点を持つ大きなきっかけとなる。 | なみに もまれ、ふねは、このはのように ゆれます。 マストに かみなりが おちて、 エリック王子は、うみに なげだされました。 | darkened. Heavy rain began to fall, and lightning split the sky. The ship was tossed on the waves, and the prince was thrown overboard! | |
| Ⅲ | 登場人物：アリエル（人魚）、エリック（王子、人間） 場面：海の上、海の中、浜辺 数字：描写なし 象徴・特徴： 夜（ひとばんじゅう） →時間の流れがわかる表記がされている。 →浜辺での出来事について詳細表記がない →場面転換の違い王子を助ける→浜辺にたどり着く、の後、海に帰る描写が見られない | 「たいへん！おうじさまがおぼれてしまうわ！」 アリエルは、きを うしなった おうじを かかえて、ひとばんじゅう、あらしの うみを およぎつづけました。 そして、つぎの あさ、ようやく、はまべに たどりつきました。 この ときから アリエルは、おうじの ことばかりおもうように なったのです。 | “I’ve got to save him!” thought Ariel. She grabbed the drowning prince and swam to shore, pulling him onto the beach. Prince Eric did not stir as Ariel gently touched his face and sang him a love song. Soon Ariel heard the prince’s crew searching for him. She did not want to be seen by the humans, so she kissed the prince and dove back into the sea. 「私、彼を助けなきゃ！」アリエルは思った。彼女は沈み | 登場人物：アリエル（人魚）、エリック（王子、人間） 場面：海の上、浜辺、海の中 数字：描写なし 象徴・特徴： 浜辺でのアリエルの王子に対する愛情表現の描写が詳細まで描かれている。 ・王子の頬に触れる ・愛の歌を歌う：歌は後に、王子が自分を助けた人を探すきっかけとなる） ・王子にキスをする →「アリエルは人間に見られたいなかった」という表記。人魚が人間に見られてはいけない、という |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>ゆく王子をつかみ、岸まで泳いで海辺に引き寄せた。エリック王子は、アリエルがそっと彼の頬に触れ、彼に愛の歌を歌っている時目覚めなかった。</p> <p>すぐに、アリエルは王子の仲間が彼を探している声を聞いた。彼女は人間に見られたい欲がなかったので、彼にキスをし、海の中へと戻って行った。</p> | <p>描写はここで始めて出てくる。</p> |
| | | | <p>Prince Eric awoke to find Sir Grimsby, his loyal steward, at his side. Sir Grimsby was happy that Eric was alive.</p> <p>“A girl...rescued me,” said the prince. “She was singing. She had the most beautiful voice.”</p> <p>Prince Eric, too, had fallen in love.</p> | <p>登場人物：エリック（人間、王子）、グリムズビー（執事）、少女、</p> <p>場面：表記なし（挿絵から城中と判断できる）</p> <p>数字：1（世界一）</p> <p>象徴・特徴： ここで、歌が、アリエルにつながる重要な鍵であることが示される。</p> |

| | | | | |
|----|---|--|--|--|
| | | | <p>エリック王子は目覚め、となりにいた彼の王室付き執事、グリムズビー卿に気付いた。グリムズビー卿は、エリックが生きていて喜んだ。</p> <p>「ある少女が…助けてくれたんだ。」王子は言った。「彼女は歌っていた。彼女は、世界一美しい声をしていた。」</p> | |
| IV | <p>場面：海の中（挿絵より）</p> <p>登場人物：アリエル（人魚、娘）、トリトン（人魚、海の王、父）</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： にんげんのこと「など」、という表現から、トリトンの人間に対する軽蔑が読み取れる。</p> | <p>そんな アリエルを、トリトンおうは しかります。</p> <p>「にんげんのことなど、わすれるのだ。よいか！」</p> | <p>King Triton was furious when he discovered that Ariel had fallen in love with a human. He rushed to the grotto where Ariel kept her collection of humans' treasures.</p> <p>トリトン王は、アリエルが人間に恋に落ちたと知って、激怒した。彼は、アリエルが人間の宝のコレクションを保管している洞窟へと急いだ。</p> | <p>場面：海の中（挿絵より）、洞窟</p> <p>登場人物：トリトン、アリエル</p> <p>属性：人間、海の王</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 宝、コレクション、魔法の杖、 →「人間の世界と海の中の世界の間のかわり、厳しく禁じられている」という解説的描写がここに現れる。</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|-----------------|
| | | | <p>“Contact between the human world and the merworld is strictly forbidden!” Triton shouted.</p> <p>He raised his magic trident and fired bolts of energy around the cave, destroying the treasures. Then the mighty sea king left.</p> <p>Ariel buried her face in her hands and began to cry.</p> <p>「人間の世界と海の中の世界の間のかかわりは、厳しく禁じられているのだ！」トリトンは叫んだ。</p> <p>彼は魔法の杖を掲げ、洞穴じゅうの宝物を壊しながら稲妻を飛ばした。そうして、強大な海の王は立ち去った。</p> <p>アリエルは両手に顔をうずめ、泣き始めてしまった。</p> | |
| | | | Meanwhile, not far away, | 登場人物：トリトン（人魚、海の |

| | | | | |
|----|--------------------------------|----------------------------|---|---|
| | | | <p>evil forces were at work in the undersea kingdom. Ursula, the sea witch, who had tried to overthrow Triton, was looking for a way to take over. Through her crystal ball she could see Ariel crying, and an idea came to her.</p> <p>間もなく、そうはなれていないところで、海の下王国では邪悪な力が動き始めていた。かつてトリトンを倒そうとした海の魔女アースラは、仕返しをする方法を探していた。彼女の水晶玉を通して、彼女はアリエルが泣いているのを見ることができた、そしてとある考えが彼女にわいた。</p> | <p>王)、アースラ (海の魔女) 場面：海の下</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 水晶玉、邪悪な力、 →「かつてトリトンを倒そうとした」という伏線に言及。ここで、アースラの過去が初めて明らかになる。(しかし本文中ではそれ以上触れられない)</p> |
| IV | 登場人物：アリエル (人魚、お姫様)、アースラ (海の魔女) | でも、アリエルは おもいきって、うみの まじよ アー | Ursula sent her slimy eel servants, Flotsam and | 登場人物：アースラ (海の魔女)、フロストサム・ジェットサム (海 |

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>魔女 数字：3日 象徴・特徴： キス、約束、契約書、名前、声、 引き換え 英語版では、キスをしなければ一生アースラの奴隷となる、という描写がカットされている。残酷な描写のカットか。 →海の魔女アースラとの契約の前に、英語版であればセバスチャンが止めに入る</p> | <p>スラの すみかを たずねました。 「かわいい おひめさま、その きれいな こえと ひきかえに、にんげんに なれる くすりを あげよう。 みっかの うちに おうじが キスを すれば、ずっと にんげんで いられるんだよ。 キスをされなかったら、いっしょう 声のでない にんぎよさ。いいのかい？」 アリエルは、やくそくの しるしに、けいやくしよに なまえを かきました。</p> | <p>Jetsam, to Ariel's grotto. There they convinced the Little Mermaid that Ursula could help her to get her beloved prince. Ariel was so upset that she ignored Sebastian's warnings and swam off with Flotsam and Jetsam to meet with the sea witch. アースラは、彼女の slimy eel なしもべ、フロストサムとジェットサムをアリエルの洞窟まで送り込んだ。さらに、アースラなら君を助け、更には君が王子に愛されるようにすることができるよ、と説得した。アリエルはとても混乱して、セバスチャンの警告を無視してしまった。そして2匹について、海の魔女の元へと会いに</p> | <p>の魔女のしもべ)、セバスチャン(カニ、お目付役)、アリエル(人魚) 場面：海の中(挿絵より)、アリエルの洞窟、海の魔女 属性：海の魔女、王子、お嬢さん、人間 数字：2匹、3日 象徴・特徴： 警告、日没、薬、首にかけた貝殻、尾ひれ、脚、声、 →キスと引き換えに人間になれなければ、その後アースラに「仕える」という契約が示されている。 →人間と人魚の対立構造のカギとなるのが、尾ひれと脚</p> |
|--|---|--|---|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>行ってしまった。</p> <p>“My dear,” said the witch. “Here’s the deal I’ll make a portion that will turn you into a human for three days. Before the sun sets on the third day, you’ve got to get dear old princie to kiss you. If he kissed you, you’ll remain human permanently. But if he doesn’t you turn back into a mermaid and you belong to me!”</p> <p>「かわいいおじょうさん」魔女は言った。「貴方を3日間、人間にする薬を作ってあげる契約をしましょう。3日目の日が沈む前に、愛しの、忘れられない王子様にキスされなくちゃいけない。もしかれがキスしたら、永久にお前は人間だ。でも、もししなかった</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>ら、お前は人魚に戻って、そして私に仕えるんだよ！」</p> <p>In return for the potion, the witch wanted Ariel's voice.</p> <p>“My voice?” asked Ariel. “Without my voice, how can I--”</p> <p>“You’ll still have your looks, your pretty face,” replied Ursula.</p> <p>薬と引き換えに、魔女はアリエルの声をほしがった。</p> <p>「私の声？」アリエルは聞き返した。「声がなかったら、私どうやって…」</p> <p>「お前にはまだその見た目が、お前の可愛い顔があるじゃないか」。アースラは答えた。</p> <p>図17</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>After Ariel agreed to Ursula's deal, an amazing change took place. Ariel's voice flew from her body and was captured in a seashell around Ursula's neck. Ariel lost her tail, grew legs, and became a human.</p> <p>When Ariel went in search of the prince, she was helped ashore by her friends. She tried to speak to them, but no sound came out.</p> <p>アリエルがアースラとの契約にサインした後、驚くべき変化が現れた。アリエルの声は彼女の体から飛んで行き、アースラの首にかかった貝殻のなかに閉じ込められた。アリエルは尾ひれを失い、脚が</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|---|--|---|---|--|
| | | | でき、そして、人間になった。 | |
| V | <p>登場人物:アリエル(人魚→人間)、アースラ(海の魔女)、エリック(王子)</p> <p>場面:浜辺、城</p> <p>数字:描写なし</p> <p>象徴・特徴: はなす、歌う、あらしのよる、人違い</p> <p>→ここで初めて、アリエル対エリックの構図が、人魚対人間から人間対人間に変化する</p> | <p>アリエルは、アースラに こえを やって、かわりに にんげんに して もらいました。</p> <p>もう、はなす ことも、うたう ことも できませんが、こころの なかは、だいすきな エリックおうじにあえる うれしきで いっぱいです。</p> <p>あらしの よるに およぎついた はまべに すわっていると、そこへ おうじが やって きました。</p> <p>「やあ、きみの なまえは… …?まえに、どこかであったような きが するけれど… …。たぶん、ひとちがいだね。」</p> | <p>When Ariel went in search of the prince, she was helped ashore by her friends. She tried to speak to them, but no sound came out.</p> <p>アリエルが王子を探して行った時、彼女は海辺で友人達に助けられた。彼女は彼らに話しかけようとしたけれど、まったく声が出なかった。</p> <p>A short while later, Ariel saw Prince Eric. The prince had been lovesick ever since hearing her sing. At first the prince thought Ariel was the girl who had</p> | <p>登場人物: アリエル(人魚→人間)、エリック(王子)、友達</p> <p>場面:浜辺(挿絵より)、城</p> <p>数字:描写なし</p> <p>その他:歌、恋煩い、かわいそう、道場</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | <p>おうじは みぶり てぶりで しきりに はなしかける アリエルを、じぶんの おしろに つれて かえりました。</p> | <p>rescued him. But when he learned that she couldn't speak, he knew he was wrong.</p> <p>Prince Eric felt sorry for Ariel. She needed a place to stay, so he took her back to his place.</p> <p>少したって、アリエルはエリック王子を見かけた。はじめ王子は、彼女が歌うのを聞いて以来ずっと恋煩っていたアリエルが彼を救った少女だと思った。しかし、彼は彼女が話せないとわかると間違いだと思ってしまった。</p> <p>エリック王子はアリエルをかわいそうに思った。彼女は泊まる場所を必要としていたので、彼は彼女をお城まで連れて帰った。</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|-----|--|---|--|---|
| VI | <p>登場人物：アリエル（人間）、 場面：城 数字：3日、2 象徴・特徴：若い二人、約束、運悪く →英語版では、2匹がアースラの命令でボートをひっくり返した描写があるのに対し、日本語版には示されていない。運悪く、との表現に変わっている。</p> | <p>はじめて きる、ドレス。 はじめての だんすに、さんぽ。 アリエルには、なにもかもめずらしく、たのしい ことばかりです。 つぎの ひ、わかい ふたりは、なかよく ボートにのりました。 アースラとの やくそくで、みっかの あいだに キスを されれば、アリエルは、いつまでも にんげんの ままで いられるのです。 でも、おうじが キスをしようとした とき、うんわるく、ボートが ひっくりかえて しまいました。</p> | <p>Over the next two days, Prince Eric grew to like Ariel more and more. During a romantic boat ride, Eric was about to kiss Ariel when Flotsam and Jetsam overturned the boat. 次の2日間の間で、エリック王子はアリエルをどんどん好きになって行った。ロマンチックに、ボートに乗っているあいだ、まさにエリックはアリエルにキスしようとしていた時、フロットサムとジェットサムがボートをひっくり返そうとした。</p> | <p>登場人物：アリエル（人間）、エリック（王子）、フロットサム・ジェットサム（しもべ） 数字：2日 その他：ボート、キス、水晶玉</p> |
| VII | <p>登場人物：アースラ（海の魔女→若い娘） 場面：アースラの住処 象徴・特徴： 声を使って魔法をかけた、との表</p> | <p>「もう すこしで、わたしのまけだよ。ぐずぐずしてはられない。」 ふたりの 様子をうかがっていた アースラは、アリエ</p> | <p>“That was a close one. Too close,” said Ursula, who was watching in her crystal ball. “It’s time Ursula took matters into her own</p> | <p>登場人物：アースラ（海の魔女→若い女性） 数字：描写なし その他：水晶玉 →薬を調合し若い娘に変身した。</p> |

| | | | |
|---|---|---|--|
| <p>記から、ここでも声がキーワードとなっている。</p> <p>→「アリエルそっくりの」という表現から、本来はアリエルが得べき場所をアースラが意図的に奪おうとしている</p> <p>登場人物： エリック（王子）、アースラ（若い娘→花嫁）</p> <p>場面：描写なし（挿絵より城）</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： この時のアリエルに関する描写はなく、事実を淡々と伝える。</p> <p>登場人物：カモメ、ペリカン、海の仲間達、アースラ（花嫁→海の魔女）、</p> <p>場面：船の上（挿絵より）</p> <p>数字：3日目</p> <p>象徴・特徴：</p> | <p>ル そっくりの、わかい むすめに すがたを かえました。</p> <p>そして、アリエルの こえをつかって、まほうをかけたのです。</p> <p>おうじは だまされて、この むすめを はなよめにと きめました。</p> <p>はなよめの しょうたいをしった かもめや ペリカン、 うみの なかまたちが、 けっこんしきのじゃまを しよう、かけつけました。</p> <p>みっかめの ゆうがたのことです。</p> <p>おおさわぎの さいちゅうに、 アースラが 声を閉じ込めた かいがらが われて、アリエルに こえが もどってきました。</p> | <p>tentacles.” The sea witch mixed a magic potion and changed herself into a beautiful young maiden.</p> <p>「あれは危なかった。とても、あぶなかったねえ。」水晶玉で様子を見ていたアースラは言った。「アースラ様が、自ら事に当たる時が来たねえ。」海の魔女は魔法の薬を調合し、彼女自身が美しい若い女性へと変身した。</p> <p>On the morning of the third day, there was great excitement throughout the kingdom. Prince Eric was going to marry a young maiden, had used Ariel's voice to trick Eric. He now believed that the maiden was the girl who had saved him from the shipwreck.</p> <p>Poor Ariel was</p> | <p>登場人物： エリック（王子）、若い乙女、アリエル、</p> <p>場面：海辺の王国</p> <p>数字：3日目</p> <p>その他： 国中の興奮から、エリックの結婚が国民からずっと望まれていたことが明らかになる。</p> <p>→喜びに沸く陸の世界と、陸の世界でひとり悲しむアリエルの対比</p> <p>登場人物： スカットル（カモメ）、アースラ（花嫁→海の魔女）、アリエル、セバスチャン、エリック、フランダー、トリトン、海の仲間達、カモメの仲間達、</p> <p>場面：エリック王子の新しいボート</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 鏡、結婚式、計画、貝殻、こなご</p> |
|---|---|---|--|

| | | | | |
|--|---|--|--|---|
| | <p>夕方、貝殻、声、結婚式 →貝殻が割れた描写は大騒ぎの最中に割れた、に留まる。英語版では、カモメのスカットルが貝殻をつついた、との表現。</p> | | <p>heartbroken.</p> <p>3日目の朝、王国じゅうで大きな興奮があった。エリック王子が、エリックをだますためアリエルの声を使った若い乙女と結婚しようとしていた。彼は今、この乙女が彼を難破から救った少女だと信じ込んでいた。</p> <p>かわいそうなアリエルは、悲しみに打ちひしがれた。</p> <p>The wedding ceremony was to take place on Prince Eric's new boat. Scuttle flew by just as the bride passed in front of a mirror. Her reflection was that of the sea witch! Scuttle rushed off to tell Ariel and the rest of his friends.</p> <p>Sebastian quickly formed a plan. Flounder helped</p> | <p>な、海の魔女の声 →騒ぎの中で、特に海の仲間達、カモメの仲間達の活躍が描かれている。フランダール、セバスチャン、スカットルといったアリエルの仲間の関係プレーによって、アリエルが助けられるという展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、このシーンが最多の登場人物数 ・鏡には本当の姿が映る |
|--|---|--|--|---|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Ariel get out to Eric's ship. Scuttle arranged for some of his seagull friends to delay the wedding And Sebastian hurried to find King Triton.</p> <p>結婚式は、エリック王子の新しいボートで執り行われる予定だった。スカットルはちょうど花嫁が鏡の前を通りすぎたその時傍を飛んでいた。鏡に映った彼女の影は、海の魔女だったのだ！スカットルはアリエルと彼の仲間たちの元へと、伝えるべく急いだ。</p> <p>セバスチャンは急いで計画を練った。フランダーはアリエルがエリックの船に行くのを手伝った。スカットルは彼の仲間たちが結婚式の開始を遅らせるべく取り計らい、セバスチャンはトリトン王を見つけるべく急いだ。</p> <p>Prince Eric and the</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>maiden were about to be married when a flock of seagulls, led by Scuttle, swooped down on the bride. She screamed in the sea witch's voice.</p> <p>Scuttle knocked the seashell containing Ariel's voice from around the maiden's neck. The shell shattered, and Ariel's voice returned to her.</p> <p>エリック王子とその乙女は、スカットルの連れてきたカモメの群れが花嫁を急襲したとき、まさに結婚しようとしていた。彼女は海の魔女の声で叫んでしまった。</p> <p>スカットルは、乙女の首にかかっているアリエルの声が入った貝をつついた。貝は粉々に割れ、アリエルの声は彼女の元へと帰ってきた。</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|------|--|--|--|---|
| VIII | <p>登場人物： アリエル（人間→人魚）、エリック（人間）</p> <p>場面： 船上（挿絵より）</p> <p>数字：</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>嵐の晩、夕日</p> <p>ここで、アリエル対エリックの構図が、人間対人間から人魚対人間へ戻る</p> <p>→王子の言葉に対するアリエルのコメントは、日本語版にはない</p> | <p>それと どうじに、ゆうひが しずみ、アリエルは もとの にんぎょに……。</p> <p>「やっぱり そうだったのか。</p> <p>あらしの ばんに、ぼくを たすけて くれたのは、アリエル、きみだね！」</p> | <p>“It was you all the time!” said Prince Eric.</p> <p>“Oh, Eric, I wanted to tell you,” said Ariel.</p> <p>The sun disappeared over the horizon just as they were about to kiss. Ariel’s three days were up. She changed back into a mermaid. Ursula grabbed Ariel and dove off the ship.</p> <p>「ほんとうは、君がずっとそばにいてくれたんだね。」エリック王子は言った</p> <p>「ああ、エリック。伝えたかったのよ」アリエルは言った</p> <p>彼らがまさにキスしようとしたちょうどその時、太陽が地平線へ沈んでしまった。</p> <p>アリエルの3日間が終わったのだ。彼女は人魚に戻ってしまった。アースラはアリエルをつかみ、船から海へと飛び</p> | <p>登場人物： エリック王子（人間）、アリエル（人間→人魚）、アースラ（花嫁→海の魔女）、</p> <p>場面： 船上、海の中</p> <p>数字： 3日間</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>キス、地平線、太陽、日没</p> <p>→エリックの言葉に対するアリエルのコメント</p> <p>→アリエルがアースラに連れて行かれる描写は英語版特有</p> <p>また、キスをしようとした瞬間に人間に戻った、という費用きは英語版のみ。</p> |
|------|--|--|--|---|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | 出し潜ってしまった。 | |
| | | | <p>Thanks to Sebastian's warning, Triton was waiting for them at Ursula's lair. "I might be willing to make an exchange for someone better," cried Ursula.</p> <p>Triton agreed, and he became Ursula's prisoner. She now had his magic trident and control of the undersea kingdom.</p> <p>セバスチャンの警告のおかげで、トリトンはアースラの洞穴で彼らを待っていた。「あたしはもっといい誰かを、代わりにすることができそうだねえ」アースラは叫んだ。</p> <p>トリトンは賛成し、アースラの囚人となった。彼女は、今や彼の杖と、海の王国の行く</p> | <p>登場人物：セバスチャン（カニ、お目付役）、トリトン（海の王→囚人）、アースラ（海の魔女）</p> <p>属性：海の王、囚人</p> <p>場面：海の中、アースラの洞穴</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 身代わり、杖、王国の行く末、捉われの身</p> <p>ここで、これまで海の中で最強だった王トリトンが、娘の身代わりとして囚われの身になり、最も弱い立場へ変わる。</p> <p>それにとってかわり、アースラが海の王国で最強になる。</p> |

| | | | | |
|------|---|--|--|---|
| | | | 末を握っていた。 | |
| VIII | <p>登場人物：エリック（人間、王子）、アースラ（海の魔女）</p> <p>場面：海上（挿絵より）</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>陸の魔女登場人物：エリック（人間、王子）、アースラ（海の魔女）</p> <p>場面：描写なし</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>戦い、陸の王子が海の魔女を滅ぼす、陸に海を勝たせることで、陸の優位性を強調と海の王子との戦い</p> | <p>すべてを した エリックおうじは、ゆうかんに アースラと たたかいます。</p> <p>はげしい たたかいの すえ、ついに おうじは アースラを ほろぼしました。</p> | <p>All of a sudden a harpoon struck Ursula in the shoulder. Prince Eric had come to Ariel's rescue! Together they swam to the surface.</p> <p>すると、突然、アースラの肩を鉋が貫いた。エリック王子がアリエルを助けに来たのだ。彼らはともに、海面へと泳いで行った。</p> <p>Ursula followed close behind them, and she grew bigger and bigger with anger, until she rose out of the water.</p> <p>Prince Eric swam to his ship and climbed on board. He grabbed the wheel and turned the ship toward</p> | <p>登場人物：アースラ（海の魔女）、アリエル（人魚）、エリック（人間、王子）</p> <p>場面：海中、海面</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>鉋、肩、</p> <p>→エリックとアリエルがアースラから逃げる</p> <p>これまで、アリエルとアースラ、という1対1だった関係性が、2対1となり、戦いの中ではあるものの、アリエルとエリックは一緒</p> <p>登場人物：アースラ（海の魔女・邪悪な魔女）、エリック（人間、王子）、アリエル（人魚）</p> <p>場面：海中、海上</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>魔法の杖、光線、船、</p> |

| | | | | |
|----|------------------------------------|-------------------------------------|--|--|
| | | | <p>Ursula. Just as the sea witch was about to fire a deadly bolt at Ariel from the trident, the prince's ship slammed into Ursula. The evil witch was destroyed!</p> <p>アースラは彼らのすぐ後ろをついて行き、彼女は水から上がるまでに怒りでどんどん大きくなっていった。</p> <p>エリック王子は彼の船のところまで泳いで行きよじ登った。彼は舵を取り、アースラに向かって船を動かした。ちょうど海の魔女が魔法の杖からアリエルに向けて光線を放とうとした時、王子の船はアースラに突っ込んだ。邪悪な魔女は、倒されたのだ！</p> | <p>どんどん大きくなる魔女、魔女の消滅</p> <p>→アリエルがアースラの攻撃を受けそうになっていたところでエリックが助ける</p> |
| IX | 登場人物： トリトン（人魚、海の王、父）、アリエル（人魚、娘→人間） | 「むすめよ、あいを つらぬくが よい。 わしは もう、とめは し | Now that the witch was gone, Triton was freed. He rose from the sea and saw | 登場人物： トリトン（人魚、海の王）、エリック（人間、王子）、アリエル（人魚、娘→人間）、セ |

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| | <p>場面：描写なし 数字：描写なし 象徴・特徴： 愛を貫く、許し →王、姫、ではなく、父、娘の構図が現れる。 →ここでさらに再び、アリエル対エリックの構図が人間対人間へ変わる</p> | <p>ないぞ。」 トリトンおうは、アリエルをゆるし、にんげんにかえてくれました。</p> | <p>Ariel watching Prince Eric, “She really does love him, doesn’t she?”asked the sea king! Sebastian, who was nearby, nodded. “I’m going to miss her,” Triton added. Then he raised his trident and shot a magic bolt at Ariel’s tail. 今となって、魔女がいなくなったので、トリトンは自由の身になった。彼は海の底から上がってきて、アリエルがエリック王子を見ているのを見た。 「彼女は、本当に彼を、愛しているのだね？」トリトンは聞いた。 近くにいたセバスチャンは、うなずいた。 「さびしくなりそうだよ。」トリトンは加えた。そして彼</p> | <p>バスチャン（カニ、お目付役） 場面：海の上、海の底 数字：描写なし 象徴・特徴： 魔女の消滅、自由の身、尾ひれ →アリエルにではなくセバスチャンに、アリエルの王子への愛を確認する。娘の自立を認め、優しく見守る父親像</p> |
|--|---|---|---|---|


| | | | | |
|----|---|---|--|--|
| | | | は彼の杖を挙げ、魔法の光を彼女の尾ひれに向かって撃った。 | |
| IX | <p>登場人物： アリエル、エリック</p> <p>属性：人間</p> <p>場面：船上（挿絵より）</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 夢、結婚、 →エリックとの結婚を「夢」と表現するのは日本語版のみ →また、いつまでも幸せに暮らしました、という表記は日本語版のみ。</p> | <p>こうして、ゆめがかなった アリエルは、あいするエリックおうじと けっこんして、いつまでも しあわせに くらしました。</p> | <p>The Little Mermaid's tail disappeared, and once again she had legs. Ariel was now a human. Prince Eric awoke in time to see his beloved Ariel running onto the shore. He kissed her, and they were married that day. After the wedding, Prince Eric and Ariel sailed off their honeymoon to live happily ever after.</p> <p>小さな人魚の尾ひれは消え、そして再び、彼女は足を手に入れた。アリエルは、もう、人間なのだ。エリック王子は浜辺の上を岸に向かって走る愛しいアリエルに、会うべく歩いて行った。彼は彼女</p> | <p>登場人物：アリエル（人間、姫）、エリック（人間、王子）</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 尾ひれ、足、キス、ハネムーン、 →ハネムーンの描写は英語版にのみみられる →人間になったアリエルが、浜辺を「あるく」など、人間に独特の足にまつわる表現が多く描かれている</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | にキスし、彼らはその日、結婚した。結婚式の後、エリックとアリエルはハネムーンへと旅立ち、その後ずっと幸せに暮らした。 | |
|--|--|--|--|--|



添付資料②


英語版絵本「THE LITTLE MERMAID」と

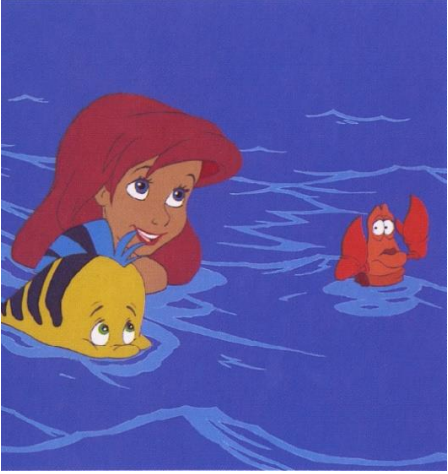

日本語版絵本「リトル・マーメイド」の挿絵比較・コード化

| 展開 | | J (日本語版絵本) | E (英語版絵本) | |
|----|--|--|--|--|
| I | <p>登場人物： トリトン(海の王)、イルカ(馬の代わり)、大勢の人魚 場面：海の中、大きなホール 数字：3 (王の三叉の槍)、5 (王冠の形)、3 (イルカの数)、4 (登場人物数) 見開きページ内での割合：約15% ページの印象：暗 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀0楽0他4 ネガティブ・ポジティブ・中間：中間 象徴・特徴： 認識できない数の人魚と対照</p> | <p>①</p>  | <p>①</p>  | <p>登場人物：アリエル(人魚)、フランダール(友達、魚)、スカットル(カモメ) 場面：水面 数字：3 (フォークの先)、3 (主要登場人物) 見開きページ内での割合：約70% ページの印象：明 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀0楽1他1 ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ 象徴・特徴： 初めのページから人間の世界のもの挿絵で示し、アリエルが人間</p> |

| | | | | |
|---|--|---|--|--|
| | 的に、イルカが引く貝殻の馬車に乗って現れるトリトンから、統治者の威厳が感じられる | | | の世界へ強い憧れを抱いていることを示唆している。 |
| I | <p>登場人物：アリエル（人魚）、セバスチャン（カニ）、フランダール（魚）</p> <p>場面：海の中、岩の椅子、差し込む一筋の光</p> <p>数字：3（登場人物数）</p> <p>見開きページ内での割合：約64%</p> <p>ページの印象：普、光</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀0楽1他1</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴： 深い海の底でアリエルのもとに差し込む一筋の光が、今後の展開を期待させる</p> | ②  | ②  | <p>登場人物：アリエル（人魚）、フランダール（友達、魚） スカットル（カモメ）</p> <p>場面：海の底</p> <p>数字：1（水面に浮かぶ船の数） 3（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約39%</p> <p>ページの印象：明</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀1楽0他1</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴： セバスチャンとフランダールは悲しみや不安に近い目をしているのに対し、アリエルのみ、船を見上げ笑顔をたたえている。</p> |

| | | | | |
|-----------|---|---|--|---|
| <p>II</p> | <p>登場人物：アリエル（人魚） 場面：海の上、海上を走る船、 夜空に満月と花火、そこにか かる雲、夜 数字：1（月）1（開いた花 火） 見開きページ内での割合：約 30% ページの印象：暗、光 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒 0哀0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中 間：ポジティブ 象徴・特徴：月明かりと花火 の中、人間の乗る船に自ら近 づいていく、自ら行動する怒 女性像表す。人魚の姿で、海か ら飛び上がっている。(海の世 界を脱しようとする暗示か)</p> | <p>③</p>  | <p>③</p>  | <p>登場人物：エリック（王子、人間）、 マックス（犬）、船員達、アリエル （人魚） 場面：船の上、 数字：3（主要登場人物）、2（水 夫） 見開きページ内での割合：約3 6% ページの印象：普 喜・怒・哀・楽・他：喜2怒0哀 0楽2他1 ネガティブ・ポジティブ・中間： 中間 象徴・特徴： 船の上で盛り上がるエリックや船 員、マックスをこっそり眺めるア リエルの様子から、人魚が人に見 られてはいけないことを示唆して いる。</p> |
| <p>II</p> | <p>登場人物：エリック（人間の 王子）、グリムズビー（人間、 世話係）、マックス（犬） 場面：船の上</p> | <p>④</p> | | |

| | | | |
|---|--|--|--|
| <p>数字：6. 5 (船員の数)、2 (主要登場人物)、1 (犬) 見開きページ内での割合：約31% ページの印象：普 喜・怒・哀・楽・他：喜3怒0哀0楽2他3 ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ 象徴・特徴： 海の世界では人魚も魚も話せるし、友達であるが、陸の世界では人間と動物は買うもの、買われるもの、という構図。</p> |  | | |
| <p>II 登場人物：アリエル (人魚)、セバスチャン (カニ)、フランダール (魚) 場面：水面 数字：3 (主要登場人物) 見開きページ内での割合：約10% 色： ページの印象：普</p> | <p>⑥</p> | | |

| | | | | |
|----------|---|--|--|--|
| | <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀1楽0他1</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：中間</p> <p>象徴・特徴： これまで登場人物の表情は皆同じが多かったが、ここで初めて、一つの事象に対して喜びと悲しみという真逆の表情が生まれる。</p> |  | | |
| <p>Ⅲ</p> | <p>登場人物：アリエル（人魚）、エリック（人間）</p> <p>場面：水面、嵐の海、夜</p> <p>数字：2（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約23%</p> <p>ページの印象：暗</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀1楽0他0</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガ</p> <p>象徴・特徴： 人魚と人間が接触する最初の</p> | <p>⑥</p>  | | |


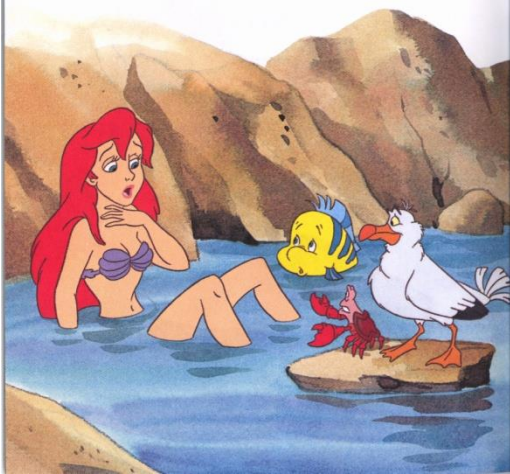
| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>シーンで、海の色が真っ黒→ その後の苦難を象徴か アリエル：話せる エリック：話せない（意識がない） ↓ 後にこの構図が逆になる。すれ違い。</p> | | | |
| <p>Ⅲ 登場人物：アリエル（人魚）、 エリック（人間） 場面：砂浜の上、昼 数字：2（主要登場人物） 見開きページ内での割合：約 45% ページの印象：普 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒 0哀0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中 間：中 象徴・特徴： 2人の全身が写っていること で、 エリック…脚がある。アリエ ルに助けられる</p> | <p>⑦ </p> | <p>④ </p> | <p>登場人物：アリエル（人魚）、エリ ック（人間） 場面：浜辺、朝 数字：2（主要登場人物） 見開きページ内での割合：約3 6% ページの印象：普 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀 0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間： 中間 象徴・特徴： 意識のないエリック⇔意識のある アリエルという関係性と、 助けたアリエル⇔助けられたアリ エル（のちに逆転する構図）が示</p> |



| | | | | |
|----------|---|--|--|--|
| | <p>アリエル…ヒレがある。エリックを助ける の構図が強調される。 また、助ける⇔助けられるの 関係は、Ⅱ－Ⅰと同様、後に 逆転する。</p> | | | <p>される</p> |
| <p>Ⅲ</p> | | | <p>⑤</p>  | <p>登場人物：エリック（人間、王子）、 グリムズビー（世話係） 場面：浜辺 数字：2（主要登場人物） 見開きページ内での割合：約3 4% 色： ページの印象：普通 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀 0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間： 中間 象徴・特徴： エリックが見つかったことを喜ぶ グリムズビーと、自分を助けた少 女のことを取りつかれたように考 える表情が対照的。</p> |

| | | | | |
|------------|---|---|--|---|
| <p>IV</p> | <p>登場人物：アリエル（人魚・娘）、トリトン（海の王、人魚、父）、エリック像（人間の作ったもの、アリエルの想い人） 場面：海の底、ほら穴 数字：3（王の槍）、3（主要登場人物）、2（人魚）、1（人間の世界のもの） 見開きページ内での割合：約30% ページの印象：暗 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒1哀1楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ 象徴・特徴： 海の王（父）と人魚姫（娘）の間に、人間の作ったものが存在する。心の壁を表す構図と考えられる。</p> | <p>⑧</p>  | <p>⑥</p>  | <p>登場人物：アリエル（人魚、娘）、トリトン（人魚、海の王） 場面：海の中 数字：3（三叉の槍）、2（主要登場人物）、 見開きページ内での割合：約82% ページの印象：普通 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒1哀1楽0他0 ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ 象徴・特徴： アリエルの宝物をトリトンがすべて破壊してしまうシーンにもかかわらず、挿絵の色合いは比較的明るい。</p> |
| <p>III</p> | <p>登場人物：アリエル（人魚）、アースラ（海の魔女・タコ） 場面：鏡越しに2人の姿が映</p> | <p>⑨</p> | <p>⑦</p> | <p>登場人物：アースラ（海の魔女、タコ）、アリエル（人魚）、フランダール（魚）</p> |

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>る</p> <p>数字：2（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約28%</p> <p>ページの印象：暗</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀0楽0他1</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：中間</p> <p>象徴・特徴： 海の魔女がタコの姿をしている。色は紫</p> <p>アースラと鏡…「真実の姿を映す」もの</p> |  |  | <p>場面：海の中、水晶玉（泡）の中</p> <p>数字：2（水晶玉の中）、1（アースラ）</p> <p>見開きページ内での割合：37.5%</p> <p>ページの印象：</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>父に宝物を壊され悲しむアリエル達の様子を、遠くから眺めにやりと笑みを浮かべるアースラ、アリエルに魔の手が迫ることを暗示している。</p> |
| <p>III</p> <p>登場人物：アリエル（人魚）</p> <p>場面：不明（コンテキストにより海中と判断される）</p> <p>数字：1（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約10%</p> <p>ページの印象：暗</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜0怒</p> | <p>⑩</p> | <p>⑧</p> | <p>登場人物：アリエル（人魚）、フロットサム・ジェットサム（アースラの手下、ウツボ）</p> <p>場面：海の底</p> <p>数字：2（オッドアイ、アースラの手下）、3（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：37.5%</p> |

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p>0哀0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ 象徴・特徴： 背景は真っ暗。契約書の光を受けてアリエル自身が金色に輝いている。 海の世界で魚の骨のペンを使うことが怪しさを醸し出す</p> |  |  | <p>色： ページの印象：暗 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀0楽2他1 ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ 象徴・特徴： フロッサム・ジェットサムのオッドアイが怪しさを際立たせる。また、細長くうねる様子は蛇（悪へとそそのかす）を連想させる。二匹でアースラの元へ誘うが、拒否権を与えない。</p> |
| | | <p>⑨</p>  | <p>登場人物：アースラ（海の魔女、タコ）、アリエル（人魚）、フロッサム・ジェットサム（魚） 場面：アースラの住処 数字：2（アースラの手下）、アースラの足（見える部分）、4（主要登場人物） 見開きページ内での割合：75% ページの印象：普通 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀</p> |

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
| | | | | <p>0 楽 3 他 1</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間： ネガティブ</p> <p>象徴・特徴： 「悪役」に属する登場人物は、アースラ・フロットサム・ジェットサム、ともに絡みつくような姿をしている。</p> |
| V | <p>登場人物：アリエル（人間）、スカットル（カモメ）、セバスチャン（カニ）、フランダー（魚）</p> <p>場面：水面、 昼</p> <p>数字：4（主要登場人物）、2（脚）</p> <p>見開きページ内での割合：約 44%</p> <p>ページの印象：明（普）</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1 怒0 哀0 楽1 他2</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴：</p> | <p>⑪</p>  | <p>⑩</p>  | <p>登場人物：アリエル（人間）、フランダー（魚）、セバスチャン（カニ）、スカットル（カモメ）</p> <p>場面：水面、浅瀬</p> <p>数字：2（脚）、4（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約 36%</p> <p>ページの印象：普通</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜0 怒0 哀2 楽0 他2</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間： 中間</p> <p>象徴・特徴： これまで、海の仲間、陸の仲間と別れていた仲間が、アリエルが人</p> |

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>表情について、 陸の世界のスカットル・アリエルはポジティブ 海の世界のセバスチャン・フランダールはネガティブ 脚を強調する、全身が映る挿絵</p> | | | <p>間になったことで集まり、チームとなっている。</p> |
| <p>V 登場人物：アリエル（人間）、エリック（人間） 場面：陸、岩の上 数字：2（主要登場人物） 見開きページ内での割合：約25% 色： ページの印象：普 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間：中間 象徴・特徴： アリエル…話せない エリック…話せる ↓ アリエルが嵐の夜にエリック</p> | <p>⑫</p>  | <p>⑪</p>  | <p>登場人物：アリエル（人間）、エリック（人間） 場面：浜辺、岩の上 数字：2（人間2人）、2（カモメ） 見開きページ内での割合：約36% 色： ページの印象：明 喜・怒・哀・楽・他： ネガティブ・ポジティブ・中間： 象徴・特徴： 人間としては初めて出会う2人の「再開」のシーン。白が多く、明るいシーンとして描かれている。また、どちらも同じ色の洋服を着ており、対等かつ同質な存在とい</p> |

| | | | | |
|----|--|---|--|----------------|
| | <p>を助けた時と逆の構図になっている。</p> <p>人間としての初めての「再開」</p> | | | う事を示唆しているともとれる |
| VI | <p>登場人物：アリエル（人間）、 エリック（人間）</p> <p>場面：城の中、夕方 テーブルに並ぶ食器を使う、</p> <p>数字：2（主要登場人物）、3 （燭台）、5（洋梨…緑2、茶色3）</p> <p>見開きページ内での割合：約 59%</p> <p>色：</p> <p>ページの印象：明</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜2怒 0哀0楽0他0</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>王子の城に招かれ、どちらも笑顔。</p> | ⑬ | | |

| | | | | |
|-----------|---|--|----------|---|
| | <p>幸せを象徴するシーン。アリエルはここで初めて、人間の世界の物に正しい使い方を知る。</p> |  <p>An illustration from Disney's 'The Little Mermaid' showing Ariel and Eric sitting at a dinner table. Ariel is on the right, wearing her signature red dress, and Eric is on the left, wearing a white shirt and dark pants. They are both looking at each other. The table is set with a white tablecloth, plates, glasses, and a basket of fruit. In the background, there is a window with a view of the ocean and a decorative lamp with two lit candles.</p> | | |
| <p>VI</p> | <p>登場人物：アリエル（人間）、エリック（人間） 場面：意見、ボートの上、昼、霧、キスをする寸前 数字：2（主要登場人物） 見開きページ内での割合：約18% 色： ページの印象：普（暗） 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀0楽0他2</p> | <p>⑭</p> | <p>⑮</p> | <p>登場人物：アリエル（人間）、エリック（人間） 場面：池、ボートの上、昼、 数字：2（主要登場人物） 見開きページ内での割合：約32% 色： ページの印象：明 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間：</p> |

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：中間</p> <p>象徴・特徴： 契約成立の鍵となる重要なシーン。アリエルが落ち着いているのに対し、エリックは恥ずかしがってなかなか行動を起こさない。</p> <p>霧の中、それまで積極的に行動を起こしていたエリックが、珍しく踏みとどまっている。</p> |  |  | <p>中間</p> <p>象徴・特徴： ガマの穂、水草、アースラとの賭けの結果を決める重要なシーンだが、とりわけ盛り上げる節もなく、あえて淡々と描かれているととれる。</p> |
| <p>登場人物：アースラ（海の魔女・タコ、人間の両方の姿）</p> <p>場面：室内、鏡に映る姿</p> <p>数字：2、1（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約25%</p> <p>ページの印象：暗</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1（2） 怒0 哀0 楽0 他0</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：普通</p> | <p>⑮</p>  | | |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | | | |
| <p>象徴・特徴： アースラが変身した美しい人間の女性の名前は明らかにされない。 天使の鏡の額に、ピンが刺されている。→邪悪さを表している。</p> | <p>⑬</p>  | <p>⑭</p>  | <p>登場人物：エリック（人間）、アースラ（海の魔女、女性）、アリエル（人間） 場面：城の中、階段 数字：3（主要登場人物）、10（階段の段数） 見開きページ内での割合：約34% ページの印象： 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀1楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間： 象徴・特徴： エリックと、彼に寄り添うアースラを、階段の遠く上の方から見つめるアリエルが、アリエルとアースラが</p> |

| | | | | |
|------------|---|---|---|--|
| | <p>印象的。 アリエルとエリックのツーショット時は、ページの印象が明るい、アースラ（人間）とエリックのツーショットは印象が暗め。 エリックの服の色は暗い色。</p> | | | <p>スラの賭けの結果を暗喩している。</p> |
| <p>VII</p> | <p>登場人物：アースラ（人間）、（以下名前のない動物）ペリカン、ザリガニ、魚 場面：船の上、アースラの邪魔をしにかもめのスカットルの仲間たちが駆けつける、夕暮れ時 数字：1（人間）、海の仲間15（ペリカン1、魚9、ザリガニ5） 見開きページ内での割合：約25% ページの印象：普（明） 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒1哀0楽3他10 ネガティブ・ポジティブ・中</p> | <p>⑬</p>  | <p>⑭</p>  | <p>登場人物：アースラ（海の魔女、人間）、スカットル（カモメ） 場面：船の中、一室、鏡の前 数字：3（登場人物の数）、見開きページ内での割合：約32% ページの印象：暗 喜・怒・哀・楽・他：喜2（1）怒0哀0楽0他0 ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ 象徴・特徴： アースラは全てがうまくいっていると考え、鏡に向かって笑うが、それをスカットルが見ていることは知らない。悪事が暴かれる、と</p> |


| | | | | |
|------------|--|--|---|---|
| | <p>間：中 象徴・特徴： アースラが表情を崩しているのと対照的に、水の仲間たちには楽しんでいる表情も見られる。</p> | | | <p>いう勧善懲悪の暗示。</p> |
| <p>VII</p> | | | <p>⑮</p>  | <p>登場人物：スカットル（カモメ）、アースラ（人間）、その他カモメ 場面：船の上、夕暮れ時、 数字：2（主要登場人物）、3（カモメ） 見開きページ内での割合：約39% 色： ページの印象： 喜・怒・哀・楽・他：喜0怒1哀0楽0他1 ネガティブ・ポジティブ・中間： 象徴・特徴： 自分の結婚相手であるはずのアースラが動物たちに攻撃されているのを、エリックは助けようとならない。（本来結婚相手が危険な目にあ</p> |

| | | | | | |
|------|---|---|--|--|---|
| | | | | <p>っていたら助けるはず。)ここからも、エリックとアースラとの結婚が、まっとうなものでないことが分かる。</p> <p>また、普段お調子者の性格を持つスカットルが、アースラと王子との結婚を阻む重要な役割を担う。</p> | |
| VIII | <p>登場人物：アースラ（巨大化した海の魔女、タコ）</p> <p>場面：海の中、水面</p> <p>数字：1（魔女）、1（船・壊れかけ）、夜</p> <p>見開きページ内での割合：約24%</p> <p>ページの印象：暗</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜0怒1哀0楽0他0</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ</p> <p>象徴・特徴： 変身していたアースラが本性を表し、トリトンから奪った三叉の槍を使って海で巨大化</p> | ⑮ |  | ⑯ | <p>登場人物：アースラ（海の魔女、タコ）、アリエル（人魚）</p> <p>場面：海の上、船の上、船から海へ、夕暮れ時</p> <p>数字：8（アースラの手・脚）、3（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約36%</p> <p>ページの印象：暗</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀2楽0他0</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ</p> <p>象徴・特徴： アリエルが賭けに負けたことでアースラは本性を現す。</p> |

| | | | | |
|------|----------------------------|--|--|---|
| | し暴れる。その邪悪さを象徴してか、空は赤黒く染まる。 | | | |
| VIII | | | <p>⑬</p>  | <p>登場人物：アースラ（海の魔女、タコ）、トリトン（海の王） 場面：海の中 数字：3（三叉の槍）、2（強大な力を持つもの）、2（主要な登場人物） 見開きページ内での割合：約32% 色： ページの印象：暗 喜・怒・哀・楽・他：喜1怒1哀0楽0他0 ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ 象徴・特徴： それまで虐げられてきたアースラが、トリトンの娘を人質に取ったことで力関係が逆転している。</p> |
| VIII | | | ⑭ | <p>登場人物：アースラ（海の魔女、タコ、巨大化）、エリック（人間、</p> |

| | | | | |
|----|--|--|---|---|
| | | |  | <p>王子)</p> <p>場面：海、船の上、</p> <p>数字：3（三叉の槍）、8（アースラの手足）</p> <p>見開きページ内での割合：約34%</p> <p>ページの印象：</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜1怒0哀0楽0他1</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ネガティブ</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>アリエルを守るため、エリックが戦う構図は、エリックを守るためアリエルが嵐の夜泳ぎ続けたのと逆の構図。</p> |
| IX | | | ⑱ | <p>登場人物：アリエル（人魚姫、娘）、トリトン（人魚、海の王、）セバスチャン（カニ）、エリック（海辺の国の王子、人間）</p> <p>場面：海辺、砂浜</p> <p>数字：3（三叉の槍）、4（主要登場人物）、5（王の冠の刺）</p> |

| | | | | |
|----|--|--|---|--|
| | | |  | <p>見開きページ内での割合：約 34%</p> <p>ページの印象：普通</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜0怒0哀1楽0他3</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>今までアリエルの思いを認めようとしなかったトリトンが、何も言わず、アリエルを見つめている。アリエルとエリックを認めようとし、また、セバスチャンはアリエルを擁護する側に回っている。</p> |
| IX | <p>登場人物：アリエル（人間）、エリック（人間）</p> <p>場面：海の上、船の上、昼</p> <p>数字：2（主要登場人物）</p> <p>見開きページ内での割合：約 46%</p> <p>ページの印象：明</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜2怒0哀0楽0他0</p> | <p>⑱</p>  | <p>⑳</p> | <p>登場人物：アリエル（人間、姫）、エリック（人間、王子）</p> <p>場面：船の上、結婚式</p> <p>数字：2（夫婦、主要登場人物）、2（空を飛ぶカモメの数）</p> <p>見開きページ内での割合：約 40%</p> <p>ページの印象：明るい</p> <p>喜・怒・哀・楽・他：喜2怒0哀0</p> |

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴： 空は晴れ、再びどちらも笑顔をたたえている</p> | |  | <p>0楽0他0</p> <p>ネガティブ・ポジティブ・中間：ポジティブ</p> <p>象徴・特徴： 陸の世界の王子と海の世界の姫が結婚し、海と陸とが一つにつながる。</p> |
|--|--|---|---|

添付資料③

英語版映画「THE LITTLE MERMAID」と

日本語版絵本「リトル・マーメイド」のスク립ト比較・コード化

| 展開 | コード化 | J (日本語版絵本) | E(英語版映画) | 展開コード化 |
|----|---|--|--|--|
| I | 登場人物：トリトン（人魚の王）、 アリエル（人魚姫、娘） 場面：海の底 数字：16 象徴・特徴：ダンス、散歩、あし、人間の世界 | ふかい ふかい うみの そこに、 にんぎょの おしろが ありました。 にんぎょの おうさま、 トリトンの むすめの アリエルは 十六さい。 かわいくて、 だれよりも うつくしい こえの おひめさまでした。 アリエルは、 にんげんの せかいに、 いつも あこがれて います。 うみの うえで、 ダンスや さんぼを したいわ……。でも、あしが なくては。 | 【①】海の描写。鳥が歌い、イルカが泳いでいる。霧の中から、波をかき分け船が現れる。 Sailors: I'll tell you a tale of the bottomless blue. And it's hey to the starboard, heave ho. Look out, lad, a mermaid be waitin' for you. In mysterious fathoms below. Eric: Isn't this great? The salty sea air, the wind blowing in your face . . . a perfect day to be at sea! Grimsby: Oh yes . . . delightful Sailor 1: A fine strong wind and a following sea. King Triton must be in | 登場人物：船乗り達、エリック（王子）、グリムズビー（王室付き執事）、タツノオトシゴ（王の家臣）、トリトン（海の王）、セバスチャン（王室付き音楽家→アリエルのお目付役）、トリトンの娘達（人魚姫、アリエルの姉達）、フランダー（魚、アリエルの友達）、スカットル（カモメ、陸の友達）、アースラ（海の魔女）、フロットサム・ジェットサム（魚、アースラの僕）、 数字： |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>a friendly-type mood. Eric: King Triton? Sailor 2: Why, ruler of the merpeople, lad. Thought every good sailor knew about him. Grimsby: Merpeople! Eric, pay no attention to this nautical nonsense. Sailor 2: But it ain't nonsense, it's the truth! I'm tellin' you, down in the depths o' the ocean they live. Sailors: Heave. ho. Heave, ho. In mysterious fathoms below.</p> <hr/> <p>【②】 タイトルの表示。海の中であらゆる種類の魚が泳いでいる。人魚たちが海中の城へと集まり、コンサートホールの中へと集まる。それに続いてファンファーレが鳴る。</p> <p>Seahorse: Ahem . . . His royal highness, King Triton! And presenting the distinguished court composer, Horatio Thelonious Ignatius Crustaceous Sebastian!</p> | <p>象徴・特徴： 展開 I のなかで、登場人物が全て出てきている。</p> <p>場面の転換</p> |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Triton: I'm really looking forward to this performance, Sebastian.</p> <p>Sebastian: Oh, Your Majesty, this will be the finest concert I have ever conducted. Your daughters – they will be spectacular!</p> <p>Triton: Yes, and especially my little Ariel.</p> <p>Sebastian: Yes, yes, she has the most beautiful voice. . . . [sotto] If only she'd show up for rehearsals once in a while. . . .</p> <p>Triton's daughters: Ah, we are the daughters of Triton. Great father who loves us and named us well: Aquata, Andrina, Arista, Atina, Adella, Allana. And then there is the youngest in her musical debut, Our seventh little sister, we're presenting her to you, To sing a song Sebastian wrote, her voice is like a bell, She's our sister, Ar-i . . .</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Triton: Ariel!!</p> <hr/> <p>【③】アリエルが沈んだ船を興味深そうに見つめる</p> <p>Flounder: Ariel, wait for me . . .</p> <p>Ariel: Flounder, hurry up!</p> <p>Flounder: You know I can't swim that fast.</p> <p>Ariel: There it is. Isn't it fantastic?</p> <p>Flounder: Yeah . . . sure . . . it - it's great. Now let's get out of here.</p> <p>Ariel: You're not getting cold fins now, are you?</p> <p>Flounder: Who, me? No way. It's just, it, err . . . it looks - damp in there. Yeah. And I think I may be coming down with something. Yeah, I got this cough.</p> <p>Ariel: All right. I'm going inside. You can just stay here and - watch for</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>sharks.</p> <p>Flounder: O.K. Yeah – you go. I’ll stay and – what? Sharks! Ariel!</p> <p>(He tries to fit through porthole.)</p> <p>Ariel . . . I can’t . . . I mean–</p> <p>Ariel help!</p> <p>Ariel: (Laughs.) Oh, Flounder.</p> <p>Flounder: (Wispering.) Ariel, do you really think there might be sharks around</p> <p>here? (Shark passes outside.)</p> <p>Ariel: Flounder, don’t be such a guppy.</p> <p>Flounder: I’m not a guppy. (Gets pulled through porthole.) This is great – I mean, I really love this.</p> <p>Excitement, adventure, danger lurking around</p> <p>every corner– AAAHHHHHHHHH!!</p> <p>Ariel!!</p> <p>Ariel: Oh, are you okay?</p> <p>Flounder: Yeah sure, no problem, I’m okay . . .</p> <p>Ariel: Shhh . . . Oh my gosh! Oh my gosh!</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Have you ever seen anything so wonderful in your entire life?</p> <p>Flounder: Wow, cool! But, what is it?</p> <p>Ariel: I don't know. But I bet Scuttle will.</p> <p>Flounder: What was that? Did you hear something?</p> <p>Ariel: Hmm, I wonder what this one is?</p> <p>Flounder: Ariel . .</p> <p>Ariel: Flounder, will you relax? Nothing is going to happen.</p> <p>Flounder: AAHHHH!! Shark!! Shark!! We're gonna die!</p> <p>Oh No!!</p> <p>(They crash through and go round and round. Flounder gets knocked silly but Ariel saves him and traps Shark)</p> <p>You big bully. THBBTTTT . . .</p> <p>(Shark snaps at him and he swims away.)</p> <p>Ariel: Flounder, you really are a guppy.</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Flounder: I am not.</p> <hr/> <p>【④】 水面へ場面が映る。カモメのスカ ットルが岩の上で鼻歌を歌い、望遠 鏡を使ってアリエルを見つける。</p> <p>Scuttle: Fourteen hundred and ninty-two...</p> <p>Ariel: Scuttle!</p> <p>Scuttle: Whoa! Mermaid off the port bow! Ariel, how you doin' kid? Whoa, what a swim!</p> <p>Ariel: Scuttle - look what we found.</p> <p>Flounder: Yeah - We were in this sunken ship, and it was really creepy...</p> <p>Scuttle: Human stuff, huh? Hey, let me see. (Picks up fork.) Look at this. Wow. - This is special. This is very, very unusual.</p> <p>Ariel: What? What is it?</p> <p>Scuttle: It's a dinglehopper! Humans use these little babies . . . to straighten their hair out. See? Just a little twirl here and a yank</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>there and violee... Ya got an aesthetically pleasing configuration of hair that humans go nuts over.</p> <p>Ariel: A dinglehopper!</p> <p>Flounder: What about that one?</p> <p>Scuttle: (Holding pipe) Ah – This I haven't seen in years. This is wonderful!</p> <p>A banded, bulbous snarfblatt.</p> <p>Ariel and Flounder: Oohhh.</p> <p>Scuttle: Now, the snarfblat dates back to prehistorical times When humans use to sit around and stare at each other all day. Got very boring. So, they invented this snarfblat to make fine music. Allow me.</p> <p>Ariel: Music?</p> <p>Scuttle: It' s stuck!</p> <p>Ariel: Oh, the concert! Oh, my gosh! My father's gonna kill me!</p> <p>Flounder: The concert was today?</p> <p>Scuttle: (Still contemplating pipe.)</p> <p>Maybe you could make a little planter</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>out of it or something.</p> <p>Ariel: Uh, I'm sorry, I gotta go! Thank you, Scuttle. (Waves.)</p> <p>Scuttle: Anytime sweetie! Anytime.</p> <hr/> <p>【⑤】 フロットサムとジェットサムが現れる。アースラが自分のすみかで、アリエルの泳ぐ姿を観察している。</p> <p>Ursula: Yes, hurry home, Princess. We wouldn't want to miss old Daddy's celebration, now, would we? Huh! Celebration indeed. Bah! In my day, we had fantastical feasts, when I lived in the palace. And now look at me. Wasted away to practically nothing – Banished and exiled and practically starving, while he and his flimsy fishfolk celebrate. Well, I'll give 'em something to celebrate soon enough. Flotsam! Jetsam! I want you to keep an extra close watch on this pretty little daughter of his. She may be the key to Triton's undoing.</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>【⑥】海の城のトリトンの王座のもとで、アリエルが怒られている。</p> <p>Triton: I just don't know what we're going to do with you, young lady.</p> <p>Ariel: Daddy, I'm sorry, I just forgot I -</p> <p>Triton: As a result of your careless behavior -</p> <p>Sebastian: Careless and reckless behavior!</p> <p>Triton: ...the entire celebration was...</p> <p>Sebastian: Well, it was ruined! That's all. Completely destroyed! This concert was to be the pinnacle of my distinguished career. Now, thanks to you, I am the laughingstock of the entire kingdom!</p> <p>Flounder: But it wasn't her fault. Ah - First, ahh, this shark chased us. - Yeah, yeah. And we tried t... But we couldn't, and he...And...</p> <p>And we... - whoa!- oh, And then we were safe. But then this seagull came.</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>And it was, this is this, and that is that, and...</p> <p>Triton: Seagull? What? You went up to the surface again, didn't you? Didn't you?</p> <p>Ariel: Nothing happened. . . .</p> <p>Triton: Oh, Ariel, How many times must we go through this? You could have been seen by one of those barbarians, by one of those humans!</p> <p>Ariel: Daddy, they are not barbarians.</p> <p>Triton: They are dangerous. Do you think I want to see my youngest daughter snared by some fish-eater's hook?</p> <p>Ariel: I'm sixteen years old. I'm not a child anymore.</p> <p>Triton: Don't you take that tone of voice with me, young lady! As long as you live under my ocean, you'll obey my rules!</p> <p>Ariel: But if you would just listen.</p> <p>Triton: Not another word! And I am</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>never, never to hear of you going to the surface again! Is that clear? (Ariel leaves, crying.) Sebastian: Hm! Teenagers. They think they know everything. You give them an inch, they swim all over you. Triton: Do you, think I was too hard on her? Sebastian: Definitely not. Why, if Ariel was my daughter, I'd show her who was boss. None of this flitting to the surface and other such nonsense. No, sir I'd keep her under tight control. Triton: You're absolutely right, Sebastian. Sebastian: Of course. Triton: Ariel needs constant supervision. Sebastian: Constant. Triton: Someone to watch over her, to keep her out of trouble. Sebastian: All the time - Triton: And you are just the crab to do</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>it.</p> <hr/> <p>【⑦】 セバスチャンが廊下を歩いている。 Sebastian: How do I get myself into these situations? I should be writing symphonies, not tagging along after some headstrong teenager. (Sees Ariel and Flounder sneaking off and follows.) Hmm? What is that girl up to? (He barely makes it into cave and sees Ariel's collection.) Huh? Flounder: Ariel, are you okay? Ariel: If only I could make him understand. I just don't see things the way he does. I don't see how a world that makes such wonderful things could be bad.</p> <hr/> <p>【⑧】 アリエルが自分の思いを歌に乗せる Look at this stuff</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Isn't it neat? Wouldn't ya think my collection's complete? Wouldn't ya think I'm the girl The girl who has ev'rything? Look at this trove Treasures untold How many wonders can one cavern hold? Lookin' around here you'd think Sure, she's got everything</p> <p>I've got gadgets and gizmos aplenty I've got whozits and whatzits galore (You want thingamabobs? I got 20) But who cares? No big deal I want more</p> <p>I wanna be where the people are I wanna see</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Wanna see 'em dancin' Walkin' around on those (What do ya call 'em?) oh Feet Flippin' your fins you don't get too far Legs are required for jumpin', dancin' Strollin' along down a... (What's that word again?) street</p> <p>Up where they walk Up where they run Up where they stay all day in the sun Wanderin' free Wish I could be Part of that world</p> <p>What would I give If I could live Out of these waters? What would I pay to spend a day Warm on the sand? Betcha on land they understand</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Bet they don't reprimand their daughters Bright young women Sick of swimmin' Ready to stand</p> <p>And ready to know what the people know Ask 'em my questions And get some answers What's a fire and why does it... (What's the word?) Burn?</p> <p>When's it my turn? Wouldn't I love Love to explore that shore up above? Out of the sea Wish I could be Part of that world</p> <hr/> <p>⑨セバスチャンが大きな物音を立て、アリエルとフランダーがその存在に気付く Ariel: Sebastian!? Sebastian: Ariel, what are you... How</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|----|--|--|--|---|
| | | | <p>could you... What is all this?</p> <p>Ariel: It' s, it' s just my collection. . . .</p> <p>Sebastian: Oh. I see. Your collection. Hmmm. If your father knew about this place</p> <p>Flounder: You' re not gonna tell him, are you?</p> <p>Ariel: Oh, please, Sebastian, he would never understand.</p> <p>Sebastian: Ariel. You' re under a lot of pressure down here. Come with me, I' ll take you home and get you something warm to drink.</p> <p>Ariel: What do you suppose?</p> <p>Sebastian: Ariel? Ariel?</p> | |
| II | <p>登場人物：エリック（人間、王子）、アリエル（人魚）</p> <p>場面：海の上、船上パーティー、海辺の国</p> <p>数字：描写なし</p> | <p>あるひ うみの うえを、おおきなくろい かげが とおりかかりました。</p> <p>「まあ、にんげんの ふねだわ。」</p> <p>アリエルが およいで いって みると、 ふねの うえでは、 にぎや</p> | <p>【①】アリエルが頭上に船を見つけ、水面へと上がってくる。花火が船の周りに打ちあがり、アリエルはそれを見て感動している。そのあとに、セバスチャンとフランダールが続いてやってくる。</p> <p>Sebastian: Ariel, what are you...</p> | <p>登場人物：セバスチャン（カニ、アリエルのお目付役）、エリック（人間、王子、スカットル（カモメ）、アリエル（人魚姫）、グリムズビー（王室付き執事）</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | <p>象徴・特徴： 大きな黒い影、船、パーティー、誕生日会、夢中→誕生日 アリエルは16歳の誕生日をきっかけに成人、エリックの誕生日で船上パーティーをしているときにアリエルはエリックに恋をする</p> | <p>かな パーティが ひらかれて いました。 「なんて すてきな 方でしょう！ もし わたしが にんげんだったら、おともだちに なれるのに……。アリエルは すっかり むちゅうになつて、 エリックおうじの すがたに みとれて いました。</p> | <p>jumpin' jellyfish! Ariel? Ariel! Please! Come back! (Ariel swims to ship and watches party until Max finds her.) 【②】船の中ではエリックが仲間たちと騒いでいる。その様子をアリエルとフランダールがこっそりと見つめる。 Eric: (Whistles.) Max! Here, boy! Hey, come on, mutt, what ya doin' , huh, Max? Come on, Max. Good boy. (Ariel sees him and is stricken.) Scuttle: Hey there, sweetie! Quite a show, eh? Ariel: Scuttle, be quiet! They'll hear you. Scuttle: Oooh, I got ya, I got ya. We're being intrepidatious. We're out to discover! (Ariel grabs his beak.) Ariel: I've never seen a human this close before. Oh - he's very handsome, isn't he? Scuttle: I don' t know. He looks kind</p> | <p>場面： 数字： 象徴・特徴： 場面の転換</p> |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>of a hairy and slobbery to me.</p> <p>Ariel: Not that one. The one playing the snarfblat.</p> <p>Grimsby: Silence! Silence! It is now my honor and privilege to present our esteemed Prince Eric with a very special, very expensive, very large birthday present.</p> <p>Eric: Ah, Grimsby - ya old beanpole, you shouldn't have.</p> <p>Grimsby: I know. Happy birthday, Eric!</p> <p>Eric: Gee, Grim. It's, it's, it's really somethin'.</p> <p>Grimsby: Yes, I commissioned it myself. Of course, I had hoped it would be a wedding resent.</p> <p>Eric: Come on, Grim, Don't start. Look, you're not still sore because I didn't fall for the Princess of Glowerhaven, are you?</p> <p>Grimsby: Oh, my Eric, it isn't me alone. The entire kingdom wants to see you happily settled down with the right girl.</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|-----|---|--|--|---|
| | | | <p>Eric: Well, she's out there somewhere. I just - I just haven't found her yet.</p> <p>Grimsbys: Well, perhaps you haven't been looking hard enough.</p> <p>Eric: Believe me, Grim, when I find her I'll know - Without a doubt, It'll Just, bam, hit me, like lightning.</p> | |
| III | <p>登場人物：エリック(人間、王子)</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 稲妻、雨、木の葉など自然に関する表現が多くみられる。 また、天候の変化がアリエルとエリックが直接接点を持つ大きなきっかけとなる。</p> | <p>とつぜん、そらもようが かわりました。</p> <p>いなずまが ひかり、おおつぶのあめが どうっと ふって きました。</p> <p>はげしい かぜと、 おおなみにもまれ、ふねは、このはのように ゆれます。</p> <p>マストに かみなりが おちて、エリック王子は、うみに なげだされました。</p> <p>たいへん！おうじさまが おぼれてしまうわ！」</p> <p>アリエルは、きを うしなったおうじを かかえて、ひとばんじゅう、あらしの うみを およぎつづけ</p> | <p>【①】突如雷が鳴り響き、空が暗くなる。</p> <p>Sailor: Hurricane a comin'!! Stand fast! Secure the riggin'!</p> <p>Scuttle: Whoa! The wind's all of a sudden on the move here!Yo! Ariel!</p> <p>Eric: Look out! Grim, hang on! (Sees Max.) Max! (Goes back to save him.)</p> <p>Jump, Max! Come on boy! Jump! You can do it, Max.</p> <p>Grimsbys: ERIC! (Ship explodes. Ariel finds Eric near drowning and pulls him away.)</p> <hr/> <p>【②】浜辺で意識のないエリックの隣にアリエルが座っている。</p> <p>Ariel: Is he dead?</p> | <p>登場人物：船乗り、スカットル(カモメ)、エリック(人間、王子)、マックス(犬)、グリムズビー(執事)、アリエル(人魚)、</p> <p>場面： 数字： 象徴・特徴： 場面の転換</p> |

| | | | | |
|--|--|---|---|--|
| | | <p>ました。 そして、つぎの あさ、ようやく、 はまべに たどりつきました。 この ときから アリエルは、おうじ の ことばかり おもうようにな ったのです。</p> | <p>Scuttle: (Opens Eric's eyelid.) It's hard to say. (Puts his ear against Eric's foot.) Oh, I - I can't make out a heartbeat.</p> <p>Ariel: No, look! He's breathing. He's so beautiful.</p> <p>What would I give to live where you are? What would I pay To stay here beside you? What would I do to see you smiling at me?</p> <p>Where would we walk Where would we run If we could stay all day in the sun? Just you and me and I could be Part of your world</p> <hr/> <p>【③】 マックスとグリムズビーがエリックに近づいてくる。</p> <p>Grimsby: Eric! Eric! You really delight in these sadistic strains on my blood pressure, don't you?</p> | |
|--|--|---|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Eric: A girl rescued me. She was singing. . . She had the most beautiful voice.</p> <p>Grimsby: Ah, Eric, I think you've swallowed a bit too much seawater. Off we go. Come along, Max.</p> <p>【④】人間を助けたことをトリトンに知られまいとするセバスチャンと、去っていくエリック達を見ながら何かが変わり始めたと歌うアリエル</p> <p>Sebastian: We just gonna forget this whole thing ever happened. The sea king will never know. You won't tell him. I won't tell him. I will stay in one piece.</p> <p>Ariel: I don't know when I don't know how But I know something's starting right now Watch and you'll see Someday I'll be</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|----|---|---|--|---|
| | | | Part of your world | |
| IV | <p>場面：海の中（挿絵より）</p> <p>登場人物：アリエル（人魚、娘）、トリトン（人魚、海の王、父）</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： にんげんのこと「など」、という表現から、トリトンの人間に対する軽蔑が読み取れる。</p> | <p>そんな アリエルを、トリトンおうはしかります。</p> <p>「にんげんのことなど、わすれるのだ。よいか！」</p> <p>でも、アリエルは おもいきって、うみの まじょ アースラの すみかを たずねました。</p> <p>「かわいい おひめさま、そのきれいな こえと ひきかえに、にんげんになれる くすりを あげよう。みっかの うちに おうじが キスを すれば、ずっと にんげんで いられるんだよ。</p> <p>キスをされなかったら、いっしょうこえのでない にんぎよさ。いいのかい？」</p> <p>アリエルは、やくそくの しるしに、けいやくしよに なまえを かきました。</p> | <p>【①】 フロットサム・ジェットサムが現れアースラが自分の住処から再びアリエルの様子を伺う</p> <p>Ursula: Oh, no, no, no, no, no, no. I can't stand it. It's too easy. The child is in love with a human. And not just any human. A prince! Her daddy will love that. King Triton's headstrong, lovesick girl would make a charming addition to my little garde.</p> <hr/> <p>【②】 城の中、アリエルの恋について姉妹たちとトリトンが話している</p> <p>Andrina: Ariel, dear, time to come out. You've been in there all morning. (Ariel emerges, singing to herself.)</p> <p>Atina: What is with her lately?</p> <p>Ariel: Morning, Daddy. (Ariel swims</p> | <p>登場人物：アースラ（タコ、海の魔女）、アンドリーナ・アティーナ（アリエルの姉、人魚）、アリエル（末娘、人魚）、トリトン（海の王、父、人魚）、セバスチャン（カニ、目付役）、フランダー（魚）、フロットサム・ジェットサム（アースラの僕）</p> <p>場面：</p> <p>数字：</p> <p>象徴・特徴：</p> <p>場面の転換</p> |

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>off.) Triton: Well! Atina: Oh, she's got it bad. Triton: What? What has she got? Andrina: Isn't it obvious, Daddy? Ariel's in love. Triton: Ariel? In love?</p> <hr/> <p>【③】セバスチャンが一人歩いている Sebastian: Okay. So far, so good. I don't think the king knows. But it will not be easy keeping something like this a secret for long.</p> <hr/> <p>【④】アリエルがエリックのことを考えながら花占いをしている。 Ariel: (Picking petals off a flower) He loves me... he loves me not. . . . He loves me! I knew it! Sebastian: Ariel, stop talking crazy. Ariel: I gotta see him again, tonight!</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Scuttle knows where he lives. Sebastian: Ariel, please! Will you get your head out of the clouds and back in the water where it belongs? Ariel: I'll swim up to his castle. Then Flounder will splash around to get his Attention. And then we'll go...</p> <hr/> <p>【⑤】セバスチャンがアリエルに海の世界の素晴らしさを歌いかける Sebastian: Down HERE is your home! Ariel, listen to me. The human world, it's a mess. Life under the sea is better than anything they got up there.</p> <p>The seaweed is always greener In somebody else's lake You dream about going up there But that is a big mistake Just look at the world around you Right here on the ocean floor Such wonderful things surround you What more is you lookin' for?</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Under the sea Under the sea Darling it's better down where it's wetter Take it from me Up on the shore they work all day Out in the sun they slave away While we devoting full time to floating under the sea</p> <p>Down here all the fish is happy As off through the waves they roll, yeah The fish on the land ain't happy They sad 'cause they in their bowl But fish in the bowl is lucky They in for a worser fate One day when the boss get hungry Guess who's gonna be on the plate</p> <p>Under the sea Under the sea</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Nobody beat us Fry us and eat us In fricassee We what the land folks loves to cook Under the sea we off the hook We got no troubles Life is the bubbles Under the sea Under the sea Since life is sweet here We got the beat here Naturally Even the sturgeon and the ray They get the urge and start to play We got the spirit You got to hear it Under the sea</p> <p>The newt play the flute The carp play the harp The plaice play the bass and they soundin' sharp The bass play the brass</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>The chub play the tub The fluke is the duke of soul (Yeah) The ray he can play The ling' s on the strings The trout' s rocking out The blackfish, she sings The smelt and the sprat They know where it' s at And, oh, that blowfish blow</p> <p>Yeah, under the sea Under the sea When the sardine Begin the beguine It' s music to me. Music is to me. What do they got? A lot of sand We got a hot crustacean band Each little clam here know how to jam here under the sea Each little slug here cutting a rug here</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>under the sea Each little snail here know how to wail here That's why it's hotter under the water Yeah, we in luck here down in the muck here Under the sea</p> <hr/> <p>【⑥】 セバスチャンは自分が歌う間にアリエルとフランダールが姿を消していたことに気づく。と同時にトリトンに使えるタツノオトシゴからセバスチャンが呼ばれる</p> <p>Sebastian: Ariel? Ariel? Oh . . . Somebody's got to nail that girl's fins to the floor.</p> <p>Seahorse: Sebastian! Sebastian, I've been looking all over for you. I've got an urgent message from the sea king.</p> <p>Sebastian: The sea king?</p> <p>Seahorse: He wants to see you right</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>away, Something about Ariel. Sebastian: He knows.</p> <hr/> <p>【⑦】 トリトンがセバスチャンにアリエルの恋の相手について問われ、人間という言葉の口にしてしまう</p> <p>Triton: Hey let's see now. Oh, who could the lucky merman be? (Notices Sebastian.) Come in, Sebastian.</p> <p>Sebastian: (Sotto) I mustn't overreact. I must remain calm. (Five octaves higher than normal) Yes?- (loco) Yes, Your Majesty.</p> <p>Triton: Sebastian, I'm concerned about Ariel. Have you noticed she's been acting peculiar lately?</p> <p>Sebastian: Peculiar?</p> <p>Triton: You know, moaning about, Daydreaming, singing to herself. You haven't noticed, hmm?</p> <p>Sebastian: Oh - well, I -</p> <p>Triton: Sebastian. . . .</p> <p>Sebastian: Hmmm?</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Triton: I know you've been keeping something from me. . . .</p> <p>Sebastian: Keeping . . . something?</p> <p>Triton: About Ariel?</p> <p>Sebastian: Ariel . . . ?</p> <p>Triton: In love?</p> <p>Sebastian: I tried to stop her, sir! She wouldn't listen. I told her to stay away from humans! They are bad! They are trouble!</p> <p>Triton: Humans? What about humans?</p> <p>Sebastian: Humans? Ho ho ho ho. . . . Who said anything about humans?</p> <hr/> <p>【⑧】 フランダーがアリエルを洞窟へと連れて行く</p> <p>Ariel: Flounder, why can't you just tell me what this is all about?</p> <p>Flounder: You'll see. It's a surprise.</p> <p>Ariel: (Sees statue of Eric.) Oh, Flounder- Flounder you're the best! It looks just like him. It even has his eyes. "Why, Eric, run away with you? This is all so, so sudden.</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>【⑨】 振り向き後ろにトリトンがいることに気付き、起こったトリトンがアリエルの集めた人間の道具の宝物を全て壊してしまう</p> <p>Ariel: Daddy?</p> <p>Triton: I consider myself a reasonable merman. I set certain rules, and I expect those rules to be obeyed.</p> <p>Ariel: But, Dad, I...</p> <p>Triton: Is it true you rescued a human from drowning?</p> <p>Ariel: Daddy, I had to...</p> <p>Triton: Contact between the human world and the mer-world is strictly forbidden. Ariel, you know that! Everyone knows that.</p> <p>Ariel: He would have died.</p> <p>Triton: One less human to worry about.</p> <p>Ariel: You don't even know him.</p> <p>Triton: Know him? I don't have to know him. They're all the same. Spineless, savage, harpooning, fish-eaters incapable of any feeling...</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Ariel: Daddy, I love him!</p> <p>Triton: No! Have you lost your senses completely? He's a human. You're a mermaid.</p> <p>Ariel: I don't care.</p> <p>Triton: So help me, Ariel, I am going to get through to you. And if this is the only way, so be it! (Begins to blast the artifacts with his trident.)</p> <p>Ariel: Daddy! No! No! Please! Daddy, stop! Daddy, stop it! Daddy, no!</p> <p>(He blasts statue. Ariel begins crying and he leaves, ashamed.)</p> <p>Sebastion: Ariel, I . . .</p> <p>Ariel: (Still crying.) Just go away.</p> <hr/> <p>【⑩】セバスチャンとフランダーが去り、フロッサムとジェットサムが現れる</p> <p>Flotsam: Poor child.</p> <p>Jetsam: Poor, sweet child.</p> <p>Flotsam: She has a very serious problem</p> <p>Jetsam: If only there were something we could do.</p> <p>Flotsam: But there is something.</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Ariel: Who...who are you? Jetsam: Don't be scared. Flotsam: We represent someone who can help you. Jetsam: Someone who can make all your dreams come true. Flotsam and Jetsam: Just imagine... Jetsam: You and your prince... Flotsam and Jetsam: Together forever. Ariel: I don't understand. Jetsam: Ursula has great powers Ariel: The sea witch? Why, that's... I couldn't possibly - No! Get out of here! Leave me alone! Flotsam: Suit yourself. Jetsam: That was only a suggestion. (砕け散ったエリックの像の顔部分をジェットサムが尾ひれではじき、アリエルのもとに飛ばす) (そのエリックの顔をアリエルは見つめる) Ariel: Wait. Flotsam and Jetsam: Yes?</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>【⑪】 洞窟の外でセバスチャンがわざと告げたのではなかったとフランダールに弁解する</p> <p>Flounder: (snif) Poor Ariel.</p> <p>Sebastian: I didn't mean to tell, it was an accident. (Ariel passes by.)</p> <p>Ariel? Where are you going? Ariel, what are you doing here with this riffraff?</p> <p>【⑫】 アースラの元へ行こうとするアリエルを止めようとするも聞かないアリエル。その後をセバスチャンが付いていき、フランダールにも一緒に来るよう指示する</p> <p>Ariel: I'm going to see Ursula.</p> <p>Sebastian: Ariel, no! No, she's a demon, she's a monster!</p> <p>Ariel: Why don't you go tell my father? You're good at that.</p> <p>Sebastian: But . . . But I . . . (To Flounder.) Come on!</p> <hr/> <p>【⑬】 フロットサム・ジェットサムに連れられてアリエルがアースラの住処へと</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>入っていき、アースラがアリエルに歌いかける</p> <p>Flotsam and Jetsam: This way.</p> <p>Ursula: Come in. Come in, my child. We mustn't lurk in doorways – It's rude.</p> <p>One might question your upbringing. Now, then. you're here because you have a thing for this human, this, prince fellow. Not that I blame you. He is quite a catch, isn't he? Well, angelfish, the solution to your problem is simple. The only way to get what you want – is to become a human yourself.</p> <p>Ariel: Can you do that?</p> <p>Ursula: My dear, sweet child. That's what I do – it's what I live for. To help unfortunate merfolk, like yourself, poor souls with no one else to turn to.</p> <p>I admit that in the past I've been a nasty</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>They weren't kidding when they called me, well, a witch But you'll find that nowadays I've mended all my ways Repented, seen the light and made a switch True? Yes</p> <p>And I fortunately know a little magic It's a talent that I always have possessed And here lately, please don't laugh, I use it on behalf Of the miserable, lonely and depressed Pathetic.</p> <p>Poor unfortunate souls In pain, in need This one longing to be thinner That one wants to get the girl</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>And do I help them? Yes, indeed Those poor, unfortunate souls So sad, so true They come flocking to my cauldron Crying. Spells, Ursula, please!" And I help them Yes, I do</p> <p>Now it's happened once or twice Someone couldn't pay the price And I'm afraid I had to rake 'em across the coals Yes, I've had the odd complaint But on the whole I've been a saint To those poor unfortunate souls</p> <hr/> <p>【⑭】 契約を促すアースラと戸惑うアリエル、それを止めさせようとするセバスタンのそれぞれの葛藤</p> <p>Now, here's the deal. I will make you a potion that will turn you into a human for three days. Got that?</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Three days. Now, listen, this is important.</p> <p>Before the sun sets on the third day, you've got to get dear old princie to fall in love with you. That is, he's got to kiss you.</p> <p>Not just any kiss, the kiss of true love. If he does kiss you before the sun sets on</p> <p>the third day, you'll remain human permanently. But if he doesn't, you'll turn back into</p> <p>a mermaid, and you belong to me!</p> <p>Sebastion: No, Ariel! (He is silenced by Flotsam and Jetsam.)</p> <p>Ursula: Have we got a deal?</p> <p>Ariel: If I become human, I'll never be with my father or sisters again.</p> <p>Ursula: That's right. But you'll have your man. Life's full of tough choices, innit? Oh – and there is one more thing. We haven't discussed the subject of payment. You can't get</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>something for nothing, you know.</p> <p>Ariel: But I don't have any...</p> <p>Ursula: I'm not asking much. Just a token, really, a trifle. You'll never even</p> <p>miss it. What I want from you is your voice.</p> <p>Ariel: My voice?</p> <p>Ursula: You've got it, sweetcakes. No more talking, singing, zip!</p> <p>Ariel: But without my voice, how can I...</p> <p>Ursula: You'll have your looks, your pretty face. And don't underestimate the</p> <p>importance of body language! Ha!</p> <p>The men up there don't like a lot of blabber</p> <p>They think a girl who gossips is a bore</p> <p>Yes, on land it's much preferred for ladies not to say a word</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>And, after all, dear, What is idle prattle for?</p> <p>Come on, they're not all that impressed with conversation True gentlemen avoid it when they can But they dote and swoon and fawn On a lady who's withdrawn It's she who holds her tongue who gets her man</p> <p>Come on, you poor unfortunate soul Go ahead, make your choice I'm a very busy woman And I haven't got all day It won't cost much, just your voice You poor, unfortunate soul It's sad, but true If you want to cross a bridge, my sweet You've got to pay the toll Take a gulp and take a breath</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|---|--------------------------------------|--|---|--|
| | | | <p>and go ahead and sign the scroll Flotsam, Jetsam, Now I've got her, boys The boss is on a roll This poor, unfortunate soul.</p> <p>【⑮】アリエルが契約にサインする。魔法がアリエルの声を喉から奪いアースラの貝の中に閉じ込める。人間になり息ができなくなったアリエルをセバスチャンとフランダーがあわてて浜辺まで運ぶ (Ariel signs contract.) Beluga, sevruga, Come, winds of the Caspian Sea. Larynxis, glossitis Et max laryngitis La voce to me! Now, sing! Ariel: (Sings.) Ursula: Keep singing!</p> | |
| V | 登場人物：アリエル（人魚→人間）、アースラ（海の魔女）、エリック（王子） | アリエルは、アースラに こえを やって、かわりに にんげんに してもらいました。 もう、はなす ことも、うたう こ | <p>【①】エリックとマックスが海辺の城の近くを歩いている Eric: (Playing flute.) That voice. I can't get it out of my head. I've looked</p> | 登場人物：アリエル（人魚→人間）エリック（人間王子）、スカットル（カモメ）、セバスチャン（カニ、目付 |

| | | | | |
|--|---|---|---|--|
| | <p>場面：浜辺、城 数字：描写なし 象徴・特徴： はなす、歌う、あらしの よる、人違い →ここで初めて、アリエ ル対エリックの構図が、 人魚対人間から人間対人 間に変化する</p> | <p>とも できませんが、こころの なか は、だいすきな エリックおうじに あえる うれしさに いっぱいです。 あらしの よるに およぎついた はまべに すわっていると、そこへ おうじが やって きました。 「やあ、きみの なまえは……？まえ に、どこかであったような きが す るけれど……。たぶん、ひとちがいだ ね。」 おうじは みぶり てぶりで し きりに はなしかける アリエルを、 じぶんの おしろに つれて かえ りました。</p> | <p>everywhere, Max. Where could she be? 【②】少し離れたところにアリエルとセ バスチャン、フランダール、スカットルが いる。アリエルは自分の足を見て感動し、 セバスチャンとフランダールはくたくたに なっている。 Scuttle: Well, look at what the catfish dragged in. Look at ya. Look at ya. There's somethin' different. Don't tell me - I got it. It's your hairdo, right? You've been usin' the dinglehopper, right? No? No, huh? Well let me see. New seashells? No new seashells. I gotta admit I can't put my foot on it right now, but if I just stand here long enough I know that I'll - Sebastian: She's got legs, you idiot! She traded her voice to the sea witch and got legs. Geez, man! Scuttle: I knew that.</p> | <p>け役)、フランダール (魚)、 マックス (犬) 数字： 象徴・特徴： 場面の転換</p> |
|--|---|---|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Flounder: Ariel's been turned into a human. She's gotta make the prince fall in love with her, and he's gotta ki- he's gotta kiss her. (Ariel tries to get up.)</p> <hr/> <p>【③】セバスチャンはアリエルを人魚に戻そうと考えつつもアリエルの幸せのために彼女を助けることを決める</p> <p>Sebastion: And she's only got three days! Just look at her! On legs! On human legs! My nerves are shot. This is a catastrophe! What would her father say?</p> <p>I'll tell you what her father'd say. He'd say he's gonna kill himself a crab!</p> <p>That's what her father'd say! I'm gonna march myself straight home right now and tell him just like I should have done the minute- (Ariel grabs him.) . . . And don't you shake your head at me, young lady. Maybe there's still time. If we could get that witch</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>to give you back your voice, you could go home with all the normal fish and just be . . . Just be . . . Just be miserable for the rest of your life. All right, all right. I'll try to help ya find that prince. Boy, what a soft shell I'm turning out to be.</p> <p>Scuttle: Now, Ariel, I'm tellin' ya if you wanna be a human, the first thing you gotta do is dress like one. Now, let me see.</p> <hr/> <p>【④】 マックスがアリエルの匂いをかぎつけアリエルのもとへ走っていく。 Eric: Max? What? Huh? What? Max! Scuttle: (Whistles.) Ya look great kid. Ya look sensational. Eric: Max . . . Max! - Quiet, Max! What's gotten into you fella?</p> <hr/> <p>【⑤】 エリックがアリエルを見つける。アリエルは彼女を自分を助けた女性であるとひらめくが、言葉を話せないアリエ</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|----|------------------------|--|--|--|
| | | | <p>ルの様子に人違いだと思い込む。かわいそうに思ったエリックが彼女を城に連れて帰る</p> <p>Eric: Oh . . . Oh, I see. Are you Okay, miss? I'm sorry if this knucklehead scared you. He's harmless, really... You . . . seem very familiar to me. Have we met? We have met. I knew it. You're the one, the one I've been looking for. What's your name? What's wrong? What is it? You can't speak? Oh. Then you couldn't be who I thought. What is it? You're hurt? No, No. You need help? Whoa, whoa, careful! - Careful, easy. Gee, you must have really been through something. Don't worry. Don't worry, I'll help you. Come on. Come on, you'll be okay.</p> | |
| VI | 登場人物：アリエル（人間）、 場面：城 | はじめて きる、ドレス。 はじめての だんすに、さんぽ。 アリエルには、なにもかも めずらし | <p>【①】城の中でアリエルは召使のカーロッタに風呂に入れられる</p> <p>Carlotta: Washed up from a shipwreck.</p> | 登場人物：カーロッタ（召使）、召使1、召使2、グリムズビー（王室付執事）、エ |

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| | <p>数字：3日、2 象徴・特徴：若い二人、 約束、運悪く →英語版では、2匹がア ースラの命令でボートを ひっくり返した描写があ るのに対し、日本語版に は示されていない。運悪 く、との表現に変わって いる。</p> | <p>く、たのしい ことばかりです。 つぎの ひ、わかい ふたりは、なか よく ボートに のりました。 アースラとの やくそくで、みっかの あいだに キスを されれば、アリエ ルは、いつまでも にんげんの まま で いられるのです。 でも、おうじが キスを しようと した とき、 うんわるく、ボートが ひっくりかえってしまいました。</p> | <p>Oh, the poor thing. We'll have you feeling better in no time. [Picks up Ariel's "dress"] I'll just - I'll just get this washed for you</p> <p>【②】アリエルについて他の召使たちが 話している。アリエルの洋服に隠れてい たセバスチャンと一緒に洗われてしま う。洗濯物が干される過程で何とかキッ チンに逃げ込む</p> <p>Woman 1: Well, you must have at least heard about this girl.</p> <p>Woman 2: No! Gertrude says . . . (Sebastion is dunked.) . . . When has Gertrude gotten anything right? I mean really.</p> <p>Sebastian: Madame, please !</p> <p>Woman1: This girl shows up in rags and doesn't speak</p> <p>Woman 2: Not my idea of a princess. If Eric's looking for a girl, I know a couple of highly available ones</p> | <p>リック (人間、王子)、ルイ (料理人)、トリトン (海の 王、人魚)、タツノオトシゴ (王の家臣)、フランダー (魚)、セバスチャン (カニ、 目付け役)、スカットル (カ モメ)</p> <p>場面： 数字： 象徴・特徴： 場面の転換</p> |
|--|--|--|---|---|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>right here . . .</p> <hr/> <p>【③】いつまでも自分を助けた少女を探し続けるエリックに、グリムズビーが良家の子女が海辺で人助けなどしていないのだから、と諭す</p> <p>Grimsby: Oh, Eric, be reasonable. Nice young ladies just don't swim around rescuing people in the middle of the ocean and then flitter off into oblivion, like some...</p> <p>Eric: I'm tellin' ya, Grim, She was real! I'm gonna find that girl, and I'm gonna marry her.</p> <hr/> <p>【④】アリエルがカーロッタに連れられて広間にはいつてくる。エリックはアリエルに見とれる。人間の道具を見たアリエルがスカットルに教えてもらった使い方をするが、その様子にエリックが大笑いする。カーロッタはエリックに、今週初めて笑顔を見た、と言葉をかける</p> <p>Carlotta: Ha Ha. Come on honey. Don't be shy.</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Grimsby: Oh, Eric, isn't she a vision? Eric: You look wonderful. Grimsby: Come, come, come. You must be famished. Let me help you my dear. There we go. That's better. Now, quite comfy? Good. It's not often that we have such a lovely dinner guest, eh Eric? (Ariel starts combing hair with a fork. They look dumbfounded and she is embarrassed. She sees pipe and brightens.) Uh, do you like it? It is rather a fine one (アリエルが葉巻を思い切り吹き込み、グリムズビーは灰で顔が真っ黒になる) Carlotta: Oh, my! Eric: Ahem, Sorry Grim. Carlotta: Why, Eric, that's the first time I've seen you smile in weeks. Grimsby: (Wiping his face.) Oh, Very amusing. Carlotta, my dear, what's for dinner? Carlotta: Oooh, you're gonna love it.</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Chef's been fixing his specialty, stuffed crab.</p> <hr/> <p>【⑤】城のキッチンでシェフのルイが歌いながら料理をしている</p> <p>Louis:</p> <p>Nouvelle cuisine Les Champs- Elysees Maurice Chevalier Les poisons, les poissons, How I love les poissons Love to chop and to serve little fish First I cut off their heads Then I pull out their bones Ah, mais oui ca c'est toujours delish Les poisons, les poissons Hee hee hee Hah hah hah With the cleaver I hack them in two I pull out what's inside and I serve it up fried</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>'Cause, I love little fishes Don't you?</p> <p>Here's something for tempting the palate Prepared in the classic technique First you pound the fish flat with a mallet Then you slash through the skin Give the belly a slice Then you rub some salt in 'Cause that makes it taste nice Zut alors, I have missed one.</p> <p>Sacrebleu, what is this? How on earth could I miss Such a sweet, little succulent crab? Quel dommage, what a loss Here we go, in the sauce Now some flour, I think, just a dab Now I' ll stuff you with bread</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>It don't hurt 'cause you're dead And you're certainly lucky, you are 'Cause it's gonna be hot in my big silver pot Toodle-oo Mon poisson, au revoir!</p> <p>【⑥】キッチンからこっそり逃げようとするセバスチャンをルイが見つかる。セバスチャンを持ち上げたルイの鼻をセバスチャンがハサミで攻撃し、それをきっかけに逃げるセバスチャンと追いかけるルイの大乱闘が始まる</p> <p>What is this?</p> <p>【⑦】キッチンでの大きな物音にカーロッタが様子を見に行く。ぐちゃぐちゃになったキッチンを見てカーロッタがルイを叱る</p> <p>Carlotta: I think I'd better go see what Louis is up to.</p> <p>Louis: Come out, you little pipsqueak,</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>and fight like a man!</p> <p>Carlotta: Louis! What are you doing?</p> <p>Louis: Well, I - I was just - er, er, I'm sorry, madame.</p> <hr/> <p>【⑧】 食事の席でグリムズビーがエリックに、翌日アリエルに街を案内するように勧める。エリックはアリエルに見とれ話を聞いていない</p> <p>Grimsby: You know, Eric, perhaps our young guest might enjoy seeing some of the</p> <p>sights of the kingdom. Something in the way of a tour.</p> <p>Eric: I'm sorry, Grim, What was that?</p> <p>Grimsby: You can't spend all your time moping about, You need to get out. Do something, Have a life. Get your mind off...</p> <p>【⑨】 テーブルに出されたグリムズビーの食事の更にセバスチャンが盛りつけられている。それに気付いたアリエルが、会話するグリムズビーとエリックに隠れて、セバスチャンを自分の皿へ来るよう</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>促す。翌日 2 人が出かけることが決まる。 Eric: Easy, Grim, Easy. (Ariel lifts her own plate cover and signals for Sebastian to hide there. Sebastian rushes across while no one is looking.) It's not a bad idea, if she's interested. Well, what do ya say? Would you like to join me on a tour of my kingdom tomorrow? (無事セバスチャンを自分の皿に移したアリエルが慌ててうなづく) Grimsby: Wonderful! Now let's eat before this crab wanders off my plate.</p> <hr/> <p>【⑨】夜、庭でマックスと戯れるエリックをアリエルが自分の部屋から見つめているが、エリックに気づかれ恥ずかしくて部屋に戻る。 Eric: Come here, boy. . . . Arrr . . . (エリックはアリエルに気付き手を振る。アリエルは手を振り返し、恥ずかしくて部屋に戻る)</p> <hr/> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>【⑩】セバスチャンがアリエルに、翌日の振る舞い方について指導するも、アリエルはすやすやと寝入っている。セバスチャンは諦め、アリエルを見て困ったように微笑む</p> <p>Sebastian: This has got to be, without a doubt, the single most humiliating day of my life. I hope that you appreciate what I go through for you, young lady.</p> <p>Now, we got to make a plan to get that boy to kiss you. Tomorrow when he takes you for that ride, you gotta look your best. You gotta bat your eyes, like this. You gotta pucker up your lips - like this. (He sees she is asleep.) Hm. You are hopeless child. You know that? Completely hopeless.</p> <hr/> <p>【⑪】海の底でトリトンが必死になってアリエルとセバスチャンを探している。トリトンは海中の者にアリエルの無事が分かるまで寝ずに探し続けることを命じ</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>る。父親としての在り方に悩むトリトン Triton: Any sign of them? Seahorse: No, Your Majesty. We've searched everywhere. We've found no trace of your daughter or Sebastian. Triton: Well, keep looking. Leave no shell unturned, no coral unexplored. Let no one in this kingdom sleep until she's safe at home. Seahorse: Yes sir. (He leaves.) Triton: Oh, what have I done? What have I done?</p> <hr/> <p>【⑫】翌朝アリエルとエリックが出かけ、アリエルは見るものすべてに感動する。二人の様子を、セバスチャン、フランダ一、スカットルがチームで伺っている。 Flounder: (As they pass water.) Has he kissed her yet? Sebastian: Not yet. Flounder: Ohh . . . (Ariel and Eric go dancing and see the town.) Shopper: Judy!</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Scuttle: Yo, Flounder! Any kissing? Flounder: No, not yet. Scuttle: Hmm. Well, they - they' d better get crackin'! (They leave town and Ariel drives, almost crashing. They end up rowing on a still lagoon in the evening.) Flounder: Move over - move your big feathers. I can't see a thing.</p> <hr/> <p>【⑬】 いつになってもキスをしない2人に業を煮やしたスカットルが、ボートに乗る2人にムードを作るべくと歌を歌う Scuttle: Nothing is happening... Only one day left, and that boy ain't puckered up once. Okay All right, this calls for a little vocal romantic stimulation. Stand back. (He flies over and sings very badly.) Eric: Wow. Somebody should find that poor animal and put it out of its misery.</p> <hr/> <p>【⑭】 スカットルの酷さに耐えきれなく</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>なったセバスチャンが水の仲間に呼びかけ、彼らとともに歌と曲を演奏する。その中でエリックに、早くアリエルにキスするよう呼びかける</p> <p>Sebastian: Geez, man, I'm surrounded by amateurs. You want something done, you've got to do it yourself. First, we got to create the mood. Percussion. . . . Strings. . . . Winds. . . . Words. . . .</p> <p>There you see her Sitting there across the way She don't got a lot to say But there's something about her And you don't know why But you're dyin' to try You wanna kiss the girl</p> <hr/> <p>【⑭】時折聞こえるセバスチャンの声に促されるようにエリックがアリエルに話しかける。途中、名前を当てようとし、セバスチャンのささやきによってアリエ</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>ルという名前であることが分かる</p> <p>Eric: Did you hear something?</p> <p>Sebastian:</p> <p>Yes, you want her Look at her, you know you do Possible she wants you too There is one way to ask her It don't take a word Not a single word Go on and kiss the girl</p> <p>Sing with me now</p> <p>Sha la la la la la My oh my Look like the boy too shy He ain't gonna kiss the girl Sha la la la la la Ain't that sad? Ain't it a shame? Too bad he gonna miss the girl</p> <p>Eric: You know, I feel really bad not</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>knowing your name. Heh – maybe I could guess. Is it, err, Mildred? Okay, no. How about – Diana? Rachel?</p> <p>Sebastian: Ariel. Her name is Ariel.</p> <p>Eric: Ariel? Ariel?</p> <p>(アリエルがうなずく)</p> <p>Eric: That's kind of pretty. Okay. Ariel. . .</p> <p>Sebastian:</p> <p>Now's your moment Floating in a blue lagoon Boy, you better do it soon No time will be better She don't say a word And she won't say a word Until ya kiss the girl</p> <p>Sha la la la la la Don't be scared You got the mood prepared Go on and kiss the girl Sha la la la la la Don't stop now</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|-----|---------------------|------------------------------------|--|---------------------------|
| | | | <p>Don't try to hide it how You wanna kiss the girl Sha la la la la la Float along And listen to the song Song say kiss the girl Sha la la la la The music play Do what the music say You got to kiss the girl You've gotta kiss the girl Why don' t you kiss the girl Go on and kiss the girl Go on and kiss the girl</p> <hr/> <p>【⑮】 エリックがアリエルにキスしようとした瞬間、フロッサム・ジェットサムによってボートが転覆させられる Eric: Whoa. Hang on - I've got ya. (Flotsam and Jetsam congratulate each other.)</p> | |
| VII | 登場人物：アースラ（海の魔女→若い娘） | 「もう すこしで、わたしの まけだよ。ぐずぐずしては いられない。」 | 【①】 アリエル達の様子を伺っていたアースラがフロッサム・ジェットサムの | 登場人物：アースラ（たこ、海の魔女）、グリムズビー |

| | | | |
|---|--|---|--|
| <p>場面：アースラの住処 象徴・特徴： 声を使って魔法をかけた、との表記から、ここでも声がキーワードとなっている。 →「アリエルそっくりの」という表現から、本来はアリエルが得るべき場所をアースラが意図的に奪おうとしている。 また、ここで、あり得るとの「契約」として本来勝ち負けのないものが、アースラの中で「勝負」という意味合いだったことが明らかになる。ここから、もともとアースラが、アリエルを幸せにするつもりがないことが明らかになる</p> <p>登場人物： エリック（王</p> | <p>ふたりの 様子をうかがっていた アースラは、アリエル そっくりの、 わかい むすめに すがたを かえました。 そして、アリエルの こえを つか つて、まほうを かけたのです。 おうじは だまされて、この むす めを はなよめにと きめました。 はなよめの しょうたいをし つた かもめや ペリカン、 うみの なかまたちが、結婚式のじゃまをし ようと、かけつけました。 みっかめの ゆうがたの ことです。 おおさわぎの さいちゅうに、 ア ースラが 声を閉じ込めた かいが らが われて、アリエルに こえが もどってきました。 それと どうじに、ゆうひが し ずみ、アリエルは もとの にんぎょに ……。</p> | <p>行動を褒め、同時にこのままアリエルを 幸せにしてなるものか、と自ら事を起こ すことを決意する Ursula: Nice work, boys. That was a close one. Too close. The little tramp! Oh, she's better than I thought. Well at this rate, he'll be kissing her by sunset for sure. Well, it's time Ursula took matters into her own tentacles. Triton's daughter will be mine! And then I'll make him writhe. I'll see him wriggle like a worm on a hook. (Laughing, she transforms into a human with Ariel's voice.)</p> <hr/> <p>【②】夜、エリックが城でフルートを吹 いている。グリムズビーが近づき、目の 前にいる生身の少女（アリエル）と結婚 することを勧める。 Grimsby: Eric? If I may say, far better than any dream girl is one of flesh</p> | <p>(王室付執事)、スカットル (カモメ)、セバスチャン (カニ、お目付け役)、エリ ック (人間、王子)、ヴァネ ッサ (人間、海の魔女)、フ ランダー (魚)、神父 (人間)</p> <p>場面： 数字： 象徴・特徴： 場面の転換</p> |
|---|--|---|--|

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>子)、アースラ (若い娘 →花嫁) 場面：描写なし (挿絵より城) 数字：描写なし 象徴・特徴： この時のアリエルに関する描写はなく、事実を淡々と伝える。</p> <p>登場人物：カモメ、ペリカン、海の仲間達、アースラ (花嫁→海の魔女)、 場面：船の上 (挿絵より) 数字：3日目 象徴・特徴： 夕方、貝殻、声、結婚式 →貝殻が割れた描写は大騒ぎの最中に割れた、に留まる。英語版では、カモメのスカットルが貝殻をつついた、との表現</p> | | <p>and blood, one warm and caring and right before your eyes. (He sees Ariel, sighs, and tosses away flute.</p> <p>【③】 ちょうどその時人間に変身したアースラ/ヴァネッサがアリエルの声で歌いながら浜辺を歩いている。エリックは魔法にかけられる。</p> <p>【④】 翌朝スカットルがアリエルのもとに飛んでくる。アリエルとエリックの結婚式が行われると勘違いし祝いの言葉を述べる。</p> <p>Scuttle: Ariel! Ariel, wake up! Wake up. I just heard the news. Congratulations, kiddo, we did it! Sebastian: What is this idiot babbling about? Scuttle: Right as if you two didn't know, huh? The whole town's buzzin' about the prince gettin' himself hitched this afternoon! You know, he's getting married! You silly</p> | |
|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>side-walker! I just wanted to wish ya luck. I'll catch ya later, I wouldn't miss it!</p> <hr/> <p>【⑤】 アリエルは喜びのあまり階段を駆け降りるがそこでエリックとヴァネッサを目にする。アリエルは悲しみのあまり走り去る</p> <p>Grimsby: Well, now, I-it appears that I was mistaken. This mystery maiden of yours does, - in fact, exist. And - and she is lovely. Congratulations, my dear.</p> <p>Eric: We wish to be married as soon as possible.</p> <p>Grimsby: Oh, Yes, of course, Eric, but, er - but these things do take time, you know.</p> <p>Eric: This afternoon, Grimsby. The wedding ship departs at sunset.</p> <p>Grimsby: Oh, oh - Very well, Eric, as you wish. (Ariel runs off crying.)</p> <hr/> <p>【⑥】 結婚式の船が出発し、アリエルはセバスチャンとフランダーに寄り添われ</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>た埠頭で号泣している</p> <p>【⑦】スカットルが鼻歌を歌いながら結婚式が行われる船に近づき、ヴァネッサの正体がアースラだと気付く</p> <p>Vanessa: What a lovely little bride I'll make. My dear I'll look divine Things are working out According to my ultimate design Soon I'll have that little mermaid And the ocean will be mine!</p> <p>Scuttle: (Seeing real Ursula in mirror.) The sea witch! Oh no! She's gonna...</p> <p>【⑧】スカットルがあわてて埠頭へ戻り、アリエル達にヴァネッサがアースラであると告げる。セバスチャンはフランダールにアリエルを船まで連れて行くように指示し、スカットルに結婚式をやめさせるよう指示する。セバスチャンはトリトンに全てを伝えに行く</p> <p>Scuttle:Ariel! Ariel! Ariel, I</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>was flying... Of course I was flying – And – I– I saw the... The watch...The witch was watching a mirror, and she was singin’ with a stolen set of pipes! Do you hear what I’m tellin’ you? The prince is marrying the sea witch in disguise!</p> <p>Sebastian: Are you sure about this?</p> <p>Scuttle: Have I ever been wrong? I mean, when it’s important?</p> <p>Flounder: What are we gonna do? (Ariel hears Ursula’s voice in her head as the sun drops.)</p> <p>Ursula: . . . Before the sun sets on the third day. (Ariel jumps in water but can’t swim well. Sebastian sends down some barrels.)</p> <p>Sebastian: Ariel, grab on to that. Flounder, get her to that boat as fast as your fins can carry you.</p> <p>Flounder: I’ll try!</p> <p>Sebastian: I gotta get to the sea king. He must know about this.</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>Scuttle: What – What about me? What about me?</p> <p>Sebastian: You! Find a way to stall that wedding!</p> <p>Scuttle: Stall the wedding. Wh– what am I? – what?– That’s it! (He flies off to rally the animals and fish.) Move it! Let’s go, we got an emergency here.</p> <p>【⑨】 船上での結婚式。マックスがヴァネッサにうなり声をあげ、ヴァネッサはそれを足蹴にする。</p> <p>Priest: Dearly beloved . . . (Flounder is pulling Ariel toward ship.)</p> <p>Flounder: Don’t worry, Ariel. ugh – we – We’re gonna make it. We’re almost there.</p> <p>Priest: Yes, do you, Eric, take Vanessa to be your lawfully-wedded wife for as long as you both shall live?</p> <p>Eric: (Under spell.) I do.</p> <p>Priest: Eh, And do you . . . Then by the power...</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|------|--|---|--|--|
| | | | <p>【⑩】スカットルの集めた鳥や魚達が結婚式の邪魔に入り、大混乱を招く。その中でアリエルの声が閉じ込められていた貝殻が、スカットルとマックスの連携攻撃によって割れ、声がアリエルに戻る</p> <p>Vanessa: Get away from me you slimy Oh, why you little... (In the struggle, the shell holding Ariel's voice it broken and it goes back to her. Eric comes out of the spell as she sings.)</p> <p>Eric: Ariel?</p> <p>Ariel: Eric.</p> <p>Eric: You - You can talk? You're the one.</p> <p>Vanessa: Eric, get away from her.</p> | |
| VIII | 登場人物：アリエル（人間→人魚）、エリック（人間） 場面：船上（挿絵より） | 「やっぱり そうだったのか。あらしの ばんに、ぼくを たすけて くれたのは、アリエル、きみだね！」 | 【①】 真実を知ったエリックはアリエルと言葉を交わしキスしようとするが、日が沈み人魚に戻ったアリエルをアースラが海に連れ去る | 登場人物：エリック（人間、王子）、アリエル（人間→人魚）、アースラ（タコ、海の魔女）、トリトン（海の王、 |

| | | | | |
|--|--|--|--|---|
| | <p>数字： 象徴・特徴： 嵐の晩、夕日 ここで、アリエル対エリックの構図が、人間対人間から人魚対人間へ戻る→王子の言葉に対するアリエルのコメントは、日本語版にはない</p> | <p>すべてを した エリックおうじは、ゆうかんに アースラと たたかいます。</p> <p>はげしい たたかいの すえ、ついに おうじは アースラを ほろぼしました。</p> | <p>Eric: It – it was you all the time. Ariel: Oh, Eric, I – I wanted to tell you. Vanessa: ERIC no! (The sun sets and Ariel becomes a mermaid.) Ursula: You're too late! You're too late! So long, lover boy. Eric: Ariel!</p> <hr/> <p>【②】アースラが、本当の狙いはアリエルでないことを明かす。 Ursula: Poor little princess – it's not you I'm after. I've a much bigger fish to...</p> <hr/> <p>【③】ちょうどその時海の中でトリトンがアースラを待ち構えアリエルの契約書を破棄しようとするが叶わない。アースラがトリトンが身代わりになる契約を持ちかけ、トリトンはそれにサインする</p> <p>Triton: Ursula, stop! Ursula: Why, King Triton! Ha ha ha – How are you?</p> | <p>人魚)、セバスチャン(カニ、目付け役) 場面： 数字： 象徴・特徴： 場面の転換</p> |
|--|--|--|--|---|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>Triton: Let her go!</p> <p>Ursula: Not a chance, Triton! She's mine now! We made a deal.</p> <p>Ariel: Daddy, I'm sorry! I - I - I didn't mean to. I didn't know!</p> <p>(Triton attacks the contract with a fierce blast from his trident, to no avail.)</p> <p>Ursula: You see? The contract's legal, binding and completely unbreakable, even for you. Of course, I always was a girl with an eye for a bargain.</p> <p>The daughter of the great sea king is a very precious commodity. But I might be willing to make an exchange for someone even better.</p> <hr/> <p>【④】 エリックが船から離れ、一人ボートを漕いで海中のアリエルを助けに向かう</p> <p>Grimsby: Eric, What are you doing?</p> <p>Eric: Grim, I lost her once. I'm not gonna lose her again!</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>【⑤】 トリトンがアースラとの契約に応じ、アリエルが助かる代わりにトリトンは犠牲になってしぼんでしまう。Ursula: Now, do we have a deal? (Triton signs contract.) Ha! It's done, then! (Ariel is released and Triton is withered as Ursula laughs.) Ariel: No! Oh, no! Sebastian: Your Majesty . . . Ariel: Daddy?</p> <hr/> <p>【⑥】 王冠と三叉の矛を手にし笑うアースラに飛びかかるアリエル。アリエルを奴隷にしようと襲いかかるアースラにエリックが攻撃する Ursula: (Picks up crown.) At last, Ariel: No. Ursula: It's mine. Ho, Ho . . . Ariel: You! You monster! Ursula: Don't fool with me ya little brat! Contract or no, I' ll blast- AAAAHH! (She is hit with a harpoon</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>thrown by Eric.) Why you little troll!</p> <hr/> <p>【⑦】 フロットサム・ジェットサムに追われるエリックをセバスチャンとフランダールが助ける。エリックを殺そうとするアースラをアリエルが妨害し、アースラはフロットサム・ジェットサムを消滅させてしまう</p> <p>Ariel: Eric! Eric, look out!</p> <p>Ursula: After him! (Flotsam and Jetsam attack.)</p> <p>Sebastian: Come on! . . .</p> <p>Ursula: Say goodbye to your sweetheart. (Ariel makes her miss Eric and blast Flotsam and Jetsam.) Babies! My poor, little poopsies.</p> <hr/> <p>【⑧】 水面でアリエルとエリックが再開 (On surface as Ursula grows beneath.)</p> <p>Ariel: Eric, you've gotta get away from here.</p> <p>Eric: No, I won't leave you.</p> <hr/> <p>【⑨】 怒りで巨大化したアースラ、空に</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>は雷がとどろき嵐になる。アースラが波を支配し、再会した二人を分かち。アースラは渦潮を生み出しそこに難破船が巻き上げられる。</p> <p>Ursula: (Now very large.) You pitiful, insignificant, fools!</p> <p>Eric: Look out!</p> <p>Ursula: Now I am the ruler of all the ocean! The waves obey my every whim!</p> <p>Ariel: Eric! (大波によってアリエルとエリックが離れ離れになる)</p> <p>Ursula: The sea and all its spoils bow to my power! (She wrecks havoc, creates a whirlpool and raises some shipwrecks.)</p> <hr/> <p>【⑩】 エリックは難破船の一つによじ登り、アリエルは渦潮の中に閉じ込められ、アースラに殺されそうになる。アリエルがアースラに殺されそうになっているとき、エリックが操縦する難破船の先端がアースラを貫き、アースラは破滅する</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|----|--|--|---|--|
| | | | <p>Ariel: Eric! (He gets on board one of the ships as Ariel falls to the bottom of the whirlpool. Ursula attempts to blast her.)</p> <p>Ursula: (Laughing wickedly.) So much for true love! (As Ursula is about to finish Ariel, Eric steers the ship into her. She is impaled and dies most horribly.</p> <hr/> <p>【⑪】 エリックは船から飛び降り必死に浜辺まで泳ぎつく。アースラに捉われていた人々は解放され、しぼんだトリトンも元通りになり、王冠と三叉の矛も戻る。</p> | |
| IX | <p>登場人物：トリトン（人魚、海の王、父）、アリエル（人魚、娘→人間）</p> <p>場面：描写なし</p> <p>数字：描写なし</p> <p>象徴・特徴： 愛を貫く、許し→王、姫、ではなく、父、</p> | <p>「むすめよ、あいを つらぬくが よい。</p> <p>わしは もう、とめは しないぞ。」</p> <p>トリトンおうは、アリエルを ゆるし、にんげんに かえて くれました。</p> <p>こう して、ゆめが かなった アリエルは、あいする エリックおうじ</p> | <p>【①】 翌朝、浜辺に横たわるエリックをアリエルが見つめる。その様子をさらに後ろから見つめるトリトンとセバスチャン。</p> <hr/> <p>【②】 トリトンはアリエルがエリックを愛していることを理解し、セバスチャンに確認する。セバスチャンはそれまでと</p> | <p>登場人物：トリトン（海の王、人魚）、セバスチャン（カニ、目付け役）、アリエル（人魚→人間）</p> <p>場面：</p> <p>数字：</p> <p>象徴・特徴： 場面の転換</p> |

| | | | | |
|--|---|-------------------------------------|---|--|
| | <p>娘の構図が現れる。 →ここでさらに再び、アリエル対エリックの構図が人間対人間へ変わる</p> | <p>と けっこうして、いつまでも しあわせに くらしました。</p> | <p>意見を変え「いつもそう言っていたように」子供たちには自由な生き方を選ばせたい、と助言する。</p> <p>Triton: She really does love him, doesn't she, Sebastian?</p> <p>Sebastian: Well, it's like "I always say," Your Majesty, children got to be free to lead their own lives.</p> <p>Triton: You "always" say that? (意見を変えたセバスチャンの言葉を繰り返し、セバスチャンは気まずそうに笑顔を返す)</p> <p>Triton: Then I guess there's just one problem left.</p> <p>Sebastian: And what's that, Your Majesty?</p> <p>Triton: How much I'm going to miss her.</p> <hr/> <p>【③】トリトンは三叉の矛を使い自らアリエルを人間に変える。 (自分の尾ひれの変化に気付いたアリエルはトリトンを見、トリトンは優しい笑顔を返す。セバスチャンは歓喜の表情を</p> | |
|--|---|-------------------------------------|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>浮かべる。海から人間の姿になったアリエルがエリックに歩み寄り、エリックはアリエルに駆け寄り抱きあげる。二人はキスを交わす)</p> <p>【④】 浜辺でキスを交わすシーンからそのまま船上結婚式のキスのシーンへと移る。カーロッタは号泣しグリムズビーのスカーフで鼻をかむ。水面には多くの人魚とイルカが顔を出し、船に向かって手を振る。</p> <hr/> <p>【⑤】 トリトンとアリエルの姉6人がアリエルを見つめる。</p> <hr/> <p>【⑥】 スカットルに連れられ空中に上がったフランダールにアリエルはキスをし、スカットルの頭をなでる。フランダールは少しさみしそうにアリエルに手を振り、スカットルはアリエルにウインクをする。</p> <hr/> <p>【⑦】 ウェディングケーキの上に載せられたアリエルとエリックを模した飾りを</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>抱きしめながらセバスチャンはうれし泣きをしている。</p> <hr/> <p>【⑧】 ケーキの上のセバスチャンをシェフのルイがを見つけ、船上で追いかけてこが始まる。船の滑車にかかるロープをセバスチャンが自らのハサミで切り、マストの丸太の一つがルイに向かって落ちてぶつかり、ルイは倒れる。</p> <hr/> <p>【⑨】 ルイをやっつけたセバスチャンは勝ち誇った様子で海にいるフランダートスカットルの元へと戻る。スカットルがセバスチャンの頭をなでる。 Sebastian: Yes! Thank you. Thank you.</p> <hr/> <p>【⑩】 アリエルが船の縁に寄り、トリトンが水面から上がってきて、抱擁を交わす。その後ろでアリエルを待つエリックがトリトンに礼をし、トリトンも会釈を返す。 Ariel: I love you, Daddy.</p> | |
|--|--|--|--|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>【⑪】 アリエルはトリトンに投げキスを送り、トリトンは海へ戻る。背後では過去にアリエルが歌っていた歌と同じメロディーに乗せて、歌詞を変えた歌が流れる</p> <p>BGM :</p> <p>Now we can walk Now we can run Now we can stay all day in the sun Just you and me And I can be Part of your world.</p> <hr/> <p>【⑫】 BGM の流れる中、アリエルとエリックが腕を組み、顔を見合わせ、海の仲間達に向かって手を振る。</p> <hr/> <p>【⑬】 船が再び動き出し、娘達に囲まれたトリトンが三叉の矛で空に七色の虹をかける</p> <hr/> <p>【⑭】 再び出発する船と、それを祝福し</p> | |
|--|--|--|---|--|

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | | | <p>水面に顔を出す人魚達</p> <hr/> <p>【⑮】空にかかる虹、祝福する人魚たちを、トリトン、フランダール、セバスチャンが顔を見合せながら眺める</p> <hr/> <p>【⑯】アリエルとトリトンがキスを交わし、アリエルのティアラが輝く。</p> <p>THE END</p> | |
|--|--|--|---|--|

添付資料④聞き取り調査詳細 講談社ディズニー出版事業局ディズニー出版部

- ① 平成25年7月10日
株式会社講談社 ディズニー出版事業部に電話にて問い合わせ
担当者に研究内容をお伝えし、著者 森はるな氏に取材を申し込む。返答待ち。
- ② 平成25年7月23日
同社ディズニー出版事業部、ディズニー出版部より電話、
著者 森はるな氏に取材が出来ることになる。
- ③ 平成25年8月～10月
担当者との連絡がつかなくなる。（後に、人事異動によるものと判明。）
- ④ 平成25年10月20日
再度、同社ディズニー出版事業部、ディズニー出版部に電話、
担当者変更のため、再び初めから事情を説明することに。
- ⑤ 平成25年11月7日
同社ディズニー出版事業部、ディズニー出版部に、本研究概要及び取材申し込みの手紙
を送付
- ⑥ 平成25年11月12日
同社ディズニー出版事業部、ディズニー出版部より書面にて返信あり。
詳細は後述を参照。
- ⑦ 平成25年11月12日
同社ディズニー出版事業部、ディズニー出版部に電話調査。
結果、絵本に使われている素材は全て、ウォルト・ディズニーが指定したものから使っ
ており、講談社ディズニー出版事業部、ディズニー出版部には自由に取捨選択する権利
がないことが分かる。
また、素材を指定している部署は、
ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）
ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパン であると情報をいただく。
※なお、次ページにおける紙面回答をいただくに至った質問事項は、私信に近い形での質
問表を用いた調査、および電話調査であるため、回答のみ掲載する。

富樫 愛様

お送り頂きました、卒業論文構想を拝読いたしました。

その結果として、この取り上げて頂いている『ディズニースーパーゴールド絵本 リトル・マーメイド』は、仮説を証明するためには、ふさわしい条件を備えていないと思っています。

この本を製作するにあたって、まずは、ディズニー社から映画シーンの素材を提供されてから、製作します。つまり、たとえ映画で見て使いたいシーンがあったとしても、素材としてない場合は、使えないこととなります。そういう制約の中で、作られていきます。つまり、手元の制約ある素材で構成していますので、ほとんど日本独自の文化的要素を加味して、構成しているとはいえないと考えております。

ご協力できなくて大変申し訳ありません。お送り頂いた文書は、返却させていただきます。ご理解のほどよろしく願いいたします。

講談社 ディズニー出版部

添付資料⑤聞き取り調査

ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）

ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパン

① 平成 25 年 11 月 12 日

講談社からの情報を受け、ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）総合問い合わせ口に電話。ビジネス部門宛てに連絡を取るよう指示を受ける。

② 平成 25 年 11 月 12 日

ウォルト・ディズニー・ジャパン（株）ビジネス部門問い合わせ口に電話、研究テーマなどを伝え、講談社当てに取捨選択をした素材を渡している部署が、ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパンであることを確認。取材を申し込む。
返答待ち。

③ 平成 25 年 11 月 16 日

返答の電話が来なかったため、ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパンに書面にて、取材を申し込む。

④ 平成 25 年 11 月 20 日

ディズニー・パブリッシング・ワールドワイド・ジャパンより宅急便が届く。
詳細については後述。同社は、関係のある企業以外とは一切やりとりを禁じられているとのこと。

※なお、次ページにおける紙面回答をいただくに至った質問事項は、私信に近い形での質問表による調査および電話調査であるため、回答のみ掲載する。



Disney Publishing Worldwide

慶應義塾大学
総合政策学部
富樫 愛様

拝啓 貴方の卒業論文構想を書留にて本日受領致しました。
大変申し訳ありませんが、社内規定により、弊社とお取引のない社外企業様
や個人の方より、アイデアを含むあらゆるものを受領することが禁止され
ておりますため、受領しました封書は開封せずに返送させていただきます。
大変失礼とは存じますが、ご了承いただけますようお願い申し上げます。
末筆ではありますが、貴方の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

2013年11月20日
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
DPWJ
縄 香織
〒153-8922
東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー